

| 科目名 | エリア・スタディーズA | | | | | | |
|---|---|------------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 鴨野 洋一郎 | | | | | | |
| 科目No. | 121222000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 ヨーロッパの南に位置する「長靴の国」イタリアは、ローマ帝国や中世の都市国家が繁栄した古い歴史をもち、その歴史が色濃く残る景観は世界中の観光客をひきつけています。私たちにもなじみ深い国であるが、ニュースで取り上げられるヨーロッパの国はイギリスやドイツ、フランスが中心で、今のイタリアを知る機会は意外にも少ない。この授業では、イタリアの現在の姿について、政治・経済・社会の観点から丁寧に学んでいく。この授業を通じ、長い歴史を経て成熟しつつも、さまざまな問題を抱えて奮闘する今日のイタリアを知ることになるだろう。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 1-1 【専門分野の知識・技能】、D P 3-1 【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)、D P 4-1 【表現力、発信力】を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①現代イタリアの政治を歴史とともに学び、それが抱える問題について理解する。 ②現代イタリアの経済構造を学び、経済におけるさまざまな課題について理解する。 ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 第I部 現代イタリアの政治① —イタリア統一から現代まで— ・統一後、イタリアの政治機構が整備されてきた状況について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 第I部 現代イタリアの政治② —政治のしくみ— ・イタリアの憲法や議会、直接民主主義について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 第I部 現代イタリアの政治③ —近年の政治の混迷— ・戦後の政治体制が崩壊したのちの政治の混迷について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第6回 | 第II部 現代イタリアの経済① —イタリア＝モデル— ・中小企業を中心とするイタリアの経済構造について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 第II部 現代イタリアの経済② —南北格差と地下経済— ・イタリア経済の問題である南北格差と地下経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 第II部 現代イタリアの経済③ —E Uとの関係— ・イタリアとE Uとの関係および緊縮財政について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第10回 | 第III部 現代イタリアの社会① —移民、格差、社会保障— ・イタリアの社会が抱えるさまざまな問題について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 第III部 現代イタリアの社会② —家族のあり方— ・イタリアの特徴的な家族像およびその変化について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 第III部 現代イタリアの社会③ —一人ひとりの暮らし— ・人ひとりの日々の生活について、さまざまな観点から学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

- ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。

〔成績評価の方法〕

小レポート（2回：各15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①現代イタリアの政治を歴史とともに知っており、それが抱える問題について説明できる。
- ②現代イタリアの経済構造を知っており、経済におけるさまざまな課題について説明できる。
- ③現代イタリアの社会を移民や家族などの観点から、その問題点とともに説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | エリア・スタディーズB | | | | | | | | | | | |
|---|----------------|-------------|---|----------------------------|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 清水 政行 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121222100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、経済発展論的な視点から東アジア経済を分析し、その特徴を考察することによって東アジアの発展のダイナミズムに迫っていく。「なぜ東アジアは経済的に発展しているのか」をテーマに、そのメカニズムや要因を分析することで東アジア地域に対する経済的理解を深めることを目指す。授業では、各回のテーマを決めて関連するデータや具体的なモデルを取り上げながら学習を進める。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 東アジア地域はどうして経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。 2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | なぜ東アジアなのか？ | | | 配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第2回 | 東アジアと経済成長 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第3回 | 東アジアと人口問題 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第4回 | 東アジアと直接投資 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第5回 | 東アジアと国際金融 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第6回 | 東アジアと自由貿易 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第7回 | 東アジアと環境汚染 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第8回 | 東アジアと経済制度 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第9回 | 東アジアと政治体制 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第10回 | 日本の経済発展 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第11回 | NIES の経済発展 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第12回 | 中国の経済発展 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第13回 | ASEAN 主要国の経済発展 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第14回 | ASEAN 後発国の経済発展 | | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | |

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。

1. 東アジア地域はどうして経済的に発展しているのか、そのメカニズムや要因について分析することができる。
2. 東アジア経済がどのような発展経路をたどって現在に至ったのか、将来の展望も含めて考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初級ミクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。

〔テキスト〕

大野健一・桜井宏二郎・大橋英夫・伊藤恵子『新・東アジアの開発経済学』有斐閣 2024年 (2,420円+税)

〔参考書〕

大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』有斐閣 1997年 (2,000円+税) ※購入の必要なし

デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第2版』ピアソン桐原 2010年 (4,000円+税) ※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 文化と経済（欧米世界） | | | | | |
|---|---------------------------------------|-------------|---|---|-----|------|------------|
| 教員名 | | 志賀 俊介 | | | | | |
| 科目No. | 121222200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 ヒップ・ホップ、ロック、R&B…、今日私たちは様々なジャンルの音楽を聴いています。そのポピュラー音楽のルーツに思いをめぐらすとき、アメリカの音楽史を抜きにして考えることはできません。そしてそれは、アメリカの政治や経済、あるいはイデオロギーといった多様な要因が絡む社会的背景と切り離せないものです。本講義では、アメリカのポピュラー音楽の歴史を概観しながら、様々なジャンルの音楽がいかに時代の中で生まれたのか、あるいは時代を駆動させたのかについて考えます。たとえばそこには、アメリカが抱える奴隸制から始まる黒人差別の歴史から、黒人によって生み出されたとされるブルースの誕生が含まれるでしょう。一方で、本来「心の声」としての表現手段であった音楽の発展は、音楽ビジネスを含む資本主義経済と無縁ではないはず、それは経済大国アメリカの発展と密接に結びついています。音楽の発展と受容について、アメリカを中心としつつ、時にはそれ以外の国や地域との関連も視野に入れ、商業的側面と芸術的側面から考察します。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 この講義のDPは以下の通りです。 ・DP 1（専門分野の知識・技能）：アメリカの歴史や音楽史を学ぶ。 ・DP 2（教養の習得）：アメリカの歴史や音楽史に関連する音楽や映像作品などに触ることで、経済などの社会背景と人々との関連について考察することができる。 ・DP 3（課題の発見と解決）：アメリカの歴史や音楽史に関する調査を行い、それらを分析し、自分なりの考え方へと発展させることができる。 ・DP 4（表現力、発信力）：得た知識や自分の考え方をまとめた上で、的確かつ明瞭に発信することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | イントロダクション | | | 【予習】シラバスを確認し、講義予定を把握する 【復習】授業内容を確認する | | | 60分 |
| 第2回 | 白と黒の境界を越えて：擬態のミンストレル・ショウ | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第3回 | 希望の歌としての宗教音楽：スピリチュアル、ゴスペル | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第4回 | 「哀しみ」の音楽：ブルースとその商業化 | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第5回 | 狂騒の1920年代：アメリカの好景気とスwing・ジャズ | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第6回 | ホットからクールへ：ビ・バップ、モダン・ジャズ | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第7回 | 「若者」の音楽：大西洋を越えるロックンロール | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第8回 | 激動の時代の声：1960年代とフォーク | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第9回 | モータウンの勃興：ソウル、ファンク、R&B | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第10回 | 反抗と商業主義の狭間で：ハード・ロック、グランジ・ロック | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第11回 | ストリートからメイン・ストリームへ：ヒップ・ホップの隆盛 | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第12回 | アジア文化の受容（1）：K-Popのアメリカ進出 | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第13回 | アジア文化の受容（2）：“City Pop”としてのJ-Popの「再発見」 | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す | | | 60分 |
| 第14回 | まとめ | | | 【予習】授業で扱うテーマについて、時代背景や文化等を調べる 【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す／期末レポートを執筆する | | | 60分 |

〔授業の方法〕

基本的にはスライドを用いながら、講義形式で授業を行います（履修人数によってはディスカッションを取り入れます）。適宜、内容に合わせて音楽や映像作品を使います。毎回の授業について、CoursePower 上で授業レポートを提出してもらい、学期末に合算して平常点に組み込みます。また、学期中に数回、授業内容についての確認を目的とした小テストを行います。

〔成績評価の方法〕

以下を総合して評価します。

- ・平常点（授業への参加状況、毎回の授業レポート）：50%
- ・小テスト：10%
- ・期末レポート：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

「到達目標」に照らし合わせて評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

アメリカ史や音楽についての基本的な知識があることが望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

特にありません。

〔参考書〕

大田和俊之. 『アメリカ音楽史——ミンストレル・ショウ、ブルースからヒップホップまで』. 講談社, 2011年.

バーダマン, ジェームス M. 『はじめてのアメリカ音楽史』. ちくま新書, 2018年.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 文化と経済（アジア世界） | | | | | |
|--|--|--------------|---|--|-----|------|------------|
| 教員名 | | 挾本 佳代 | | | | | |
| 科目No. | 121222210 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 テーマ：絹織物という文化とその経済を考える この授業では、日本国内における絹織物をめぐる文化と経済を展開していきます。 単に、絹織物に関するある事象がいつ起きたのかという歴史だけにこだわるのではなく、絹織物産業の発展によってモノの流れがどのように変化し、社会にどのような影響を及ぼしていったのか、ライフスタイルがどのような変化を遂げたのか——に注目をしていきます。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P1（専門分野の知識・技能）、D P3（課題の発見と解決）、D P4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①明治期の殖産興業であった製糸業の背景とその実態はどのようなものだったのかについて、明確に理解することができる。 ②絹織物の誕生が人間社会にどのような影響を及ぼしたのかを明確に分析し、理解し、提示することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。 | | | 【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。 | | | 60 |
| 第2回 | 絹織物、生糸、製糸の起源／神話（1） ・絹織物、生糸、製糸の製造工程について解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第3回 | 絹織物、生糸、製糸の起源／神話（2） ・絹織物、蚕にまつわる神話について解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第4回 | 国内における養蚕業と桑栽培の推移 ・養蚕業と桑栽培の関連性とその生産推移について解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第5回 | 横浜開港と蚕糸業の発展（1） ・横浜港開港までの歴史を解説する。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第6回 | 横浜開港と蚕糸業の発展（2） ・横浜港開港以降の蚕糸業との関連性、発展経緯を解説する。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 90 |
| 第7回 | 中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。 | | | 【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第8回 | 富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（1） ・明治期の殖産興業の中心地としての富岡製糸場を解説する。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第9回 | 富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（2） ・海外技術者による製糸技術の伝播、国内独自の生産体制を編み出すまでの過程について解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第10回 | 富岡製糸場を基軸とした製糸技術の発展（3） ・世界遺産としての富岡製糸場および絹産業遺産群の価値について解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第11回 | 世界恐慌、他国人の人絹工業からの影響（1） ・世界恐慌によっていかに国内製糸業が打撃を受けたかについて解説をする。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第12回 | 世界恐慌、他国人の人絹工業からの影響（2） ・世界的にも質の高い製糸業の中心地であった富岡製糸場が、人絹工業によって浸食されていく過程を解説する。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第13回 | 化学繊維、化学染料の発展 ・戦後、天然繊維である絹が下火になり、化学繊維と化学染料が発展していく過程を解説する。 | | | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 |
| 第14回 | 総括 ・国内養蚕業・絹織物業のいまを解説する。 ・絹織物という文化と経済を考える。 | | | 【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 120 |

| |
|--|
| <p>〔授業の方法〕</p> <p>基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。</p> <p>随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。</p> <p>上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。</p> <p>なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none">・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 |
| <p>〔成績評価の方法〕</p> <p>随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。</p> |
| <p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。</p> <p>次の点に着目し、その達成度によって評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。・絹の歴史、文化に対する正確な理解。 |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>特になし。</p> |
| <p>〔テキスト〕</p> <p>特になし。適宜指示をする。</p> |
| <p>〔参考書〕</p> <p>特になし。適宜指示をする。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕</p> <p>ポータルサイトで周知する。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> <p> </p> |

| 科目名 | | Special Lectures on International Communications | | | | | |
|--|---|--|---|---|-----|------------|---------|
| 教員名 | | 挾本 佳代 | | | | | |
| 科目No. | 121222400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 テーマ：「日本を語るための国際的な教養を身につける」 この授業は、日本人が外国人とコミュニケーションを円滑かつ深く行っていく場合に必要になる知識と教養を習得するためのものです。 外国人とのコミュニケーションは、単に英語が上手く話せることだけでは不十分です。表面的な日常会話のレベルを脱し、豊かな内容を相手に伝えていくためには、まず自分自身が興味を抱いて、その豊かな内容そのものを知らなければなりません。 この授業では、外国人の関心の高い能楽や狂言や歌舞伎、アニメやKAWAIIというサブカルチャー、日本の美おもてなし文化、日本映画などについての深いコミュニケーションをとるための知識を、ゲストスピーカーとのオムニバス形式で解説をしていきます。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 1 (専門分野の知識・技能)、D P 3 (課題の発見と解決)、D P 4 (表現力、発信力) を実現するため、以下を到達目標とする。 ①「コミュニケーションのための国際的な教養力」の必要性を的確に理解する。 ②奥行きのある日本文化を理解して、他人に伝えることができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 イントロダクション ・外国人との円滑なコミュニケーションのために必要なものは何かを説明する。 | | | 【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】国際的な教養力について理解しておく。 | | 60分 | |
| 第2回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (1)：歌舞伎 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第3回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (2)：能楽／狂言 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第4回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (3)：仏像 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第5回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (4)：日本の美 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第6回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (5)：古典文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第7回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (6)：現代文学 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第8回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (7)：サブカルチャー テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第9回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (8)：映画 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第10回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (9)：音楽 テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第11回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (10)：アメリカ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第12回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (11)：ヨーロッパ テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |
| 第13回 | 日本を語り世界を理解するための国際的な教養力 (12)：日本食／おもてなし テーマにもとづき、国際的な教養力のための知識を解説する。 | | | 【予習】事前に伝えられたテーマについて、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | 60分 | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 第14回 | 総括 ・授業のまとめ キーワード、キー概念等を確認する。 ・期末レポート提出 | 【予習】これまでの授業で学んできた内容を振り返り、確認しておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 60分 |
| 〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（40%）、期末レポート（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記到達目標の達成度を、客観的に評価する。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 特になし。適宜紹介する。 | | | |
| 〔参考書〕 特になし。適宜紹介する。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | | Special Lecture on Global Economy | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|---|---|-----|------|------------|
| 教員名 | | 鈴木 史馬 | | | | | |
| 科目No. | 121222500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 The economic agents that make up the global economy are households, firms, governments and a wide range of international and non-governmental organisations. This lecture focuses on economics as the basic framework for understanding the global economy. In particular, the course will explain macroeconomic theory at the elementary and intermediate levels. It is a basic framework for understanding national economies and their interactions. At the same time, it will explain how to apply the theory to the actual global economy. The aim is to provide a deeper understanding of the global economy by studying theory and practice. | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 In order to realise DP1 (Knowledge and skills in specialised fields), the following objectives are to be achieved. This course aims to acquire a basic knowledge of the global economy. This course also aims to understand the movements and interactions of financial institutions and financial markets as discussed in daily news and newspaper reports. | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | Guidance Explain the general outline of the lecture plan. Lecture 1. The science of macroeconomics: What Macroeconomists Study The global economy and macroeconomics | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第2回 | Lecture 2. The Data of macroeconomics (1) Measuring the value of economic activity: GDP | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第3回 | Lecture 3. The Data of macroeconomics (2) Measuring the Cost of Living: CPI / Measuring Joblessness: The unemployment rate | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第4回 | Practice 1. Macroeconomic statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from Penn World Table. | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第5回 | Lecture 4. National Income: Where it comes from and where it goes (1) What determines the total production of goods and services? | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第6回 | Lecture 5. National Income: Where it comes from and where it goes (2) How is National Income Distributed to the Factors of Production? What Determines the Demand for Goods and Services? | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第7回 | Lecture 6. The Monetary System: What It Is and How It Works What is Money? / The Role of Banks in the Monetary System | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第8回 | Lecture 7. Inflation: Its Causes, Effects, and Social Costs: The Quantity Theory of Money | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第9回 | Practice 2. Financial statistics from global economy. Using RStudio/Excel to collect and analyze the macroeconomic statistics from International Financial Statistics or other statistics. | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第10回 | Lecture 8. Economic Growth (1) The Accumulation of Capital | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第11回 | Lecture 9. Economic Growth (2) The Golden Rule Level of Capital | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第12回 | Lecture 10. Economic Growth (3) Population Growth and other extensions | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第13回 | Practice 2. Calibrating global economic growth. Using RStudio to stimulate economic growth models. | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |
| 第14回 | Review / in class examination. | | | Review this lesson and prepare for the next lesson. | | | 60 |

In Lecture sessions, the instructor will explain the content of macroeconomics textbooks.
In Practice sessions, students are required to bring their own PCs and analyse data.
Quizzes and mini-reports will be given in both Lecture and Practice sessions.

〔成績評価の方法〕

100% of the evaluation of each class (class participation and scores on quizzes and mini-reports).

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

マクロ経済学入門1・2

〔テキスト〕

Mankiw, G. (2019) Macroeconomics, Tenth Ed. ISBN 1319243584 (購入の必要なし)

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

外国語のみで授業

| 科目名 | | グローバル特殊講義（比較都市史） | | | | | |
|---|---------------------------------|---|---|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | | 内田 日出海 | | | | | |
| 科目No. | 121222630 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 〔テーマ〕 古代～現代の世界の都市現象の比較史 〔概要〕 古今東西、地球上には遍く都市現象が確認されます。本講義は世界の都市史を、規模や景観、経済的・政治的・法的・社会的機能、農村との共生関係、システムやネットワークといった観点から、包括的かつ体系的に講じます。 方法としてはタテの類型化（時系列的把握）、ヨコの類型化（空間的把握）を通じて、ヨーロッパ、日本を含むアジアの諸都市を中心に、より具体的な都市の歴史像を提示します。 世界の都市についてのイメージをもっていただくために、あるいは都市史をめぐる世界旅行の感じをもたせるため、図像、写真、映像などをできるだけ多く取り入れる予定です。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1 専門分野の知識・技能、DP3【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）、DP4【表現力、発信力】、DP6【自発性、積極性】を実現するため、以下を到達目標とします。 1. 世界の都市現象に関して時間軸に沿いつつ歴史的な特徴をつかまえる 2. 世界の諸都市の比較を通じて、空間的な共通点、相違点を学ぶ | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | 都市とは何か——比較都市史の射程 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第2回 | 都市の類型的把握（時代的類型、空間的類型） | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第3回 | ヨーロッパの都市史（1）：ヴィデオで見るヨーロッパの都市史 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第4回 | ヨーロッパの都市史（2）：コミューン運動から中世都市へ | 【予習】ヨーロッパの中世史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第5回 | ヨーロッパの都市史（3）：中世都市シュトラースブルク | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第6回 | ヨーロッパの都市史（4）：近現代都市ストラスブルール | 【予習】ヨーロッパの近現代史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第7回 | アジアの都市史（1）：日本の都市現象 | 【予習】古代～江戸時代の日本の都市について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第8回 | アジアの都市史（2）：中国、イスラーム世界の都市現象 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第9回 | 首都の比較史（パリと江戸）（1）：都市計画と景観の観点を中心 | 【予習】江戸・東京の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第10回 | 首都の比較史（パリと江戸）（2）：行政・司法・経済の観点を中心 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第11回 | 海港都市の歴史（1）：長崎 | 【予習】長崎の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 80 | |
| 第12回 | 海港都市の歴史（2）：横浜 | 【予習】横浜の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第13回 | 海港都市の歴史（3）：香港 | 【予習】香港の歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 100 | |
| 第14回 | 都市ネットワーク論 第1回～第13回の総括と理解度の確認 | 【予習】第1回～第13回の授業内容に関するおさらいをしておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | | 120 | |

〔授業の方法〕

□ 対面式の講義中心ですが、CoursePower も活用します。図像・写真・動画などもできるだけ多く使用します。

□ 双方向性を確保するために、レビュー方式を使って毎回の授業内容に関して理解度をチェックします。これを小テストの代わりとします。必要に応じていくつかのレビューを次の回の冒頭に紹介するなどして相互学習に資します。

□ 予習・復習用に毎回 CoursePower 上に講義メモ・ファイル (pdf 抄録版) を事前にアップします。

〔成績評価の方法〕

①学期末試験 (50%)

②レポート (20%) : 2 回

③平常点 (30%) : 毎回のレビュー (=小テスト)
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。

下記の点について目標の到達度を測ります。

1. 古代から現代にいたるまで世界の諸都市がどのように発達してきたかについて概説できるかどうか
2. 世界の様ざまな都市の歴史を比較史的に概説できるかどうか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識は不要です。先修科目もありません。

関連科目は経済史の基礎、西洋経済史 A、西洋経済史 B、比較経済史、地域経済史、日本経済史 A、日本経済史 B、社会史、総合特殊講義（国境の経済史）などの歴史系科目です。

〔テキスト〕

とくに定めません。

〔参考書〕

- マックス・ウェーバー『都市の類型学』（世良晃四郎訳）創文社、1964 年
- 増田四郎『都市』筑摩書房、1978 年
- 二宮宏之・樺山紘一・福井憲彦編『都市空間の解剖』<アーノル論文選 4 >新評論、1985 年
- 高澤紀恵/アラン・ティレ/吉田伸之編『パリと江戸』山川出版社、2009 年
- 内田日出海『物語 ストラスブールの歴史——国家の辺境、ヨーロッパの中核』中公新書、2009 年
- 河原温・池上俊一『都市から見るヨーロッパ史』NHK 出版、2021 年

など。（購入の必要はありません。図書館で参照してください）

そのほか、講義の進行に合わせて随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | グローバル特殊講義（グローバルヒストリーと現代的な諸課題） | | | | | |
|--|--|-------------------------------|---|--|-----|------|-------------------------|
| 教員名 | | 二井 正浩 | | | | | |
| 科目No. | 121222650 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 SDGsに代表される現代的な諸課題の歴史的な経緯を考察するためには、グローバルな歴史的視点が求められる。そして、それは日本史・世界史の枠組みをこえたグローバルヒストリーとしてのアプローチとなる。本授業では、このような視点から現代的な諸課題を歴史的に探究する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1-1（専門分野の知識技能）、DPDP3-1（課題の発見と解決）、DP4-1（表現力・発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめることができる。 ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできる。 ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとすることができる。 ④現代的な諸課題の形成に関わる歴史について調査し、整理し、伝達することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | オリエンテーション① ～SDGsの目標から探究するテーマを設定しよう～ | | | 復習：自己とのリレバансを意識しながらテーマを設定する。 | | | 60 |
| 第2回 | オリエンテーション② ～グループ分け・問い合わせの設定～ | | | 復習：探究のための問い合わせを設定する。 | | | 60 |
| 第3回 | グローバルヒストリーの視点の検討～人新世とは何か～ | | | 復習：授業で紹介した文献等を確認する。 | | | 60 |
| 第4回 | 仮説を立てる（グループで話し合う・発表する） | | | 復習：仮説を確定する。 | | | 60 |
| 第5回 | 情報を収集する（グループで協力する） | | | 復習：資料（史料）収集を行う | | | 60 |
| 第6回 | 時代区分する（グループで話し合う・発表する） | | | 復習：課題の探究と説明にふさわしい時代区分を確定する。 | | | 60 |
| 第7回 | 資料（史料）に基づいて論述する（論をまとめる） | | | 復習：探究してきたことを文章等にまとめる。 | | | 60 加えて、レポート作成 |
| 第8回 | 発表の準備をする | | | 復習：プレゼンテーションの準備を行う。 | | | 60 加えて、プレゼン準備 |
| 第9回 | 探究結果のプレゼンテーションと討議① | | | 事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成 | | | 60 加えて、プレゼン準備・レポート作成 |
| 第10回 | 探究結果のプレゼンテーションと討議② | | | 事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成 | | | 60 加えて、プレゼン準備・レポート作成 |
| 第11回 | 探究結果のプレゼンテーションと討議③ | | | 事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成 | | | 60 加えて、プレゼン準備・レポート作成 |
| 第12回 | 探究結果のプレゼンテーションと討議④ | | | 事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成 | | | 60 加えて、プレゼン準備・レポート作成 |
| 第13回 | 探究結果のプレゼンテーションと討議⑤ | | | 事前：プレゼン担当者は発表準備 事後：討議内容についての検討・レポート作成 | | | 60 加えて、プレゼン準備・レポート作成 |
| 第14回 | まとめ～講義の振り返りとプレゼンテーション・レポートの講評～ | | | 事後：授業全体の振り返り | | | 60 |
| 〔授業の方法〕 講義・ディスカッション・パフォーマンス（発表・報告書作成）を実施する予定。 毎時間ごとに提出する報告書、授業への参加状況、パフォーマンスをもとに評価する。 | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の方法〕 毎時間ごとに提出する報告書（授業への参加状況） 30% パフォーマンス（発表） 35% パフォーマンス（報告書） 35% ※提出物は期限厳守</p> |
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その到達度により評価する。 ①現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、情報を収集し適切かつ効果的に調べてまとめているか。 ②現代的な諸課題の形成に関わる歴史について、課題を見つけ、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したり説明したりできているか。 ③よりよい社会の実現を視野に、課題をグローバルな視点から主体的に追究、解決しようとしているか。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特に無し</p> |
| <p>〔テキスト〕 特に無し</p> |
| <p>〔参考書〕 特に無し 高校「世界史」「日本史」の教科書持参</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。</p> |
| <p>〔特記事項〕 アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション）</p> |

| 科目名 | 中級ミクロ経済学 | | | | | | |
|---|--|-----------------------------|---|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | 矢作 健 | | | | | | |
| 科目No. | 121232000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 中級ミクロ経済学では1年次に履修した「初級ミクロ経済学Ⅰ/初級ミクロ経済学Ⅱ」の内容をもとに、ミクロ経済学の分析手法をさらに深く学んでいきます。まずは家計の消費行動から需要曲線、企業の生産行動から供給曲線を導出し、市場において価格が決定されていく過程を分析していきます。こうした市場メカニズムの社会的な望ましさや、それが成立している条件について改めて考えます。そして、こうした健全な市場が機能しない「市場の失敗」とよばれる状況についても紹介し、現実の社会を分析する枠組みを学んでいきたいと思います。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 本科目では、D P 1（専門分野の知識・理解）DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く ・完全競争市場での均衡を導出できる ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | イントロダクション ・授業の進め方、概要の説明 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第2回 | 完全競争市場（1） ・完全競争市場とは ・余剰分析の紹介 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第3回 | 完全競争市場（2） ・価格弾力性とは、価格規制の与える影響とは | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第4回 | 消費者の行動（1） ・予算制約下での効用最大化行動とは | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第5回 | 消費者の行動（2） ・需要曲線と財の価格・所得との関係 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第6回 | 生産者の行動（1） ・生産関数、費用関数の考え方を紹介 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第7回 | 生産者の行動（2） ・短期での利潤最大化行動 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第8回 | 生産者の行動（3） ・長期での利潤最大化行動 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第9回 | 部分均衡分析 ・均衡とは何か、その社会への影響を余剰の観点から分析 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第10回 | 一般均衡分析（1） ・交換経済の競争均衡を導出する | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第11回 | 一般均衡分析（2） ・パレート効率性と厚生経済学の基本定理について学ぶ | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第12回 | 市場の失敗（1） ・完全競争市場が成立しない要因とは ・不完全競争として、独占市場の紹介 | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第13回 | 市場の失敗（2） ・外部性と何か、その解決方法を考える | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 第14回 | まとめ | 予習：配布資料の読んでおく 復習：授業内容の復習 | | | | 90分 | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学生の理解の到達度を確認するため、小テストまたは宿題や学期末試験を実施します。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | |

課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・家計の効用最大化行動から需要曲線、企業の利潤最大化行動から供給曲線を導く
- ・完全競争市場での均衡を導出できる
- ・市場のメカニズムが十分に機能していない状況を分析できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の科目を履修していることが望ましいです。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

『ミクロ経済学の力』 神取道宏 日本評論社 (ISBN 978-4535557567)

『ミクロ経済学』 奥野正寛 東京大学出版会 (ISBN 978-4130421270)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕

| 科目名 | | 中級マクロ経済学 | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|----------|--|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 庄司 俊章 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121232100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 初級マクロ経済学Ⅰ、Ⅱで扱った内容を発展させ、本講義では学部中級レベルのマクロ経済学について学習します。具体的には、まずマクロ経済学の基本モデルを学び、国内総生産や金利、物価などの決まり方を考察します。続いて、より高度なトピックス（為替レート、経済成長、資産価格の決まり方）について検討します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とします。 ・モデルを用いて、国内総生産や金利などがどのように決まるか説明できる。 ・モデルを用いて、インフレや為替レートが経済に与える影響について説明できる。 ・経済成長のメカニズムや資産価格の決まり方について、論理的に説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション | | 【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第2回 | 国内総生産と金利の決まり方（1） ・IS-LMモデルの基礎 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第3回 | 国内総生産と金利の決まり方（2） ・IS-LMモデルの応用 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第4回 | 総需要・総供給と物価の決まり方（1） ・AD-ASモデルの基礎 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第5回 | 総需要・総供給と物価の決まり方（2） ・AD-ASモデルの応用 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第6回 | インフレとデフレ（1） ・インフレ期待、自然利子率、フィリップス曲線 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第7回 | インフレとデフレ（2） ・消費者物価の計測に関する問題 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第8回 | 中間の到達度確認テスト | | ここまで講義資料、演習問題の内容を確認しておく。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第9回 | 為替レートの決まり方（1） ・購買力平価、金利平価 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第10回 | 為替レートの決まり方（2） ・小国開放経済モデル | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第11回 | 経済成長（1） ・ソローモデルの基礎 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第12回 | 経済成長（2） ・ソローモデルの応用 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第13回 | 資産価格の決まり方 ・配当の割引現在価値モデル | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業の総括・質疑応答 | | 【復習】期末試験に向けて、授業中の演習問題等を復習する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業資料や板書に基づいて、講義形式で授業を行います。授業内で到達度確認テストを行い、授業内容の理解度を確認します。なお、到達度確認テストの実施日程・回数は変更する可能性があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点（授業内の到達度確認テスト）40%、期末試験60%を基本とし、授業での積極的な発言・質問をプラスに評価します。 | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|--|
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 入門的なミクロ経済学・マクロ経済学の知識を前提とします。 |
| 〔テキスト〕 『マクロ経済学 入門の「一歩前」から応用まで 第3版』、平口良司・稻葉大、2023年、有斐閣ストゥディア |
| 〔参考書〕 特になし |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | 中級経済数学 | | | | | | |
|---|--|---|---|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | 井上 潔司 | | | | | | |
| 科目No. | 121232200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 現代経済学科の学生が、更に進んで「経済数学の基礎知識」を修得することを目的とする。1年次にすでに学んだ初級経済数学の内容を前提とし、1変数関数の微分法に加え、多変数関数の微分法、ベクトル、行列の基礎事項を講義し、数学的諸概念の習熟を目指す。さらには講義で学んだ知識を活用し、経済学の様々な応用問題を解決できる能力の育成を目指す。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、(広い視野での思考・判断)、DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するため、以下を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none">・1変数関数の微分法の基礎概念の習得。・多変数関数の微分法の基礎概念の習得。・極値問題、最適化問題の考え方を学び、経済学に応用できる力を身につける。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | ガイダンス <ul style="list-style-type: none">・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。・中級経済数学を学修する上での基本的な考え方を説明する。 | 【予習】学生への序文、テキストを熟読。 | | | | 60分 | |
| 第2回 | 微分法の基礎 <ul style="list-style-type: none">・平均変化率・微分係数・導関数の定義について理解する。・接線の方程式の導出方法を学ぶ。 | 【予習】テキスト熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の定義を理解し、導関数の導出方法を修得しておくる。 | | | | 90分 | |
| 第3回 | 微分法の諸公式1 <ul style="list-style-type: none">・微分法の基礎公式（積の微分公式、商の微分公式、等）を理解する。・実例を通して微分公式の適用方法を学ぶ。 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】微分法の諸公式（積の微分公式、商の微分公式、等）を修得しておくる。 | | | | 90分 | |
| 第4回 | 微分法の諸公式2 <ul style="list-style-type: none">・合成関数の微分法について学ぶ。・指数・対数関数の微分法を修得する。 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】合成関数の微分法を修得しておくこと。 | | | | 90分 | |
| 第5回 | 関数の増減と極大極小 <ul style="list-style-type: none">・導関数を用いた関数の増減の調べ方、極値の求め方を学ぶ。・導関数を用いた関数の凹凸の調べ方、変曲点の求め方を学ぶ。 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】第1次導関数、第2次導関数の利用方法について確認しておく | | | | 90分 | |
| 第6回 | 微分法を用いた応用問題 <ul style="list-style-type: none">・微分法を用いた様々な応用問題の考え方について学ぶ。・関数のグラフを用いて応用問題の解き方を修得する。 | 【予習】テキストを読み、微分法を用いた様々な応用問題を解いておく。 【復習】最大・最小問題の基本的な解き方について確認しておく。 | | | | 90分 | |
| 第7回 | 2変数関数の微分法 <ul style="list-style-type: none">・2変数関数に関する基本事項・用語について学ぶ。・偏微分と全微分について学ぶ。 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の微分法を修得する | | | | 90分 | |
| 第8回 | 2変数関数のグラフと極値 <ul style="list-style-type: none">・2変数関数にの扱い方について学ぶ。・2変数関数の極値問題に関する基本事項・用語について学ぶ。 | 【予習】テキストを熟読し、<まとめ>の内容を把握する。 【復習】2変数関数のグラフの概形を把握できるようにする。2変数関数の極値を求められるようにする。 | | | | 90分 | |
| 第9回 | 最適化問題1 <ul style="list-style-type: none">・2変数関数の最大・最小問題・制約のない2変数関数の最適化問題について学ぶ。 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】2変数関数の最適化問題を理解する。2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。 | | | | 90分 | |
| 第10回 | 最適化問題2 <ul style="list-style-type: none">・2変数関数の最大・最小問題・制約のある2変数関数の最適化問題について学ぶ。・ラグランジュ関数・ラグランジュの乗数法 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ラグランジュ関数を理解し、制約のある2変数関数の最適化問題を理解する。 2変数関数の最大値、最小値を求められるようにする。 | | | | 90分 | |
| 第11回 | ベクトルの基礎 <ul style="list-style-type: none">・ベクトルの定義・ベクトルの演算 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】ベクトルの基礎事項を理解し、諸演算を理解する。 | | | | 90分 | |
| 第12回 | ベクトルの応用 <ul style="list-style-type: none">・ベクトルの平面図形への応用・ベクトルの空間図形への応用 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】平面・空間問題への様々な応用方法を学ぶ。 | | | | 90分 | |
| 第13回 | 行列とその応用 <ul style="list-style-type: none">・行列の定義・行列の演算 | 【予習】テキストを熟読し、内容を把握する。 【復習】行列の基礎事項を理解し、諸問題への応用を学ぶ。 | | | | 90分 | |
| 第14回 | まとめ等 <ul style="list-style-type: none">・授業のまとめ・学期末試験への諸注意 | 【復習】この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。 | | | | 60分 | |
| 〔授業の方法〕 講義と演習を並行して行う。 | | | | | | | |

| |
|---|
| 〔成績評価の方法〕 平常点（授業への参加状況や積極性、演習課題、確認テスト）40% 学期末試験 60% |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. <ul style="list-style-type: none">・微分法の諸概念を理解できているか。・多変数関数の扱いを修得しているか。・多変数関数を用いて、さまざまな応用問題が解けるか。・数学的手法を経済学へ応用できるか。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・初級経済数学 ・高校数学 IA・IIB の知識があれば、理解の助けとなる。 |
| 〔テキスト〕 尾山大輔・安田洋祐編著『[改訂版]経済学で出る数学』日本評論社 ISBN978-4-535-55659-1 |
| 〔参考書〕 特にないが、高校時代の教科書「数学 IA, IIB, III」が役立つ。 |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。 |
| 〔特記事項〕 アクティブラーニング |

| 科目名 | | 中級計量経済学 | | | | | |
|---|---|---------|---|--|-----|------|------------|
| 教員名 | | 内藤 朋枝 | | | | | |
| 科目No. | 121232300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義はこれまでに統計学の理論を学んだ学生が、実際にデータを用いて統計的に分析する際に必要な手法について学修することを目的としている。前半はExcelを用いて平均、分散などの集計方法を学び、さらにそれらを可視化する方法を演習を通じて学修する。後半は統計ソフトのRの基本的な利用方法について学び、Rを用いた回帰分析の手法および、結果の見方などを含めた手法を演習を通じて学修する。課題演習などでは、企業の実データを用い、その企業等の課題解決に資するような課題を設定し、データ分析を行う。 本講義はExcelおよびRの利用経験が全くない方を対象としております。統計学および計量経済学などを学んで、この分野に興味をお持ちになった方はどなたでも歓迎致します。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① ExcelおよびRの基本的な手法について理解し、操作できる。 ② 実際にデータを用いたExcelおよびRの基本的な操作ができる。 ③ ExcelおよびRで得られた結果の見方を理解し、説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) |
| 第1回 | ガイダンス 授業のスケジュール、進め方、予習・復習の仕方および必要なPC環境について説明する。 | | | 【予習・復習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。PCの環境などを確認しておく | | | 60 |
| 第2回 | Excelの実習1 Excelの基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む | | | 【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第3回 | Excelの実習2 Excelの基本操作および関数などを学修する。 課題に取り組む | | | 【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第4回 | Excelの実習3 Excelを用いた可視化、主にグラフの作成方法などを学修する。 課題に取り組む | | | 【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第5回 | 統計または実証分析に関わる資料を読む | | | 【予習】Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】資料についてのレポートを作成する | | | 60 |
| 第6回 | Rの実習1 Rstudioのインストール、基本操作などを学修する。 | | | 【予習】第4章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第7回 | Rの実習2 Rstudioの基本操作などを学修する。 | | | 【予習】第4章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第8回 | Rの実習3 Rを用いて記述統計、変数の関連性を見る。 | | | 【予習】第5章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第9回 | Rの実習4 Rを用いて記述統計、変数の関連性を見る。 | | | 【予習】第5章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第10回 | Rの実習5 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。 | | | 【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第11回 | Rの実習6 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。 | | | 【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料を確認する 【復習】課題を確実にこなせるようにしておく | | | 60 |
| 第12回 | Rの実習7 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。 | | | 【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題2にて到達度を確認する | | | 120 |
| 第13回 | Rの実習8 単回帰分析、重回帰分析の基本的操作を学修する。 | | | 【予習】第10章を熟読する。Course Powerに挙げられた資料、これまでおこなった課題を確認する 【復習】復習課題2にて到達度を確認する | | | 120 |
| 第14回 | 復習課題1, 2の解説をおこなう。 フォローできていない課題をピックアップして取り組む | | | 【予習】復習課題1, 2を再確認する 【復習】復習課題1, 2を確実にこなせるようする | | | 60 |
| 〔授業の方法〕 授業の形式は講義および課題の演習である。 学生は、授業中に取り組んだ演習を提出することが求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、演習・レポートおよび復習課題1, 2の狙いは以下のとおりである。 演習：授業で学んだ内容を実際に手を動かして行うことができるかについて確認する。 | | | | | | | |

レポート：現在自分たちが行っている演習がどのように使えるのか確認する。
復習課題 1・2：Excel および R の基本操作を習得できたかについて確認する。

〔成績評価の方法〕

復習課題 1・2、Course Power 等を用いた演習課題の提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
復習課題 1 (25%)、復習課題 2 (30%)、レポート課題 (20%)、平常点 (演習課題の提出、授業への参加状況など) (25%) による総合評価。
なお、演習課題等についてグループで話し合う事は歓迎されるが、必ず一度は自分自身で手を動かしておくこと。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ① Excel および R の基本的な操作ができる。
- ② 実際にデータを用いて Excel および R で結果を出力できる。
- ③ Excel および R で得られた結果を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

統計学、計量経済学など

〔テキスト〕

浅野正彦・矢内勇生『R による計量政治学』オーム社 3200 円 ISBN:978-4-274-2213-6

購入の必要なし

〔参考書〕

『ビジネスこれだけ！Excel データ分析・資料作成 & Power Point』 マイナビ 925 円 ISBN:978-4-8339-6754-3
星野匡郎・田中久稔『R による実証分析-回帰分析から因果分析へ』 オーム社 2700 円 ISBN:978-4-274-21947-4

購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

ICT 活用

| 科目名 | 日本経済史A | | | | | | |
|---|--|---|---|------|--------------------|------|---------|
| 教員名 | 松本 貴典 | | | | | | |
| 科目No. | 121241000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 日本は、後進国から先進国にまで、どのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのだろうか。そして、これから先、日本はどういった進路を探るべきなのだろうか。「歴史に学び、歴史の理解をもって未来を解く鍵にする」ことによって、日本経済の過去と現在と未来を考えていこうというのが、本講義のテーマである。本講義では、江戸時代における日本経済の動向から第一次世界大戦期までの日本経済の発展過程を、最新の学会の成果をふんだんに取り入れつつ講義する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 2 (教養の修得) を実現するため、以下を到達目標とする。 受講者諸君には、経済成長によって、何が達成され、そして何が取り残されたのかについて幅広い知識を持ってもらいたいと考えている。これから日本経済の進む道と諸君が生きて行く時代は、この「取り残されたもの」を補いながら進んで行かなければならぬからである。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 江戸期の日本経済（1）：マクロ変数の動き—歴史人口学が語る新しい江戸時代像— | 復習として、参考書(1)〔自ら書き上げた歴史人口学をやさしく解説している本〕の当該箇所を読んでみる。 | | | 復習に 60 分。 | | |
| 第2回 | 江戸期の日本経済（2）：マクロ変数の動き—歴史人口学が語る新しい江戸時代像— | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第3回 | 江戸期の日本経済（3）：教育—国際比較の観点から見た、その水準の高さと広範な普及— 筆跡鑑定法による識字率の測定 来日外国人の残した、彼らの驚嘆の記述 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(2-1) (2-2) の当該箇所を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第4回 | 江戸期の日本経済（4）：市場経済—世界で最も古くから機能していた日本の市場機構— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(3)の当該箇所を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第5回 | 江戸期の日本経済（5）：流通システム—サテライト構造からネットワーク構造へ— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(4)の第 1 卷の最終章を読んでみる。 | | | 予習に 60 分、復習に 60 分。 | | |
| 第6回 | 第1回～第5回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に 30 分、復習に 90 分。 | | |
| 第7回 | 明治維新（1）：革新と連続 明治維新的実像—断絶と非断絶— | 予習と復習両方のために、参考書(5)の当該箇所を読んで見ること。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第8回 | 明治維新（2）：近代経済成長の基盤整備 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習として、参考書(6)の当該箇所を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第9回 | 明治維新（3）：殖産興業と軌道修正—前田正名という男— 日本の近代化の実態は「日本の西洋化」ではなく「西洋の日本化」であった。 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(7)の当該箇所を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第10回 | 明治維新（4）：断絶か連続か：その数量的実証分析—幕末～明治中期の激動期における企業家・起業家の盛衰— 経済から見れば、明治維新は、断絶なのか、それとも連続性の中で捉えるべきか— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(8)の第 1 章を読んでみる | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第11回 | 第7回～第10回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第12回 | 産業化(1)：近代日本における工業化の開始 | 復習としてはこれまでの授業の要点整理と、参考書(4)の第 4 卷第 1 章および第 5 卷第 1 章を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 90 分。 | | |
| 第13回 | 産業化(2)：近代工業と在来産業—在来産業の大海上に浮かぶ小島としての近代工業— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(9-1) の当該箇所および(9-2) 第 1 章を読んでみる。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 第14回 | 第12回～第13回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習としては、疑問点の洗い出し。 復習としては授業全体の総復習。 | | | 予習に 30 分、復習に 60 分。 | | |
| 〔授業の方法〕 多くの図表をプリントで配布して、論拠を示しながら、講義形式で進める。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験もしくは期末レポート（80%）および平常点（20%）による成績評価を行う。 | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。また先修科目もとくにない。</p> |
| <p>〔テキスト〕 特に用いない。</p> |
| <p>〔参考書〕 (1)速水 融『歴史人口学で見た日本(文春新書)』文藝春秋社、2001年 (2-1)大石 学『江戸の教育力—近代日本の知的基盤』東京学芸大学出版会、2007年 (2-2)高橋 敏『江戸の教育力 (ちくま新書)』筑摩書店、2007年 (3)宮本又郎『近世日本の市場経済』有斐閣、1990年 (4)宮本又郎ほか『日本経済史』第1巻～第8巻、岩波書店 (5)西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社、1985年 (6)南亮進・牧野文夫『日本の経済発展〔第3版〕』東洋経済新報社、2002年 (7)中村隆英『日本経済—その成長と構造-[第3版]』東京大学出版会、1993年 (8)宮本又郎『企業家たちの挑戦 (中公文庫)』中央公論新社、2013年 (9-1)中村隆英『明治大正期の経済』東京大学出版会、1985年 (9-2)中村隆英『日本の経済発展と在来産業』山川出版社、1997年 (10)松本貴典『生産と流通の近代像』日本評論社、2004年 これらの参考書以外にも、以下の著作も講義の理解を深めるだろう。 宮本又郎ほか『日本経営史』有斐閣、2007年 安岡重明ほか『日本経営史』第1巻～第5巻、岩波書店</p> |
| <p>〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。</p> |
| <p>〔特記事項〕 I C T 教育科目 I C T 活用</p> |

| 科目名 | | 日本経済史B | | | | | |
|---|---|--------|---|---|-----|------|----------------|
| 教員名 | | 松本 貴典 | | | | | |
| 科目No. | 121241100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 近代化に成功した日本は、現在、世界屈指の経済大国に成長した。日本はどのような軌跡を描いて経済発展を遂げてきたのか。この問題に関して、最新の学会の成果に基づき、第一次世界大戦期からバブル経済崩壊までの、約100年間の日本の経済発展を、最新の研究成果をふんだんに盛り込みながら講義する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 受講者諸君には、経済成長によって、何が達成され、そして何が取り残されたのかについて幅広い知識を持ってもらいたいと考えている。これから日本経済の進む道と君達が生きて行く時代は、この「取り残されたもの」を補いながら進んで行かなければならないからである。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | 現代日本経済史序章：両大戦間期の日本経済（1）：現代の日本経済の原型 第一次世界大戦期のバブル経済とその崩壊 1920年代の長期不況 重化学工業化と都市化 | | | 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(1)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第2回 | 現代日本経済史序章：両大戦間期の日本経済（2）：現代の日本経済の原型 重化学工業化と都市化 二重構造の生成 高橋財政と景気回復 | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(1)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第3回 | 第1回～第2回の授業の内容補足と質疑応答 | | | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に30分、復習に90分。 |
| 第4回 | 戦時統制期の日本経済（1） 被害と遺産—潰えたものと引き継がれたもの— | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第5回 | 戦時統制期の日本経済（2） 現代日本経済システムの源流—自由主義的で政府の介入が少なかった戦前の日本経済が、なぜ戦後は政府の経済介入が多くなったのか— 実験国家としての満州国 | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(3)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第6回 | 戦時統制期の日本経済（3） 革新官僚と企画院：公職追放されなかつた人びとによる敗戦からの復興—企画院と復興期の経済安定本部の連続性— | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(4)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第7回 | 第4回～第6回の授業の内容補足と質疑応答 | | | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に30分、復習に90分。 |
| 第8回 | 戦後復興期の日本経済（1） 経済民主化—その功と罪— | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第9回 | 戦後復興期の日本経済（2） 冷戦と経済復興—「アジアのスイス」から「反共の防壁」への転換— | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(2)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第10回 | 第8回～第9回の授業の内容補足と質疑応答 | | | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に30分、復習に90分。 |
| 第11回 | 高度成長期の日本経済（1） 10%以上の高い経済成長率が続く時代 年20%以上のペースで進む企業設備投資 | | | 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(5) (6)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第12回 | 高度経済成長期の日本経済（2）：高度成長の成果 所得の急上昇 大衆消費社会の到来 国民生活の改善の急速な進展 ほか | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(7)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第13回 | 戦後から現代の日本における産業の盛衰—連続繁榮型・斜陽型・成長型・安定型・景気循環型— | | | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。また、参考書(8)の該当部分を読んで見ること。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 第14回 | 第11回～第13回の授業の内容補足と質疑応答 | | | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 |
| 〔授業の方法〕 | | | | | | | |

多くの図表をプリントで配布して、論拠を示しながら、講義形式で進める。

〔成績評価の方法〕

学期末試験もしくは期末レポート（80%）および平常点（20%）による成績評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。また先修科目もとくにない。

〔テキスト〕

とくに定めない。

〔参考書〕

- (1) 西川俊作ほか『産業化の時代（下）』岩波書店、1990年
- (2) 中村隆英ほか『「計画化」と「民主化』』岩波書店、1989年
- (3) NHK取材班『「日本株式会社」の昭和史—官僚支配の構造—』創元社、1995年
- (4) 小林英夫『超官僚—日本株式会社をグランドデザインした男たち 宮崎正義・石原莞爾・岸信介—』小学館、1995年
- (5) 安場保吉ほか『高度成長』岩波書店、1989年
- (6) 吉川 洋『高度成長（中公文庫）』中央公論新社、2012年
- (7) 武田晴人『シリーズ日本近現代史8 高度成長（岩波新書）』岩波書店、2008年
- (8) 猪木武徳『日本の近代7 経済成長の果実 1955～1972（中公文庫）』中央公論新社、2013年

これらの参考書以外にも、以下の著作も講義の理解を深めるだろう。

南亮進・牧野文夫『日本の経済発展〔第3版〕』東洋経済新報社、2002年
西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済新報社、1985年
下川浩一『日本の企業発展史（講談社現代新書）』講談社、1990年 ほか

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

I C T 活用

※ 授業進行の都合上、シラバスの記載内容が多少前後する場合があるかもしれない。

| 科目名 | | 西洋経済史A | | | | | | | | | | | |
|--|---|------------------------------|---|------|------------|------|---------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 鴨野 洋一郎 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121241200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 今日の私たちの経済システムである資本主義経済の基盤は、ヨーロッパにおいて長い時間をかけて形成されてきた。つまり資本主義経済の特徴を深く理解するためには、ヨーロッパ経済の歴史を学ぶことが必要になる。そこでこの授業では、古代ギリシア・ローマから中世ヨーロッパ、そして近世イギリスやオランダへといたるヨーロッパ経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていく。それにより、ヨーロッパにおける経済の歴史を、その背景もふくめて理解する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | | | | | | | |
| D P 2-1 【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 | | | | | | | | | | | | | |
| ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを理解する。 | | | | | | | | | | | | | |
| ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを理解する。 | | | | | | | | | | | | | |
| ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを理解する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) | | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 第I部 ヨーロッパ経済圏の成立① —古代地中海世界の成立と崩壊— ・古代ギリシア・ローマの経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 第I部 ヨーロッパ経済圏の成立② —中世ヨーロッパ世界の成立— ・中世封建社会の成立について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 第I部 ヨーロッパ経済圏の成立③ —「商業の復活」と中世都市— ・11世紀以降におけるヨーロッパ経済の発展について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第6回 | 第II部 ヨーロッパ経済圏の再編① —封建社会の動搖— ・14世紀半ば以降における危機や変化について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 第II部 ヨーロッパ経済圏の再編② —ルネサンスとヨーロッパ経済— ・イタリア商人の活動について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 第II部 ヨーロッパ経済圏の再編③ —大航海時代とヨーロッパの拡大— ・大航海時代の背景および結果について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第10回 | 第III部 ヨーロッパ経済圏の発展① —オランダの躍進と衰退— ・近世オランダの経済構造について理解する。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 第III部 ヨーロッパ経済圏の発展② —イギリスの重商主義と市民革命— ・イギリス絶対王政による重商主義政策について理解する。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 第III部 ヨーロッパ経済圏の発展③ —フランスの重商主義と市民革命— ・フランス絶対王政による重商主義政策について理解する。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | |
| 各レポートの概要については、以下の通りである。 | | | | | | | | | | | | | |
| ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 | | | | | | | | | | | | | |
| ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

小レポート（2回：各 15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①古代から中世にかけてヨーロッパ経済が成立していったプロセスを説明できる。
- ②中世後期にヨーロッパ経済が大きく再編されたプロセスを説明できる。
- ③近世にヨーロッパ経済が世界と結びついて発展していったプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史 B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | 西洋経済史B | | | | | | |
|--|---|------------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 鴨野 洋一郎 | | | | | | |
| 科目No. | 121241300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 今日の私たちの経済システムである資本主義経済は、近世までヨーロッパで形成された基盤の上に、産業革命以降の工業化を経て完成された。資本主義経済を理解するために、この工業化の歴史を学ぶことは不可欠である。そこでこの授業では、産業革命以降のヨーロッパ（とりわけイギリス・ドイツ）およびアメリカの経済の歴史を、丁寧に学んでいく。そのさい、経済的な事項のみならず、政治や社会、文化についても触れていく。それにより、近現代における欧米の工業化の歴史を、その背景もふくめて理解する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| DP 2-1 【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 | | | | | | | |
| ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを理解する。 ②19世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを理解する。 ③2度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 第I部 産業革命による工業化① —イギリス産業革命— ・イギリス産業革命の過程および結果について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 第I部 産業革命による工業化② —ドイツおよびアメリカの工業化— ・特徴あるドイツとアメリカの工業化について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 第I部 産業革命による工業化③ —「バクス・ブリタニカ」の時代— ・19世紀半ばにおけるイギリス経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第6回 | 第II部 産業構造の転換① —第2次産業革命— ・第2次産業革命における技術革新について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 第II部 産業構造の転換② —ドイツ経済の発展— ・重工業を中心に独占が進んだドイツ経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 第II部 産業構造の転換③ —アメリカ経済の発展— ・国内市場と結び付いて発展したアメリカ経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第10回 | 第III部 現代の欧米経済① —第1次世界大戦後の復興— ・大戦後におけるアメリカを中心とする復興について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 第III部 現代の欧米経済② —世界恐慌後の経済— ・世界恐慌後における各国の対応について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 第III部 現代の欧米経済③ —第2次世界大戦後の欧米経済— ・今日にいたるまでの欧米経済の歩みについて学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 〔授業の方法〕 | | | | | | | |
| 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 | | | | | | | |
| 各レポートの概要については、以下の通りである。 | | | | | | | |
| ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

小レポート（2回：各 15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①イギリスをはじめとする各国が工業化を達成していくプロセスを説明できる。
- ②19 世紀後半から各国が産業構造を大きく転換していくプロセスを説明できる。
- ③2 度の世界大戦を経て今日の経済システムが確立されたプロセスを説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史 A」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 比較経済史 | | | | | |
|---|--|--------|------------------------------|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | | 鴨野 洋一郎 | | | | | |
| 科目No. | 121241400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 人類がこれまでどのように生き延びてきたのかを解明することは、経済史の重要な課題の1つである。これを解明するために、ある特定の時代や地域の経済システムを観察する方法もあるが、それぞれ特徴をもついくつかの経済システムを比較することで、それらのシステムをよりよく理解できることもある。この授業では、全体を3つのパートに分け、各パートで複数の経済システムの比較を行っていく。これにより、どのような経済システムも、その背景にあるさまざまな状況からの影響を受けながら形成されていったことを理解する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 2-1 【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて理解する。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて理解する。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | |
| 第2回 | 第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活① —狩猟採集民の世界— ・人類が長いあいだ続いた狩猟採集生活について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第3回 | 第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活② —グラヴェット文化— ・寒冷地で開花したグラヴェット文化の特徴について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第4回 | 第I部 狩猟採集生活と農耕牧畜生活③ —農耕牧畜の開始— ・農耕牧畜が人類の生活に与えた影響について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | |
| 第6回 | 第II部 古代オリエント世界の諸経済① —農耕の開始とメソポタミア文明— ・農耕の開始とともに形成されたメソポタミア文明について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第7回 | 第II部 古代オリエント世界の諸経済② —地中海世界における興亡— ・地中海世界で展開されたさまざまな経済活動について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第8回 | 第II部 古代オリエント世界の諸経済③ —古代ギリシアおよびローマ— ・オリエント世界から影響を受けて形成されたギリシア・ローマの経済について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | |
| 第10回 | 第III部 ヨーロッパとイスラーム① —ヨーロッパ経済圏の形成— ・中世に形成されたヨーロッパ経済圏の特徴について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第11回 | 第III部 ヨーロッパとイスラーム② —イスラーム経済圏の形成— ・中世に形成されたイスラーム経済圏の特徴について学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第12回 | 第III部 ヨーロッパとイスラーム③ —「ヨーロッパの成長」をめぐって— ・ヨーロッパ成長の原因についてイスラームと比較しつつ学ぶ。 | | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 各レポートの概要については、以下の通りである。 ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。 ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。 | | | | | | | |

| |
|--|
| 〔成績評価の方法〕 小レポート（2回：各15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。 |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①先史における狩猟採集生活と農耕牧畜生活の特徴を、比較を通じて説明できる。 ②古代オリエント世界で興亡したさまざまな経済システムの特徴を、比較を通じて説明できる。 ③前近代におけるヨーロッパ経済圏とイスラーム経済圏の特徴を、比較を通じて説明できる。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識はとくにない。 関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「地域経済史」 |
| 〔テキスト〕 とくになし。 |
| 〔参考書〕 とくになし。参考文献については、授業中に指示する。 |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 地域経済史 | | | | | |
|---|--|------------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 鴨野 洋一郎 | | | | | |
| 科目No. | 121241500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 今日の私たちの経済システムである近代資本主義経済を理解するためには、その基盤となったヨーロッパ経済の歴史を理解することが欠かせない。この歴史にかんして、とりわけおよそ千年続いた中世という時代において、その後のヨーロッパの拡大を決定づける重要な変革が生じたことは強調すべきである。この時代に「ヨーロッパ経済」という1つの特徴ある「地域経済」のシステムが形成されたのである。この授業では、おもにA. ピレンヌの概説書に依拠しつつ、中世ヨーロッパ経済について農業・商業・工業・貿易・都市経済などのさまざまな観点から丁寧に学んでいく。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| D P 2-1 【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 | | | | | | | |
| ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について理解する。 | | | | | | | |
| ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について理解する。 | | | | | | | |
| ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 第I部 商業の衰退から復活へ① —中世初期のヨーロッパ経済— ・中世初期にヨーロッパ経済が縮小した状況について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 第I部 商業の衰退から復活へ② —「商業の復活」— ・11世紀ごろからヨーロッパで遠隔地商業が活発化した状況について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 第I部 商業の衰退から復活へ③ —都市と農村の生活— ・中世ヨーロッパの都市および農村における生活について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第6回 | 第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済① —大市と信用のしくみ— ・中世ヨーロッパに特徴的な大市とそこで発達した信用について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済② —遠隔地商業の隆盛— ・地中海および北ヨーロッパで発達した遠隔地商業について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 第II部 繁栄する中世ヨーロッパ経済③ —都市における経済活動— ・中世ヨーロッパ都市の経済活動について、工業を中心に学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第10回 | 第III部 変化する中世ヨーロッパ経済① —ヨーロッパ全体を襲う危機— ・黒死病などの大きな危機に襲われたヨーロッパ経済について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 第III部 変化する中世ヨーロッパ経済② —都市の政策と大商人の活動— ・危機を経て、都市および商業のあり方が変化する状況について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 第III部 変化する中世ヨーロッパ③ —ルネサンス期のヨーロッパ経済— ・成熟するヨーロッパ経済とその近世への影響について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 〔授業の方法〕 | | | | | | | |

授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。

各レポートの概要については、以下の通りである。

- ・小レポート：第I部および第II部の内容について理解し、考察できているかを確認する。
- ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。

〔成績評価の方法〕

小レポート（2回：各15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①中世初期ヨーロッパ経済の特徴およびその後のヨーロッパ経済の復興について説明できる。
- ②中世盛期ヨーロッパにおける活発な商業活動および都市経済について説明できる。
- ③中世後期ヨーロッパにおける経済システムの変化およびその近世への影響について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「経済史の基礎」「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | 社会史 | | | | | | |
|--|--|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 小林 正幸 | | | | | | |
| 科目No. | 121241600 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 テーマ：「コミュニケーションの社会史」 この授業では、近代におけるコミュニケーションあるいはメディアを中心とした人々の営みを社会史として展開していく。 基本的には近代になって以降、メディアとコミュニケーションをめぐる文化や生活がどのように育まれていったのか、また、読書、出版、電子メディア、映画、テレビ、そしてインターネットに人々がどのように影響を受け、影響を与えてきてのか、その相互作用について議論する。 メディアへの理解とは、メディアの歴史、特に社会史的理解そのものといつていい。日常的に触れるメディアではあるが、本講義では、そのような日常の実感がどのように構築されたのかを考察する講義である。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①国内外で論じられるメディアとコミュニケーションにはどのようなものがあるかを理解し、説明できる。 ②日本人論や日本文化論に関心をもち、現代社会の中で日本人のメディア観、コミュニケーション観から文化についての理解を深める。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | イントロダクション ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・読んでおくべき参考文献についての解説をする。 | 【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】提示された参考文献を調べておく。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 社会史とは何か 通常の歴史の授業と社会史の違いを理解するために、まず社会史とはなんであるのか説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第3回 | メディアって何 導入として、現在私たちが当然のように使用しているコンピュータ・テクノロジーがどのような社会的文脈で生じてきたのか説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 近代読者とは まず近代なるものをメディアとの関連で理解することを目的として、読者という存在自体が歴史的に現れたことを説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 読書行為とはなんであるのか 読書という行為は実は身体において生じることである。そして、その身体の有り様は変化する。それを読書空間という概念から接近する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 電子メディアと読書 活字離れが問題視される。そこで実際にどのような読書がなされているのか、電子メディアとの関係からも読書を位置付けていく。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 90 | | |
| 第7回 | 中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。 | 【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 写真という新しい眼 写真の登場が人々のコミュニケーションをどのように変化させたのか、現在のスマホの写真まで射程に入れて説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 映画とプロパガンダ 20世紀直前映画が登場し、人々は映画をどのように利用しようとしたのか、その極北としてのプロパガンダについて説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第10回 | テレビの登場 テレビによって人々は現実とは異なる位相にあるイメージをこそ生きていくようになる。それが人々をどのようなコミュニケーションの規範に向かわせたのか説明する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第11回 | イメージの自律運動 身近に存在するテレビは、家庭や個室にイメージを組み込むようになる。そこにはテレビの世界の脱神話化と再神話化がある。その流れを解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第12回 | インターネットの過剰な語り インターネットが社会に浸透することが、人々の情報に対する態度姿勢の変化をもたらしている。その具体的な姿を例にあげながら解説していく。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第13回 | SNSの登場 SNSにおけるコミュニケーションの可能性と問題点について考える。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |

| | | | |
|---|---|---|-----|
| 第14回 | 総括 <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの社会史についてのまとめを行う。 | 【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 120 |
| 〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（15%）、到達度確認テスト（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ・メディアコミュニケーションに対する社会的文化的的理解。 ・日常で使用するメディアに対する考え方の変化 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 特になし | | | |
| 〔参考書〕 教科書は指定しないがメディアに関する図書を何か参考にしてほしい。「購入の必要なし」ではあるが、以下の本をあげておく。 ダニエル・ブースティン『幻影の時代』東京創元社 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業中終了後、教室で受け付けます | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | | 総合特殊講義（家族関係と法） | | | | | |
|---|--|----------------|---|----------------------|-----|------|------------|
| 教員名 | | 渡邊 知行 | | | | | |
| 科目No. | 121241700 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 『家族関係と相続に関する法律と判例』 ・家族関係と相続に関する民法の基本的な制度とルールを理解し、具体的な相続紛争の事例をどのように解決すべきかを考察する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3【課題の発見と解決】、DP4【表現力・発信力】を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容・進め方 ・家族法（親族法・相続法）の基礎 | | | 授業内容の確認。 | | | 60分 |
| 第2回 | 家族関係（1） ・婚姻 ・離婚 ・事実婚・内縁 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第3回 | 家族関係（2） ・嫡出子・婚外子 ・普通養子・特別養子 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第4回 | 家族関係（3） ・親権 ・扶養 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第5回 | 家族関係（4） ・未成年者の後見 ・成年後見制度 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第6回 | 法定相続（1） ・相続人 ・相続の承認・放棄 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第7回 | 法定相続（2） ・相続財産 ・不動産の相続・相続登記 ・預貯金の相続 ・配偶者居住権 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第8回 | 法定相続（3） ・相続分 ・遺産分割 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第9回 | 遺言相続（1） ・遺言の自由 ・遺言の方式 ・遺言の解釈 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第10回 | 遺言相続（2） ・遺贈 ・遺言の執行 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第11回 | 遺言相続（3） ・遺留分制度 ・遺留分の清算 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第12回 | 相続に関する紛争事例（1） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第13回 | 相続に関する紛争事例（2） 相続紛争の事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第14回 | 授業で学習した内容の全体をまとめるとともに、今後の法改正の課題を検討する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 〔授業の方法〕 ・事前にCoursePowerに掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・第12回、13回の授業では、相続に関する紛争事例として主要な最高裁判例の事案を取り上げて、その事案や関連事案をどのように解決するかを検討する。授業のなかで受講者の意見を聞く。 ・課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。 | | | | | | | |

| |
|--|
| 〔成績評価の方法〕 ・中間レポート課題(40%)、期末レポート課題 (60%)。 |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の2点に着目し、その達成度により評価する。 ①家族法・相続法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②家族法・相続法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、相続問題の課題とその解決策を考えることができている。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし |
| 〔テキスト〕 ・『民法7家族』 山本敬三監修、有斐閣、2530円、ISBN: 9784641151154 |
| 〔参考書〕 ・『家族法（第4版）』 崎田充見著、有斐閣、4730円、ISBN: 9784641138186 ・購入の必要なし |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 総合特殊講義（国境の経済史） | | | | | |
|--|---|---|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 内田 日出海 | | | | | |
| 科目No. | 121241710 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 〔テーマ〕 ヨーロッパの国境地域の経済史 〔概要〕 ①EU の深化・拡大とともにヨーロッパの歴史は各国史の足し算としてより、むしろ一かたまりの枠組みとして語られることが多くなってきています。それとともに、近代の進むうちにしばしば分断されていた国境地域が今日その固有の歴史的なアイデンティティを蘇らせつつあります。 ②そうした視点に立って本講義では、フランス・ドイツ・イタリア・スイスの近代国民国家形成史の学びを前提としつつも、これらの国どうしの政治・経済・文化関係が象徴的かつ集約的に現れる国境地域を扱うことで、経済史のより具体的で生々しい「現場」に触れます。 ③とくに国民史・国民経済史に単純には回収されないフリー・ゾーンの経済史、アルザスの経済史、密貿易、ライン河の経済史、といった切り口から越境の日常性をめぐる新しい地域研究領域を提示します。 ④と同時に、これらの作業を通じてさらにヨーロッパの諸国民史、諸国民経済史の学びにフィードバックします。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とします。 (1) ミクロ・ヒストリー（国境地域史）の凝視・追跡を通じてマクロ・ヒストリー（フランス、ドイツ、イタリア、スイスの近代史・国民経済史）の理解を深める (2) フランスとドイツの間、フランスとスイスの間の地域にフリー・ゾーン（関税免除区域）があり、独自の越境的な経済圏・生活圏があったことを学ぶ | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 序1：地理と歴史の相克（国境経済史へのアプローチ） | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第2回 | 序2：図像・写真・動画で見るヨーロッパの国境地域 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第3回 | 国境地域から見た国民国家史（1）：フランス | 【予習】フランスの地理・歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第4回 | 国境地域から見た国民国家史（2）：スイス | 【予習】スイスの地理・歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第5回 | 国境地域から見た国民国家史（3）：ドイツ、イタリア | 【予習】ドイツ、イタリアの地理・歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第6回 | 国境地域の地政学的考察：サヴォワ、ジュネーヴ、ジェクス | 【予習】ジュネーヴの地理・歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第7回 | フリー・ゾーン（1）：世界、フランス、ドイツ、イタリア | 【予習】世界のフリー・ゾーン（自由貿易特区・経済特区・保税加工区など）について調べておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】提示された諸地図を参照しつつ、講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第8回 | フリー・ゾーン（2）：関税発達史とフリー・ゾーン | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義の内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第9回 | フリー・ゾーン（3）：そのしくみと実態（商品の動き、保税加工区の可能性） | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】図とグラフを参照しつつ、講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第10回 | EUの地域政策と越境地域間協力（その現状と将来） | 【予習】EUの基本的な組織について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第11回 | アルザス政治経済史（1）：政治・文化史（独・仏領有の狭間で） | 【予習】下記参考文献などでアルザスの歴史について下調べをしておく。 CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 100 | | |
| 第12回 | アルザス政治経済史（2）：インターフェイスとしてのアルザス経済史の実像 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |
| 第13回 | 密貿易から見た国境経済史：フランスの「義賊」ルイ・マンドラン、ナポレオン大陸封鎖体制の現実 | 【予習】CoursePower 上の講義メモファイルに目を通しておく。 【復習】講義内容をおさらいしておく。 | | | 80 | | |

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 第14回 | 「ヨーロッパの南北軸」ライン河の経済史、および第1回～第13回の講義のまとめ | 【予習】13回分の講義内容をチェックしておく。 【復習】講義で述べられた主要論点についておさらいしておく。 | 100 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| <p>□対面式の講義中心ですがCoursePowerも活用します。図像・写真・動画などもできるだけ多く使用します。</p> <p>□講義の理解を深めていただくために、授業内容に関連するテーマに関してレポートを2回課します。</p> <p>□双方向性を確保するために、レビュー方式を使って毎回の授業内容に関して理解度をチェックします。これを小テスト代わりとします。必要に応じていくつかのレビューを次の回の冒頭に紹介して相互学習に資します。</p> <p>□予習・復習用に毎回の講義メモ・ファイル（抄録pdf版）をCoursePower上にアップします。</p> | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| <p>学期末試験：50%</p> <p>2回のレポート：20%</p> <p>毎回のレビュー（＝小テスト）：30%</p> <p>により総合的に評価します。</p> | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。 | | | |
| 下記の点について目標の到達度を測ります。 | | | |
| <p>(1) 地理と歴史の相克というレトリックで国境地方の経済史を整理できるかどうか</p> <p>(2) アルザス地域経済史の特徴を政治史と関連づけつつ述べることができるかどうか</p> <p>(3) フリー・ゾーンの実態と歴史的な意義について述べることができるかどうか</p> | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 予備知識は不要です。先修科目もありません。 | | | |
| 関連科目は、経済史の基礎、西洋経済史A、西洋経済史B、比較経済史、日本経済史A、日本経済史B、数量経済史、社会史、グローバル特殊講義（比較都市史）などの歴史系科目です。 | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| とくに使用しません。毎回、事前に講義メモをCoursePower上にアップします。 | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| <p>▶内田日出海『物語 ストラスブルの歴史——国家の辺境、ヨーロッパの中核』中公新書、平成21年</p> <p>▶P.ギショネ『フランス・スイス国境の政治経済史——越境、中立、フリー・ゾーン』（内田日出海・尾崎麻弥子訳）昭和堂、平成23年（初版第2刷）</p> <p>▶内田日出海『アルザス経済史素描——周縁のポジティヴィティ』『BULLETIN』（日仏経済学会編）第28号、平成24年</p> <p>▶内田日出海『アルザス社会経済史——周縁の力学』刀水書房、令和3年</p> <p>そのほか、講義の進行に合わせて随時紹介します。</p> | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| ポータルサイトで周知します。授業終了後に教室で受け付けます。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | 総合特殊講義（社会哲学入門） | | | | | | |
|--|--|---|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 岩城 志紀 | | | | | | |
| 科目No. | 121241720 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| <p>経済学のような社会科学は「社会や世界の仕組み」を教えてくれます。一方、社会哲学は、「社会・世界が促進すべき、あるいは絶対に脅かしてはならない、人間にとって大切なものの」（人間的価値）について考えさせてくれます。社会や世界の仕組みを知っていても、その仕組みが促進すべきものは何か、あるいは脅かしてはならないものは何かについて知らなければ、知識は悪用され、社会・世界が抱える諸問題の解決に使われることはないでしょう。つまり、仕組みを知ることと、その仕組みが促進しうる、あるいは脅かしうる大切な価値について考えること。その両方が、経済学を学ぶみなさん（そして、その知識を用いながら、これからを生きるみなさん）には求められていると言えるでしょう。</p> <p>では「人間にとって大切なもの」にはどういったものがあるのでしょうか。みなさんにとって、「人間が人間らしく生きるためににはこれが大事だ」と思えるものは、何でしょうか。カネ？ 確かにカネは貨幣経済の中で生き抜くには必要不可欠です。けれども、アリストテレスいわく、カネや富は手段にすぎません。もっと大切なものがあるはずです。そう考えると、どうでしょうか。正義？ 平等？ 人権？ サステナビリティ？ カネ以外の様々な答えが出るでしょう。</p> <p>ではもっと掘り下げてみましょう。「正義に適う社会」とは、どんな社会のことでしょうか。「何を」平等にすれば、「平等な社会」が実現するのでしょうか。なぜ多くの人々は「人権」をこんなにも重要だと考えているのでしょうか。また、人権を含む「権利」とは、そもそも何を意味するのでしょうか。なぜ、「サステナビリティ」を実現しないといけないのでしょうか。また、誰がサステナビリティのみならず、正義に適う様々な事柄の実現に向けて責任を負うべきなのでしょうか。そして、それはなぜなのでしょうか。根本的な疑問がたくさん出でています。</p> <p>本科目では、こういった様々な根本的疑問を扱います。みなさんには、こうした疑問について、講義で学んだ視点や考え方を活かしつつ、今より一歩進んだ立場から考え、議論してもらいます。この授業を通じて、学生ひとりひとりが社会・世界と真剣に向き合い、自分の生き方や社会・世界の在り方について深く考えていくようになってほしい。そう願っています。</p> | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下の5点を到達目標とします。 | | | | | | | |
| ① | ひとつの空間（社会や世界）を共有する者同士、どのような関係を築いていくべきか、深く考えられるようになること。 | | | | | | |
| ② | 授業で学んだ視点や考え方を踏まえつつ、自分自身の意見を組み立て、他者に伝わるような形で発信できるようになること。 | | | | | | |
| ③ | 現状を安易に受け入れることなく、現状の問題を乗り越え、新たな未来へと繋げていく意志や責任感を養うこと。具体的には、次の2点ができるようになること。 | | | | | | |
| - | 社会・世界を広く見渡し、人類が直面している様々な現代的課題について客観的・批判的に考察し、今後どのような方向に社会・世界が進むべきかについて考えられるようになること。 | | | | | | |
| - | 社会・世界を今よりも良くするために自分にできることは何か、真剣に考えられるようになること。 | | | | | | |
| ④ | 授業で学んだ視点や他者の意見に対する自分なりの考えを、他者に伝わるような形で発信できるようになること。 | | | | | | |
| ⑤ | 他者の意見を尊重しつつ、その意見に対し建設的なコメントを加え、他者（および自分）がさらに深く考えるきっかけを作れるようになること。 | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | What is 「社会哲学」？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 「人間の本性」 人間はどんな存在？資本主義経済は人間の本性に合っている？合っていない？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 「個人の自由」 自由の意味は？自由を促進する経済体制とは、国家介入のある経済か、国家介入のない経済か？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 「寛容」 社会はここまで寛容であるべきか？例えば表現の自由と信仰の自由が衝突した場合、あるいは表現の自由と公共道徳（善悪に関する社会の共通認識）とが衝突した場合、どちらを優先するべきか？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 「個人の権利と義務 - 人として、そして市民として」 権利とは？人権とは？市民とは？市民はなぜ政府に従う義務を負うのか？市民がこの義務から解放される場合とは？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 「アイデンティティの多様性」 女性のアイデンティティを認めるには？少数民族のアイデンティティを認めるには？彼らが「社会的劣等感」を抱かず生きられるような社会制度とは？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 「力と権威」 力とは？権威とは？人々は、どんな場合に、力を持つ者を「権威者」として認めるのだろうか？また、権威者の権威が揺らぐ場合とは？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 「民主制と代表」 民主制は良い？悪い？直接民主制と間接民主制のどちらを採用するべきか？「代表者」（選挙で選ばれた政治家）の役割とは？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 最終課題について | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | | | 60 | | |

| | | | |
|--|---|---|----|
| 第10回 | 「社会正義」 正義に適う社会とは？哲学者ジョン・ロールズがこの問いに答えるために考案した手法とは？一方、ロバート・ノージックはどう考えたか？彼らは、それぞれ、どのような経済体制を支持したのか？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | 60 |
| 第11回 | 「平等」 社会は何を平等に分配すれば良いのか？正の効用（幸福度）？資源？それとも・・・？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | 60 |
| 第12回 | 「グローバルな正義① - 世界的貧困と富裕層の責任」 世界の貧困について、誰が責任を負うべきか？その理由は何か？これらの疑問を考える上で、経済学的な知識がどう役立つか？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | 60 |
| 第13回 | 「グローバルな正義② - 地球環境問題と富裕層の責任」 地球規模の環境問題について、誰が責任を負うべきか？その理由は何か？これらの疑問を考える上で、経済学的な知識がどう役立つか？ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 【予習】次回のディスカッションに向けて事前調査とブレインストーミングを行う。 | 60 |
| 第14回 | まとめ | 【復習】授業で学習した内容を見なおす。新たに学習した概念や考え方について、不明点をなくす。 | 60 |
| 〔授業の方法〕 「知る→考える→議論する→さらに深く考える」という建設的プロセスを重視します。そこで、毎回の授業準備として、こちらが設定する議題をもとに、各自、事前調査とブレインストーミングを行っておいてもらいます。 授業当日は、前半と後半に分けます。前半では、事前に提示しておいた議題について、講師も含め、グループ・ディスカッション（あるいはオープン・ディスカッション）を行います。後半では、講師作成の「講義ノート」を用いて、新しい知識を学んでもらい、次回のディスカッションに向けた知識を身に着けてもらいます。 最終課題では、ディスカッションのための事前調査、ディスカッションで生まれた様々な意見、講義で学んだ哲学的視点をフル活用してもらい、論文（2000字程度）を書いてもらいます。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 ディスカッションへの参加姿勢：30% リアクション・ペーパー：30% 学期末論文：40% | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、次の点に着目し、その達成度により評価します。 ① 与えられた課題について自分の言葉で説明できること。 ② 授業で学んだ知識やディスカッションで挙げられた他者の見解、および独自の事前調査を踏まえつつ、自分なりの意見を盛り込んでいること。 ③ 論理的かつ明快な文章で表現できていること。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 なし。毎回、講師の作成した「講義ノート」を使用します。 | | | |
| 〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問や相談は、授業の前後またはオフィス・アワーに受け付けます。オフィス・アワーは学内専用ホームページで告知します。 | | | |
| 〔特記事項〕 アクティブラーニング | | | |

| 科目名 | | 企業を取り巻く法律 | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|-----------|---|--|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 盛里 吉博 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121251000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | | | | | | | |
| いかなる企業の活動も、法律とは無縁ではいられません。法律は、企業が経済活動を行う上で守るべきルールであると同時に、経済社会を支える重要なインフラでもあります。 | | | | | | | | | | | | | |
| 例えば、上場企業が自社製品を販売する場面を考えてみましょう。製品の販売について相手方企業と契約を締結することになりますが、担当者となったあなたに民法の素養があれば交渉のポイントが分かるでしょう。この契約が会社にとって重要であれば、取締役会の承認を得なければならず、会社法の知識が求められるかもしれません。また、相手方が零細企業であることをよいことに一方的に有利な条件で契約を締結した場合には、市場における公正競争維持のための法律である独占禁止法の違反となってしまうかもしれません。契約交渉が連日長引いて部下に残業をさせれば労働法が問題になり、ようやく交渉がまとまった際には、金融商品取引法上の情報開示が必要となるかもしれません。このように企業活動においてはいたるところに法律が顔を出してくれます。細かな法律知識は必要ありませんが、法律の基本的な考え方を概観しておくことは、将来、企業活動にかかわる上で必ず役に立つことでしょう。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | | | | | | | |
| DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 | | | | | | | | | | | | | |
| 経済学部の学生として、企業社会において生起する様々な事象について、法律面からの分析・検討を行うための基礎的な素養及び視座を身につけることを目標とします。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | 企業をとりまく法律の概要 | | | 【予習】シラバスを読み、講義の概要を把握する。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第2回 | 企業と民法 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第3回 | 株式会社の基本構造 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第4回 | 株式会社における株式 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第5回 | 株式会社におけるガバナンス | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第6回 | 株式会社における計算 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第7回 | 小テスト 株式会社における資金調達（1） | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】第6回までの講義内容を復習。 中間課題レポートの作成、提出を行う。 | | | 120 | | | | | | |
| 第8回 | 株式会社における資金調達（2） | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第9回 | 企業とM&A（1） | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第10回 | 企業とM&A（2） | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第11回 | 企業とM&A（3） | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第12回 | 企業と市場 一 金融商品取引法 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第13回 | 独占禁止法、労働法 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今回の講義内容を復習。不明点があれば次回の講義の際に質問する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第14回 | 企業紛争解決 | | | 【予習】事前に配布された講義資料を読む。 【復習】今までの全講義内容を復習。 | | | 120 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業は、事前に配布する講義資料を基に講義を中心に進めます。主に復習に力を入れ、次回の講義までに分からぬところを持ちこさないようにしてください。上に示された準備学修の時間はあくまで目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むようにしてください。 | | | | | | | | | | | | | |
| 第7回目の講義の前後で、中間テスト（小テスト）を行う予定です。テスト実施回以前までの講義内容を理解していれば標準以上の評価を得られる基本的な内容を想定しています。 | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の方法〕 中間テスト（小テスト）：40% 学期末試験：60%</p> |
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価します。 ①会社法の基礎的な概念を理解し、明確に説明できる。 ②民法、金融商品取引法、独占禁止法、労働法等の関連法律分野の基礎的な事項を理解している。 ③企業社会において現実に生じている事象について、法律的な側面から分析・検討し、問題点を分かりやすく説明できる。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 法律の予備知識は不要です。講義においては、「契約」、「株式」など、法律の基本的事項から説明するとともに、実際に新聞報道等で取り上げられている時事問題についても可能な限り取り上げて解説することを予定しています。</p> |
| <p>〔テキスト〕 特になし。毎回の講義の前に、講義資料を配布します。</p> |
| <p>〔参考書〕 特になし。 なお、「e-Gov 法令検索」を利用して、インターネット上で法律の条文を入手することができる所以、必要に応じて利用してください。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後の教室又は初回授業で周知する電子メールアドレスへの電子メールの送付により随時質問を受け付けます。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> |

| 科目名 | 企業経済特殊講義（日本経営史） | | | | | | |
|---|--|--|---|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | 太田 愛之 | | | | | | |
| 科目No. | 121251120 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| <p>日本の企業は現在大きな曲がり角に立っている。20世紀後半に營々として形作ったこれまでのあり方が、通用しなくなってきたのである。これはレジームの転換であると見て間違いない。いわゆる「日本の経営」を構成する諸契機の中には、失いたくないものがたくさんあることは事実だが、舵取りを誤ってレジームの転換に身を委ねるならば、後世に悔いを残す結果となるだろう。</p> <p>しかし、このようなレジームの転換は、長い目で見るならば何度も経験してきたことである。日本の経営者は、古くも300年以上前に合名会社・合資会社的な資本結合を発明し、それなりに合理的な経営管理を試みてきた。日本が近代化する過程では、進んで西洋の先進的経営方法を受け容れ、明治初年にて雨後の筈のごとき株式会社の叢生を見た。織維産業に代表される軽工業が軌道に乗ると、さらに重化学工業化を進め、財閥系企業をはじめとする大企業が1940年頃までに「日本の経営」の原型を形成した。日中戦争および第二次世界大戦を挟み、この日本の経営は日本を高度経済成長に導き、続く安定成長期には先進国の中でも模範的なあり方としてもてはやされた。今、それが行き詰っているのである。</p> <p>講義では、上に述べた大きな流れを具体的にたどって行くことにする。</p> | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| <p>DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>①日本経営史の基本的な流れを理解し、説明できる。</p> <p>②経営発展を貫く基本法則を個別具体的な事象と関連付けられる。</p> <p>③日本企業の経営のあり方とあるべき姿について、明確な見識を涵養する。</p> | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 経営史とは何か ・日本経営史を学ぶ意義について理解する。 | 【予習】テキストの「初版まえがき」および「エピローグ」を熟読。 | | | | 60 | |
| 第2回 | 日本経営史の摇籃（第1章第1節） ・江戸時代の経営環境と経済発展について学修する。 | 【予習】テキスト第1章第1節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第3回 | 江戸時代の商家経営（第1章第2節・第3節） ・江戸時代の商家経営、とくにその経営システムについて学修する。 | 【予習】テキスト第1章第2節・第3節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。授業で省略されるテキスト第1章第4節を熟読。 | | | | 60 | |
| 第4回 | 近代的経営組織の形成（第2章第2節） ・明治期における企業家、会社制度の発展、政商と財閥、専門経営者の出現および在来経営の革新について学修する。 | 【予習】テキスト第2章第2節を熟読。授業で省略される第2章第1節についても熟読して理解を深めておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第5回 | 近代的経営管理の形成（第2章第3節） ・技術導入の担い手、初期の工場と労働および会計制度の形成について学修する。 | 【予習】テキスト第2章第3節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第6回 | 明治国家と企業（第2章第4節） ・殖産興業政策と官業拡げ、金融機関と企業、日清戦後の政府と企業、経済団体の形成および貿易の展開と企業について学修する。 | 【予習】テキスト第2章第4節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第7回 | 大企業時代の到来（第3章第2節） 企業の合併・集中運動とカルテル活動、4大財閥の覇権確立および財界の形成について学修する。 | 【予習】テキスト第3章第2節を熟読。授業で省略される第3章第1節についても熟読して理解を深めておく。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第8回 | 新興産業の勃興と産業開拓活動（第3章第3節） ・信仰重化学工業の勃興、「都市型」産業の誕生および在来産業の発展について学修する。 | 【予習】テキスト第3章第3節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第9回 | 企業活動の国際化と経営管理の進展（第3章第4節・第5節） ・日本企業の国外進出、外国企業の日本市場進出、現代企業の出現と専門経営者の成長、日本型人事労務管理の生成と経営家族主義および経営合理化と「科学的管理法」の導入について学修する。 | 【予習】テキスト第3章第4節・第5節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第10回 | 大企業体制の変遷（第4章第2節） ・1930年代の大企業体制、財閥の拡大と再編、財閥解体および企業集団の形成と二重構造の再現について学修する。 | 【予習】テキスト第4章第2節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第11回 | 労使関係の変化（第4章第3節） ・1930年代の労使関係、産業報国体制下の労使関係、戦後労働運動の高揚および企業別組合の定着について学修する。 | 【予習】テキスト第4章第3節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第12回 | 技術開発の推進と経営管理の展開（第4章第4節・第5節） ・1930年代の技術動向、戦時下の技術政策と技術開発、軍需から民需への転換、技術導入と研究開発、産業合理化運動の展開、戦時下の経営管理、戦後改革期の経営管理およびアメリカの経営管理の導入と定着について学修する。 | 【予習】テキスト第4章第4節・第5節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | | | 60 | |
| 第13回 | 高度成長とその後の日本経済の変遷（第5章第1節） ・高度経済成長期、安定成長期、長期不況期の経営環境および代表的企業の変遷について学修する。 | 【予習】テキスト第5章第1節を熟読。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。授業で省略される第5章第2節以下についても熟読して理解を深めておく。 | | | | 90 | |

| | | | |
|--|--|--|-----|
| 第14回 | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学修内容について、理解度を確認するための復習・質疑応答を行う | <p>【予習】最終レポート作成に備え、これまでの学修内容を確認する。</p> | 120 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| パワーポイントによるスライドを用い、講義形式で行う。受講者は教科書を携帯・参照しつつ、必要に応じてスライドの内容をノートに取ることが求められる。なお、リアクションペーパー、テストの狙いは以下のとおりである。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・リアクションペーパー：それまでの講義をどのように理解してきたかを問う。内容は受講者に任せられるが、理解度および授業への取り組みの真剣さを確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| リアクションペーパーへの累積評価(2回：20%)、最終レポート(1回：80%)で評価する。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 日本近世史・近現代史に関する基本知識が必要である。関連科目としては、近代日本経済史・現代日本経済史・企業経営史・現代日本経済等が挙げられるが、それらの履修を条件とはしない。 | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| 宮本又郎ほか『日本経営史[第3版]』(有斐閣)定価3,600円+税、ISBN978-4-641-16617-2 | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| <p>J・ヒルシュマイヤー、由井常彦『日本の経営発展』(東洋経済新報社)定価3,900円+税 経営史学会『日本経営史の基礎知識』(有斐閣)定価3,300円+税 『講座・日本経営史』全6巻(ミネルヴァ書房)定価各3,800円+税 いずれも購入の必要はない。</p> | | | |
| 〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 | | | |
| 授業終了後に教室で受け付ける。また、CoursePower上の掲示板や電子メールでのやり取りにも応じる。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | 金融に関する法律 | | | | | | |
|--|---|---|---|------|-----|------------|---------|
| 教員名 | 坂田 典一 | | | | | | |
| 科目No. | 121252000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| <p>「お金の流れ」「お金の貸し借り」という「金融」は、日本銀行、金融市場、金融機関等が担い手となり、各経済主体（国・地方公共団体、民間企業・個人）がそれぞれの事業運営や生活の円滑・安定のために利用する重要なシステムであることは承知のとおりです。</p> <p>この講座では、金融システムを支える「法律」を、以下の2つの側面からできるだけ平易に解説します。</p> <p>第1に、国民経済上重要な金融システムを国が規制することにより、利用者を保護すると共に、金融システムの安定・健全性を確保する「金融監督法」の分野</p> <p>第2は、金融機関と利用者との間の金融サービスの取引の内容、利害を調整するための「金融取引法」の分野</p> <p>この講義で取り上げる金融サービスは「身近な伝統的金融サービス」としますが、最近の動向についても重要なものは解説します。</p> <p>また、受講生は消費者であると共に社会人としての準備段階にある、という観点から、商品内容や法律の仕組みの他に、金融サービスのポイントや注意点を含めて解説するよう努めます。</p> <p>なお、受講生にとって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀行取引は経済生活の基盤であること、 ・保険は日常生活のリスク管理上重要な手段であること、 ・クレジットカード等のキャッシュレスも生活上 common になっていること、 ・その他のFinTechは今後の社会・経済環境を変革すること、 <p>から講義の対象としますが、株式等の投資分野は講義の対象外とします。</p> | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| <p>DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な金融サービスの概要と、金融サービスを規制する法律等の基本的な内容を習得する。 (2) 金融サービスの利用に関する消費者のトラブル・問題点と対応策のポイントを理解し、説明できる。 (3) 金融サービスの利用を含む、市民生活の基盤である民法その他消費者法のポイントを習得する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容、予・復習の仕方等を説明する。 ・法や我が国の法体系の基本を確認する。 ・民法の基本的な考え方や体系等の導入部を理解する。 | <p>【予習】資料1（1）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第2回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆金融と民法（その1） <ul style="list-style-type: none"> ・金融サービスのベースとなる民法のうち、民法の共通ルール（総則）、物権・債権に関する基本的な事項を習得する | <p>【予習】資料1（2）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第3回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆金融と民法（その2） <ul style="list-style-type: none"> ・金融サービスのベースとなる民法のうち、債権（特に契約）、親族・相続に関する基本的な事項を習得する。 | <p>【予習】資料1（3）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第4回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆保険（その1） <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント、保険の原理、保険取引を規制する法律、保険契約のポイントを理解する。 ◎資料1から第1回リポート課題を提示する。 | <p>【予習】資料2（1）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第5回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆保険（その2） <ul style="list-style-type: none"> ・生命保険・損害保険の主な商品の概要と機能のポイントについて理解する。 | <p>【予習】資料2（2）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第6回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆保険（その3） <ul style="list-style-type: none"> ・受講生に身近な自動車保険と自転車保険について、事故の状況、法的な問題、保険の概要と利用上のポイントを理解する。 | <p>【予習】資料2（3）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第7回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆キャッシュレス決済（その1） <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済の全体像、クレジットカードの取引の仕組みと規制法を理解する。 ◎資料2から第2回リポート課題を提示する。 | <p>【予習】資料3（1）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第8回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆キャッシュレス決済（その2） <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードに関するトラブルと留意点・対応法を理解する。 □第1回レポート課題について解説する。 | <p>【予習】資料3（2）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第9回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆キャッシュレス決済（その3） <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード以外のキャッシュレス決済の仕組みと規制法および利用上の留意点を理解する。 | <p>【予習】資料3（3）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第10回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆預金・決済取引（その1） <ul style="list-style-type: none"> ・銀行の三大業務（預金・融資・為替）の概要を理解する。 ◎資料3から第3回リポート課題を提示する。 | <p>【予習】資料4（1）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第11回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆預金・決済の取引（その2） <ul style="list-style-type: none"> ・預金に関するトラブルと対応方法の概要を理解する。 □第2回レポート課題について解説する。 | <p>【予習】資料4（2）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |
| 第12回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆預金・決済の取引（その3） <ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行、銀行の動向、銀行の債権回収の概要を理解する。 | <p>【予習】資料4（3）を熟読する。</p> <p>【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | | | | 90分 | |

| | | | |
|--|--|--|-----|
| 第13回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ FinTech (その1) <ul style="list-style-type: none"> ・FinTech の全体像・動向・特徴等を俯瞰して理解を深めると共に、伝統的な法体系や規制との関係を理解する。 | <p>【予習】資料5（1）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | 90分 |
| 第14回 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ FinTech (その2) <ul style="list-style-type: none"> ・暗号資産その他のFinTechの代表的なサービスと、これを規制する法律およびこれらの動向を理解する。 □ 第3回レポート課題について解説する。 | <p>【予習】資料5（2）を熟読する。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。</p> | 90分 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| ① 授業は配布資料に基づく講義を中心に進めます。 ② 受講生は配布資料、自分で記述したノートにより復習して、不明点は質問により解説してください。 ③ 「準備学修」の時間は目安であって、各自の理解度に応じた取組みが必要です。 ④ 小テスト・レポートの目的は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト：毎回の講義・資料についての基本的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 (小テストの回答期限は、次の授業日の前日までとします。) ・ レポート：解答に必要な事項を主体的に調べると共に、学修内容と併せて自己の考察を加え、論理的に思考・記述することができるかを確認する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| ◆ 課題レポート（3回：60%）、到達度確認テスト（14回：40%）による総合評価を基本としつつ、講義に関する質問・意見表明等の積極的な参加はプラス評価（10%）します。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| ◆ 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠して評価します。 ◆ 次の点に着目して、その達成度により評価します。 <ul style="list-style-type: none"> ① 具体的な事例に対して、学修内容に加えて、自己の調査・考察を加えて論理的に思考できる。 ② 金融商品とそれを支える法律の概要が説明できる。 ③ 金融商品を巡るトラブルとそれに対する留意点・対応法の概要が説明できる。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 特に必要とされる予備知識はありません。 | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| 特になし | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| 必要に応じて、講義の中で適宜推薦します。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| ◆ 講義内容等に関する質問・要望は、次のいずれかにより連絡のしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ① 授業終了後に教室で申し出る。 ② 講義資料に表記する電子メールで連絡する。 ③ CoursePower 上の「Q&A 質問通知」に提出する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| 該当なし | | | |

| 科目名 | | 環境経済学B | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------------------|--------|---|-------------------------------|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 山上 浩明 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121253000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 日本の環境政策は公害対策や自然環境保護から発展してきたが、廃棄物、資源・エネルギー、気候変動などのように取り組むべき環境問題は広がり続けている。本講義は、日本の環境問題や、環境政策を中心として、その歴史・目的・効果などを紹介しながら、これらの問題と対策を描写する簡単な経済モデルを解説する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①環境問題・環境政策に関係する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。 ②問題解決・政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス&イントロダクション 環境問題における社会科学の視点 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第2回 | 1. 環境問題とは何か 類型・特徴・公害 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第3回 | 1. 環境問題とは何か 公害と環境法 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第4回 | 1. 環境問題とは何か (経済学) 公害と規制 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第5回 | 2. 裁判と補償 特別措置法と患者認定基準 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第6回 | 2. 裁判と補償 (経済学) 量規制と患者認定 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第7回 | 3. 廃棄物問題 廃棄物の定義・類型と日本の現状 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第8回 | 3. 廃棄物問題 一般・産業廃棄物対策 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第9回 | 3. 廃棄物問題 (経済学) 廃棄物関連対策 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第10回 | 4. エネルギー問題 歴史・定義・現状 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第11回 | 4. エネルギー問題 政策動向 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第12回 | 5. 環境評価法 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第13回 | 5. 環境評価法 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 第14回 | 総括 | | | テキスト・配布資料・参考資料を読む。関連資料を自ら調べる。 | | | 60~90分 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePower を通じて講義資料を配布する。数回の小テスト、期末試験が予定されている。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%） | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | |

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
①環境問題・環境政策に関する主体を簡潔に整理し、客観的に考察することができる。
②問題解決。政策立案について各利害関係者の立場から論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として、環境関連科目全般とミクロ経済学関連科目が挙げられる。

〔テキスト〕

特に指定しない。ただし、以下の書籍を中心に講義資料を作成する。

浅子和美・落合勝昭・落合由紀子(2015)『グラフィック 環境経済学』新世社（購入の必要なし）

〔参考書〕

[1]栗山浩一・馬奈木俊介(2016)『環境経済学をつかむ』有斐閣, ISBN978-4-641-17729-1, ¥2,400+tax

[2]有村俊秀・日引聰(2023)『入門 環境経済学 新版』中公新書, ISBN978-4-12-102751-1, ¥900+tax

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 経済地理学A | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------------------|-----------------------------|---|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 小田 宏信 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121253100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 産業活動がどこに立地するか？ この命題は、地表空間上でのモビリティが格段に上昇した現代においても、企業や地域の成長戦略上、また公共政策上も重大な問題です。 本講義では、経済学と経営学、そして地理学を橋渡しする経済地理学の中でも産業立地に関わる諸問題について、なるべく詳細な実例を交えて概説します。講義を通じて、場所や立地の意味を考える楽しさを味わい、産業活動や地域経済を分析する際の空間的視点の重要性を感じとってもらえば幸いです。 講義のうち第6回までは古典的な立地論の基本を学び、第7回～第13回は、製造業、商業の順に産業立地の実際を考えます。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1-1（現代経済学科の専門分野に関する知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済地理学の中でも産業立地論の基本的な考え方を学ぶことを通じて、企業戦略の空間的側面とそれが市民生活・消費生活に与える影響を理解し、地域経済社会づくりに主体的に関わる力を養う。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | |
| 第1回 | 産業立地論の基本概念：距離と拡がり | ・テキスト1章1節に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第2回 | 産業立地論の古典(1)：チューネンの農業立地論 | ・前回の復習 ・テキスト1章2節1項に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第3回 | 産業立地論の古典(2)：ウェーバーの工業立地論 | ・前回の復習 ・テキスト1章2節2項に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第4回 | 産業立地論の古典(3)：クリスタラーの中心地理論 | ・前回の復習 ・テキスト1章2節4項に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第5回 | 集積と外部経済の理論(1)：グローバル化の中でのローカリゼーション | ・前回の復習 ・テキスト13章に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第6回 | 集積と外部経済の理論(2)：マーシャルとヴァーノンの外部経済論 | ・前回の復習 ・テキスト1章3節に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第7回 | 製造業のローカル・ネットワーク | ・前回の復習 ・テキスト10章に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第8回 | 製造業のナショナル・ネットワーク | ・前回の復習 ・テキスト5章1節に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第9回 | 製造業のグローバル・ネットワーク | ・前回の復習 ・テキスト5章2節、3節に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第10回 | 小売業・サービス業の立地(1)：商業立地論の基礎 | ・前回の復習 | | | | 60 | | | | | | | |
| 第11回 | 小売業・サービス業の立地(2)：流通革命とチェーンストアの台頭 | ・前回の復習 ・テキスト5章2節、3節に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第12回 | 小売業・サービス業の立地(3)：チェーンストアの物流戦略 | ・前回の復習 | | | | 60 | | | | | | | |
| 第13回 | 小売業・サービス業の立地(4)：中心市街地の活性化 | ・前回の復習 ・テキスト16章に目を通す | | | | 60 | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ | ・全体を通じた復習 | | | | 60 | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義形式で進めます。授業の最後に、その回で学習した内容に沿った小課題を用意します。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |

平常点 40%、期末試験 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、達成度により評価する。

- (1) 産業立地に関するいくつかの古典理論の基本的な考え方を理解できているか。
- (2) 企業戦略の空間的側面を理解できているか。
- (3) 企業の空間的戦略がもたらす地域経済や市民生活に及ぼす影響を理解できているか。
- (4) よりよい地域づくりのために産業立地論を活用する方策を理解できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特にありません。

関連科目として、「社会経済地理学」「経済地理学B」「現代社会の地理（教養カリ）」「日本の国土と社会（教養カリ）」など。

〔テキスト〕

『経済地理学への招待』、伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編、ミネルヴァ書房、2020年、ISBN-13: 978-4-623-08691-7

購入必須ではありませんが、後期の「社会経済地理学」と共通テキストになります。通年での履修者は購入をお勧めします。重複購入しないようご注意ください。

〔参考書〕

『キーワードで読む経済地理学』、経済地理学会編、原書房、2018年、ISBN-13: 978-4-562-09211-6 [購入の必要なし]

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

オフィスアワーもしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 経済地理学B | | | | | |
|---|---------------------------------|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 加藤 幸治 | | | | | |
| 科目No. | 121253200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 この授業では経済地理学のなかでも、地域経済や地域政策に関わる諸問題を扱う。 具体的には、日本における地域政策の展開を題材にしながら、それぞれの時期において地域（経済）のおかれた状況やそれに対する政策的対応、その理論（地域経済論）的な背景などについて学ぶ。これらを通じて、サステナビリティの観点から、これまでの日本の経済・社会現象について、把握できるようになる。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・日本の地域政策の展開の概要・問題点を説明できるようになる。 ・主たる政策の理論（地域経済論）的な背景、目的、諸結果を説明できるようになる。 ・現在の地域開発の問題について概要を説明できるようになる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス | シラバスの確認（予習） 講義内で話した内容の確認 | | | 60 | | |
| 第2回 | 地域政策とは | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第3回 | 戦後復興・三大改革（前史） | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第4回 | 資源開発と産業基盤の整備：波及効果・逆流効果 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第5回 | 拠点開発：「成長の極」 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第6回 | 大規模開発とその後：エネルギー基地 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第7回 | 開発の弊害：公害問題 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第8回 | テクノポリス構想：生活圏とハイテク産業 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第9回 | リゾート構想：“at the last resort” | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第10回 | リゾートブームとその後 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第11回 | 地域政策の転換と産業クラスター：産業クラスター論 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第12回 | グローバル化と地方創生 | 内容の確認、まとめ、疑問点の整理など通常の復習 | | | 60 | | |
| 第13回 | 到達度確認テスト | テストに備えた予習（これまでの授業内容の復習） | | | 180 | | |
| 第14回 | テストの解説 サービス経済化と地域間格差：累積的因果関係 | 本講義全体の疑問点など質問事項がないか等の確認（予習）。 本講義の内容の確認など通常の復習と全体のまとめと整理 | | | 120 | | |
| 〔授業の方法〕 講義を中心に、授業は行う。パワーポイントの提示を中心に、図表プリントなどを参照しながら講義の内容を理解してもらうようする。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 数回の小レポートと到達度確認テストによって、成績評価を行う。テストはレポートに代える場合がある。 小レポート 20~30% 到達度確認テスト（レポート） 70~80% | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 ・日本の地域政策の展開の概要、問題点を説明できる。 ・主たる政策の理論（地域経済論）的背景、目的、諸結果を説明できる。 ・現在の地域開発の問題について説明できる。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 経済地理学Aとあわせて履修するとよりよい。</p> |
| <p>〔テキスト〕 特になし</p> |
| <p>〔参考書〕 いずれも本授業のためだけにあれば「購入の必要なし」ではあるが、伊藤ほか（2019）は予習・復習のために手元にあることが望ましい。その他参考書は講義中に適宜紹介する。 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編（2020）：『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。 根岸裕孝（2018）：『戦後日本の産業立地政策：開発思想の変遷と政策決定のメカニズム』九州大学出版会。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> |

| 科目名 | | 地球環境問題 | | | | | |
|---|--|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 野津 雅人 | | | | | |
| 科目No. | 121253300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、私たち人類を含む多くの生物が生きていくための場所と資源を提供してくれる地球環境を取り扱います。全体がひとつの安定なシステムとして長期間の均衡を保ってきた地球環境は、有史以来の人類の旺盛な活動により揺るがされ、私たち自身の生存にも影響を与えつつあります。この講義では、このような地球環境を考えるために - 地球上で起こる環境問題とその背景となる環境を形作るメカニズムを学ぶ - 過去・現在に起こった環境問題について、発生から解決までの過程を追いかける - 気候変動や食料などの環境問題が与える影響と解決方法を論じる といったことを行います。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 地球環境問題に関して、 - DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)を行い、 - DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を行うための素養を身につけることが目標です。 具体的には以下を目標にあげます: - 環境問題発生の原因理解に必要な地球科学の基礎知識を身につける。 - 環境問題を解決するために必要な対策を自分で提案するための情報収集・分析・論理的思考力を身につける。特に、「与えられた情報を批判的に捉え、吟味し、評価する」習慣を身につける。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス | シラバスの確認 | | | 60 | | |
| 第2回 | 環境問題とそれを解決する環境科学 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第3回 | 大気汚染 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第4回 | グループディスカッションの準備 | グループディスカッション指定参考書の章ごとの内容を把握する | | | 60 | | |
| 第5回 | 酸性雨 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第6回 | 成層圏オゾン層 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第7回 | 土壤・水質汚染 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第8回 | 気候変動（1） ・惑星の気温の決定メカニズムと温室効果 | 事前配布資料や参考書などを用いた予習 | | | 60 | | |
| 第9回 | グループディスカッション（1） ・ディスカッション（前半 2/3） ・発表（後半 1/3） | ・グループディスカッション指定参考書の担当する章を読む ・この回に担当するグループは発表のある程度の準備を行う | | | 90 | | |
| 第10回 | 気候変動（2） ・温室効果ガスを含む気候への人為影響 ・自然気候変動 | 前々回の講義内容の復習 | | | 60 | | |
| 第11回 | グループディスカッション（2） ・発表 | ・グループディスカッション指定参考書の担当する章の復習 ・この回に担当するグループは発表の準備を行う ・前回の講義内容の復習 | | | 90 | | |
| 第12回 | 気候変動（3） ・気候変動を抑えるために何をするか「緩和策」 ・不可避な気候変動に備えて何をするか「適応策」 | 前々回の講義内容の復習 | | | 60 | | |
| 第13回 | 講義全体のまとめ（1） | ここまで全ての講義内容の復習 | | | 75 | | |
| 第14回 | 講義全体のまとめ（2）（前半 1/3） 学期末到達度テスト（後半 2/3） | ここまで全ての講義内容の復習 | | | 120 | | |

- Course Power で配布する講義資料ファイルをプロジェクタ投影しながら解説を行います。
- 履修者が過大にならない限り、地球環境問題に関するグループディスカッションを行います。3~8 名程度のグループごとに、指定する参考書の 1 章 (30 ページ程度) を読み、書かれている内容を報告した上で、それに対する意見・批判・対案などを含んだプレゼンテーションをしていただきます。講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に、自分なりの批判や考察が行えることを評価します。
- レポートは、グループディスカッションを行う場合は 1 回。行わない場合は 3 回課す予定です。上記のグループディスカッションと同様に、講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に、自分なりの考察を行えることを評価します

※上記の講義計画はグループディスカッションを行う場合のものです。

〔成績評価の方法〕

- 学期末到達度テスト (60%)
- 平常点 (40%): 講義および講義内議論 (グループディスカッション) への参加状況・レポートの提出状況とレポートに対する評価

〔成績評価の基準〕

- 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。
- Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
- 講義の到達目標である以下三項目:
 - 1: 環境問題発生の原因理解に必要な地球科学の基礎知識
 - 2: 与えられた情報を批判的に捉え、吟味し、評価する能力
 - 3: 問題解決に必要な対策を自分で提案する素養の習得への到達度に基づき評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

- 『文系のための環境科学入門 新版』、藤倉良氏・藤倉まなみ氏、有斐閣、2530 円、ISBN 978-4-641-17423-8、購入の必要なし
(以下はグループディスカッションを行う場合に使用予定の参考書)
- 『みんなで考える地球環境 Q&A 145 地球に代わる惑星はない』、マイク・バーナーズ=リー氏 (藤倉良氏訳)、丸善出版、3080 円、ISBN 978-4-621-30743-4、購入の必要なし
- 『100 兆円で何ができる？ 地球を救う 10 の思考実験』、ローワン・フーパー氏 (滝本安里氏訳)、化学同人、3080 円、ISBN 978-4-7598-2095-9、購入の必要なし

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕

- 時々の状況に応じて講義内でお知らせするほか、授業終了後に教室で受け付けます。
- 質問等のメールアドレスは講義内でお知らせします。

〔特記事項〕

| 科目名 | 資源経済学 | | | | | | |
|---|---|----------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 清水 政行 | | | | | | |
| 科目No. | 121253400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、途上国の貧困問題や資源利用に関わる開発課題を取り上げて、「貧困はどうして存在し続けるのか」や「開発のためにどのように資源を活用すべきか」をテーマに、「開発経済学」をベースにしながらミクロ経済学的な観点から学習を進める。授業では、教科書の流れに沿いながら各回のテーマを決めて、関連する箇所については参考書も参照しながら理解を深めていく。ただし、理論面については、簡単な数式や経済モデルを使用するため、教科書よりも上級の内容になる。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）およびDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 貧しい人々の暮らし :開発のミクロ経済学と市場の不完全性 [テキスト：黒崎・栗田（2016）プロlogue] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）1章] [参考書：黒崎・山形（2017）2章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 農業I :小農は搾取されているのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）1章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 農業II :小農は非合理的農民なのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）1章] [参考書：黒崎・山形（2017）4章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 農村信用市場I :非対称情報と信用制約 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）5章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 農村信用市場II :マイクロクレジットの機能と限界 [テキスト：黒崎・栗田（2016）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）10章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 教育と健康 :なぜ人の資本への投資は重要なのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）3章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）4章] [参考書：黒崎・山形（2017）6章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 労働移動I :過剰労働と偽装失業 [テキスト：黒崎・栗田（2016）4章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 労働移動II :都市失業とスラム [テキスト：黒崎・栗田（2016）4章] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）2章] [参考書：黒崎・山形（2017）6章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 経済成長と工業化 :どうして生産性は上昇しないのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）5章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 技術移転と開発金融 :どうすれば生産性は上昇するのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）6章・7章] [参考書：黒崎・山形（2017）8章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 開発援助I :援助の氾濫とファンジビリティ [テキスト：黒崎・栗田（2016）8章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 開発援助II :援助の効果とランダム化比較実験 [テキスト：黒崎・栗田（2016）8章・補論] [参考書：アジア経済研究所等編（2015）10章] [参考書：黒崎・山形（2017）3章・9章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 持続可能な開発I :環境と開発は対立するのか? [テキスト：黒崎・栗田（2016）9章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | |

| | | | |
|--|--|----------------------------|----|
| 第14回 | 持続可能な開発II :資源やエネルギーの利用は持続可能か? [テキスト:黒崎・栗田(2016)9章] [参考書:黒崎・山形(2017)11章] | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | 60 |
| 〔授業の方法〕 対面(講義)形式で授業を実施し、授業資料はCoursePowerを通じて配付する。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト(2~3回程度)と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 小テスト(30%)、学期末試験(70%)。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。 1. ミクロ経済学的な分析から、途上国の貧困問題の構造や原因を理解できる。 2. ミクロ経済学的な分析から、経済開発のための資源活用のあり方を考察することができる。 | | | |
| 〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 ミクロ経済学関連の科目を一通り履修していることを前提にして講義を実施する。 | | | |
| 〔テキスト〕 黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学—途上国の暮らしを考える』有斐閣 2016年(1,800円+税) | | | |
| 〔参考書〕 アジア経済研究所等編『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣 2015年(2,300円+税)※購入の必要なし 黒崎卓・山形辰史『開発経済学—貧困削減へのアプローチ 増補改訂版』日本評論社 2017年(2,700円+税)※購入の必要なし | | | |
| 〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 授業終了後に受け付ける。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | | 環境と法 | | | | | |
|---|--|-------|---|----------------------|-----|------|------------|
| 教員名 | | 渡邊 知行 | | | | | |
| 科目No. | 121253500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 『公害・環境問題と環境法』 ・1960年代から現在に至る公害・環境問題の展開を踏まえながら、環境問題と環境法の基本的なルールを考察する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、地球温暖化、廃棄物、リサイクルなど環境問題の課題とその解決策を考えることができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | ガイダンス 授業内容と進め方を説明する。 | | | 授業の内容を確認する。 | | | 60分 |
| 第2回 | 公害・環境法の展開（1） 1980年代まで、戦後の経済成長に伴う公害問題について、裁判を通じてどのような解決がなされたのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第3回 | 公害・環境問題の展開（2） 1990年代以降、生活環境から循環型社会、地球温暖化対策、生物多様性まで、環境法が、国際条約を通じてどのように整備されてきたのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第4回 | 環境権と環境紛争 環境権論が普及するなかで、公害、騒音、日照、景観などをめぐる環境紛争がどのように解決されてきたのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第5回 | 環境法の基本原則 環境汚染を防止するための基本原則である、予防原則や原因者負担原則について、その内容を概説したうえで、具体的な事案にどのように当てはまるのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第6回 | 環境政策の手法 行政規制のほか、自主的な取り組みを促す、合意の手法（公害防止協定など）、経済的手法（環境税、排出枠取引など）、情報的手法（環境ラベリングなど）について考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第7回 | 環境基本法・環境影響評価 都市開発などにおける環境配慮、環境アセスメント（影響評価）の手続きについて考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第8回 | 大気汚染対策 公害訴訟を経て整備された、大気汚染防止法による工場・発電所などのばい煙や自動車排ガスの規制、さらに、光化学スモッグ対策やアスベスト粉じん飛散防止対策などについて考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第9回 | 水質汚濁・土壤汚染対策 海洋・河川・湖沼の環境保全にとどまらず、地下水汚染対策、生活排水対策も含めて整備された水質汚濁防止法による規制、土壤汚染対策による土壤汚染の把握・被害発生防止措置について考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第10回 | 廃棄物の処理 廃棄物処理法に基づいて、廃棄物の不法投棄などによって有害物質が環境を汚染しないように、国・自治体・事業者・市民がどのような役割を担って、一般廃棄物・産業廃棄物をどのように処理することが求められるのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第11回 | 循環型社会 環境への負荷を低減するために、資源の消費や廃棄物の発生を抑止し、使用後の製品をできる限り再利用することが必要である。3R政策（リデュース、リユース、リサイクル）のための循環型社会形成推進基本法・資源有効利用促進法、製品の種類ごとの個別リサイクル法に基づく排出削減、再商品化について考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |
| 第12回 | 地球温暖化対策 温室効果ガス（二酸化炭素など）が大量に排出されることによる地球温暖化が進行し、異常気象による災害、熱中症など健康の悪化、農作物の品質低下など様々な損失が深刻になっていく。先進的なEU諸国の動きをみながら、地球温暖化対策推進法に基づく緩和策、気候変動適応法に基づく適応策がどのように展開されているのかを考察する。 | | | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 |

| | | | |
|--|---|----------------------|-----|
| 第13回 | 生物多様性 食糧生産、医療など人類が生存する基盤となる生物多様性・生態系を維持していくために、生物多様性基本法に基づいて、国・自治体がどのような役割を担って、どのような対策を進めていくことが必要であるのかを考察する。 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | 60分 |
| 第14回 | 授業で学習した全体の内容をまとめるとともに、2024年に策定される第6次環境基本計画について考察する。 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | 60分 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方の理解を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 中間レポート課題2回 (40%)、期末レポート課題 (60%)。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の2点に着目し、その達成度により評価する。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ①公害・環境問題と環境法に関する基礎的な知識や考え方を身につけて説明できる。 ②環境法の学習で身につけた知識や考え方を活かして、公害、循環型社会、地球温暖化、生物多様性などに関する環境問題の解決策を検討できる。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 特になし | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| 『環境法 BASIC(第4版)』 大塚直著、有斐閣、5060円、ISBN: 9784641233126 | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| 授業のなかで紹介する。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 地域・環境特殊講義（交通経済学） | | | | | |
|---|--|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 須田 昌弥 | | | | | |
| 科目No. | 121253610 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 交通経済学の領域は多岐にわたるが、本講義では半期講義という時間の制約も鑑み、交通経済学の中でも日常生活において用いる交通=地域内交通の範囲を中心に、交通に関する諸問題を考察していきたい。理論的なトピックについてもいくらか検討するが、重要なことは理論それ自体ではなく、理論によって現実の問題をどれだけ説明し、解決策を見いだすことができるのかである。 近年、地方では鉄道やバス路線の廃止が相次いでいる。過疎化ないしは少子高齢化のためと片付けてしまえばそれまでであるが、では廃止すれば全て問題が解決するかと言えばそうとも限らない。他方、東京圏では通勤鉄道が今なお計画されているが、その多くは一定の乗客を見込めるにもかかわらず未着工のままである。鉄道ネットワークが過小のままで、鉄道を通勤・通学に利用する多くの住民が居住可能な範囲が限定され、都市の居住環境をさらに悪化させることになる。 本講義の目標は、冒頭に掲げたような各地域の問題の「解決策」を学ぶだけではなく、本講義で学んだことを元に、各自が解決策を提示・評価できるようになることである。受講される方はそのつもりで、能動的に学ぶことを心がけてほしい。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、以下を到達目標とする。 交通問題について、各自の暮らす「地域」との関わりを踏まえて考察することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | はじめに一「交通」とは何かー（『交通政策への招待』第1章） 授業の内容、進め方などを説明する。 「交通」とは何か、交通サービスにはどのような特徴があるのかを考察する。 | 【予習】このシラバスにあらかじめ目を通しておく。 【予習・復習】テキスト（『交通政策への招待』）を入手し、交通経済学の大まかな体系を認識しておけるとなよい。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 交通市場の発展（『交通政策への招待』第2章） 日本における鉄道・バスなどがどのように発展してきたのかを概観する。 | 【予習】身近な交通機関について、その沿革を整理してみる。 【復習】1987年の「国鉄分割・民営化」がなぜ行われ、どのような帰結をもたらしたのかについて、他の交通手段との関係を踏まえて整理してみる。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 交通市場の特性（『交通政策への招待』第3章） 交通市場がどのように分類されるかを考察し、各市場にどのような特徴・課題があるのか考察する。 | 【予習】交通機関にはどのようなものがあるのか調べておく。 【復習】地域内交通市場がどのような要因によって区分されるのかを整理し、それぞれの課題をまとめておく。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 交通需要の分析（『交通政策への招待』第4章） 交通サービスの特性を踏まえて、交通に対する需要がどのような特徴を持つかを考察する。あわせて交通手段選択の理論を紹介し、交通需要予測についても概観する。 | 【予習】ミクロ経済学における「弾力性」の概念を復習しておく。 【復習】・交通需要の特性が、交通事業者ならびにその利用者にどのような影響をもたらすのか整理する。あわせて「犠牲量モデル」を用いた交通手段の選択が具体的な数値例のもとで計算できるようにする。 | | | 60～90 | | |
| 第5回 | 交通における「規制」について（『交通政策への招待』第5章） 交通サービスがなぜ規制されるのか、どのような規制がなされるのかを概観する。 | 【予習】ミクロ経済学における「市場の失敗」の概念を復習しておく。 【復習】交通における規制の根拠と交通サービスの特性の関連について整理しておく。あわせて伝統的な規制理論における「参入規制」と「価格規制」の関わりについて整理する。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 交通における「規制緩和」について（『交通政策への招待』第6章） 交通サービスの規制緩和がなぜ可能なのか、どのような根拠で志向されるかについて考察する。 | 【予習】前回の講義内容を復習しておく。 【復習】「コンテストアビリティの理論」の経済学的前提と達成される結論、ならびにその実現可能（困難）性について整理する。 鉄道における規制緩和での上下分離の果たす役割について説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 規制緩和の事例（『交通政策への招待』第7章） 交通サービスの規制緩和がどのように実施されたのか、どのような帰結をもたらしたのかについて考察する。 | 【予習】前回の講義内容を復習しておく。あわせて、これまでに実現した「規制緩和」の例を探し出し、なぜそれが求められたのかを確認しておくとよい。 【復習】鉄道における上下分離や路線バスにおける分社化がなぜ実施されたのか規制緩和の文脈で説明してみる。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 限界費用価格形成とラムゼイ運賃（『交通政策への招待』第9章） ミクロ経済学からの帰結として導かれる「限界費用価格形成」が、なぜ現実の交通運賃では実現しないのかを考察する。その上で「次善」の運賃としてのラムゼイ運賃の考え方を説明し、その実現可能性を模索する。 | 【予習】ミクロ経済学における「完全競争市場」ならびに「独占」の概念を復習しておく。第8章も活用されたい。 【復習】限界費用価格形成がなぜ「最善」であるにもかかわらず実現しないのかについて整理する。そしてその課題をラムゼイ運賃でどこまで解決できているか確認しておくとよい。 | | | 60～90 | | |
| 第9回 | 実際の運賃設定（『交通政策への招待』第10章） 今日の日本の交通運賃制度の根幹となっている「総括原価主義」について、その考え方と問題点を考察する。あわせて、その問題点を解決するためにどのような運賃が考案されてきたかについても整理する。 | 【予習】第5回～第8回までの講義内容を復習しておく。 【復習】総括原価主義の考え方について説明できるようにする。その上でこの考え方がなぜ今日「改革」を迫られているかについて、他の考え方を踏まえて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 混雑料金とピークロードプライシング（『交通政策への招待』第11章） 混雑現象の解決策として提示される混雑料金とピークロードプライシングについて考察する。その上で、両者が実は相補的なものであることについて検討し、そして何故実際の運賃政策として採用されないのか考察する。 | 【予習】身近にある「混雑」現象について、それがなぜ生じ、何が問題なのかを整理しておく。 【復習】これらの理論に基づいて、首都圏の混雑はが問題で、改善するためには何が必要か説明できるようにする。 | | | 60～90 | | |

| | | | |
|---|---|--|--------|
| 第11回 | 交通と都市（『交通政策への招待』第12章） 初步的な立地理論を踏まえて、交通と都市・地域の関係について考察する。あわせて、地域開発の理論的基礎について概観する。 | 【予習】都心の地価が高く郊外の地価が安いのはなぜか、新幹線が開業するとしばしば駅前の大型店が閉店するのはなぜか考えてみる。 【復習】キャビタリゼーション仮説が妥当するためにはどのような条件が必要なのか整理しておく。 | 60~90 |
| 第12回 | 地域開発と交通投資（『交通政策への招待』第13章） 主に大都市圏において、地域開発における鉄道事業者が果たした役割について考察する。あわせて、その際に重要な「開発利益の還元」についても検討する。 | 【予習】前回の講義内容を復習しておく。 可能ならば「コースの定理」についてあらかじめ調べておく。 【復習】鉄道事業者はどのように開発利益の還元を実現していくのか、理論と実際の両面からまとめてみる。 | 60 |
| 第13回 | 費用便益分析（『交通政策への招待』第14章） 交通投資の採否の決定に用いられる費用便益分析について、その概要と課題を検討する。 | 【予習】ミクロ経済学における「パレート最適」の概念について復習しておく。 【復習】必要性に疑問のある交通プロジェクトが、しばしば「必要性あり」と判断されて実行される。費用便益分析の考え方を理解した上で、このようなことがなぜ起こるのか、どうしたら防げるかを考えてみる。 | 60~90 |
| 第14回 | まとめ—これからの交通と交通政策—（『交通政策への招待』第15章） 「交通問題」に关心を寄せる周辺領域においてどのような議論が（交通に対して）なされているか検討する。これまでの講義を振り返りつつ、地域の中で交通問題とどう向き合うべきかを今一度確認する。 | 【予習】武蔵野市の「ムーバス」はなぜ成功したのか、地域との関連で考えてみる。 【復習】期末試験に向けて、講義内容を再度確認することを通して、各自が関わる／関心を持つ交通問題をどう考えるかを検討して欲しい。 | 60~120 |
| 〔授業の方法〕 基本的には講義形式で行うが、折に触れて受講者に「質問」等を行う。折を見て小テストないしはコースパワーを通じた課題の出題（日時・回数は未定）を実施し、問題を解くことで理解しやすくなる事項の説明を補いたい。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験に基づいて成績評価する。上記の小テスト／課題は期末試験で合格点に達した人への加点材料としてのみ用いる。<100%> | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学の初步的な知識があることを期待する。 公共経済学・経済地理学などの知識があるとなおよい。 | | | |
| 〔テキスト〕 以下の文献に準拠して講義を進める予定である。ただし時間の都合上、全てを説明できるわけではない。 青木 亮・須田昌弥（2024）『交通政策への招待』ミネルヴァ書房。[2024年3月頃刊行予定] | | | |
| 〔参考書〕 交通経済学について、発展的な内容を自習したい向きには以下の文献を推奨する。 山内弘隆・竹内健蔵（2002）『交通経済学』有斐閣 そのほか関連する文献については、講義中に適宜紹介する。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。コースパワー等も適宜活用されたい。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | | 地域・環境特殊講義（環境と社会システム） | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------------|----------------------|------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 小室 譲 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121253620 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 社会の一員として、身近な地域から地球規模に至るさまざまな環境問題に目を向け、その解決のために考え、行動することは21世紀を生きる我々にとって不可欠なことです。あわせて現在の経済活動において、企業は環境に配慮せずに、経済的利益のみを追求するのが困難になりつつあります。そこで、本授業では環境と社会のかかわりという視点から、環境問題の沿革や論点を理解し、持続可能な社会の実現のために個人、企業、自治体、国家等が果たす役割について一緒に考えましょう。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、以下の到達目標を定める。 (1)環境と社会システムのかかわりについて論理的に理解する (2)持続可能な社会システムの構築について多面的にとらえる視点を養う (3)環境問題の解決に向けたさまざまな方策を考察し他者に説明する | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | 環境と社会の接点 | | シラバスを読んで、授業の目的・内容を確認する | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 環境問題の変遷1：経済成長と公害 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 環境問題の変遷2：江戸時代に学ぶ循環型社会 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 持続可能な社会の実現に向けて1：SDGsの沿革と各目標の確認 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 持続可能な社会の実現に向けて2：SDGs目標に関するケーススタディ | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 持続可能な社会の実現に向けて3：グループワーク | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 持続可能な社会の実現に向けて4：廃棄物の発生と対応 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 持続可能な社会の実現に向けて5：廃棄物の再利用 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 持続可能な社会の実現に向けて6：海外観光地の取り組み事例 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 期末発表のテーマ策定と計画立て | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 期末発表に向けた調査 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 120 | | | | | | | | |
| 第12回 | 発表演習1 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 発表演習2 | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業の総まとめ | | 学習内容について授業資料などをもとにふり返る | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 主に、授業の前半では講義、後半ではワーク演習の形式で進行します。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | | |

平常点（授業内課題やグループワークの参加状況など）：50%、発表演習と関連課題：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特に求めません。ただし、授業で学習する（した）事柄に関するインターネットやマスマディア等の情報に積極的に触れる習慣をつけましょう。

〔テキスト〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔参考書〕

必要に応じて、授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

初回の授業で説明します。

〔特記事項〕

※履修者が一定数以下の場合は、複数回分の授業において、環境と社会に関連して、現場学習（現地訪問）を実施する可能性があります。

| 科目名 | | 社会保障論A | | | | | |
|--|---|--------|---|--|-----|------|------------|
| 教員名 | | 内藤 朋枝 | | | | | |
| 科目No. | 121254000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 急速な少子化による保育所問題、就業環境の悪化とともに失業や貧困問題など、社会福祉が対応すべき問題は多様化し、深刻化しています。ややもすれば感情論で語られるがちな社会福祉の問題を、経済学の視点から解説を試みたいと思います。 社会経済状況や授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合がありますのでご注意下さい。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 社会福祉の各制度の仕組みを理解している。 ② 社会福祉の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、福祉の市場において留意すべき点を明確に説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) |
| 第1回 | ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。 | | | 【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。 | | | 60 |
| 第2回 | 社会政策の経済学的分析について 社会政策を如何に経済学的に分析するか学修する。 また関連する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。 | | | 【予習】テキスト第1章、第2章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第3回 | 社会政策の経済学理論1 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。 | | | 【予習】テキスト第1章、第2章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第4回 | 社会政策の経済学理論2 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。 | | | 【予習】テキスト第1章、第2章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第5回 | 社会政策の歴史と定義 貧困問題から始まる社会政策の歴史を概観し、基本的な仕組みを学修する。 日本における社会政策の定義と経済学的理論による社会政策の位置づけについて基本的な仕組みを学修する。※課題レポートについて説明する。 | | | 【予習】Course Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポートのガイダンスを確認する。 | | | 120 |
| 第6回 | 貧困とは何か 人は貧困に陥ったときどのような行動をとるのか。経済学的に検討する。 | | | 【予習】テキスト第5章、第3章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第7回 | 貧困問題と貧困対策 相対的貧困率の定義、貧困の状況、不利な家庭環境で育つ子どもへの支援策について学修する。 | | | 【予習】テキスト第5章、第3章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第8回 | 生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。 ※課題レポートを提出する | | | 【予習】テキスト第5章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第9回 | 生活保護 貧困へのアプローチおよび生活保護制度の仕組み、現状および課題について学修する。 | | | 【予習】テキスト第5章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第10回 | 最低賃金制度の仕組みと課題 最低賃金制度の仕組みや課題について学修する。 合わせて生活最低賃金の概念について学修する。 | | | 【予習】テキスト第7章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第11回 | 子育て支援 現在の少子化の現状について学修する 現金給付と現物給付の違い、少子化対策、子育て支援策・次世代支援策について学修する。 | | | 【予習】テキスト第10章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第12回 | 保育所問題 保育所の基本的な仕組み、待機児童問題について学修する。次世代育成支援策 | | | 【予習】テキスト第10章を読む。またはCourse Powerにあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第13回 | 到達度確認テスト | | | 【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。 | | | 120 |
| 第14回 | 到達度確認テストのフィードバックを行う | | | 【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直してください。 | | | 60 |

授業は講義形式でおこなう。

学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。

なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。

課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。

到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。

到達度確認テスト (60%)、課題レポート提出 (20%)、平常点 (授業への参加状況など) (20%) による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：ミクロ経済学理論、社会保障論 B、医療と健康の経済学、行動経済学など

〔テキスト〕

駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聰一郎・丸山 桂『社会政策一福祉と労働の経済学』

有斐閣アルマ、定価 2,700 円（本体 2,500 円）、ISBN 978-4-641-22058-4

購入の必要なし。

〔参考書〕

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

阿部彩『子どもの貧困』 岩波書店

駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聰一郎・丸山 桂『最低生活保障の実証分析』 有斐閣

鈴木亘『社会保障と財政の危機』 PHP 新書

アビジット.V. バナジー・エスティル・デュフロー（著）、山田浩生（訳）『貧乏人の経済学』 みすず書房

その他、授業中に紹介する。購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 社会保障論B | | | | | |
|--|---|--------|---|--|-----|------|-------------|
| 教員名 | | 内藤 朋枝 | | | | | |
| 科目No. | 121254100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、社会保障の基礎理論、特に公的年金・保険制度の基本的な概念および仕組みと主な課題について、経済学的視点から解説します。保険の機能などの基礎理論を学んだ上で、現在私たちを取り巻く社会経済要因が、年金および他の保険制度にどのような影響を及ぼすのかを理解します。なお、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がありますので、ご注意ください。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP 1 (専門分野の知識・技能) を達成するため、以下の 3 点の到達目標を掲げる。 ① 社会保障の機能、原理を説明できる。 ② 公的年金・保険制度がなぜ必要なのかを理解し、その仕組みを説明できる。 ③ 公的年金・保険制度に関する経済学的な理論を説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) |
| 第 1 回 | ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて社会保障を学修するにあたり必要な理論を概観する。 | | | 【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。 | | | 60 |
| 第 2 回 | 社会政策はなぜ必要か 社会保障、社会政策とは何か、その歴史的背景について学修する。 | | | 【予習】テキスト序章、第 1 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 3 回 | 社会政策の経済学 社会保障の経済学的位置づけについて学修する。 | | | 【予習】テキスト第 2 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 4 回 | 社会政策の経済学 社会政策をミクロ経済学および行動経済学の両面から学修する。 表題に関する資料を読み、本講義における課題レポート執筆のルールを学修する。 | | | 【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポート執筆のルールについて復習を行う。 | | | 60 |
| 第 5 回 | 社会政策・年金保険の経済学 特に年金保険制度の経済学的位置づけについて学修し、なぜ「国民皆保険・皆年金」が必要であるかを経済学的に学修する。 | | | 【予習】テキスト第 2 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 6 回 | 社会保障の財源問題 政府がなぜ再分配政策を行うのか、再分配政策における国と地方自治体の役割について学修する。 | | | 【予習】テキスト第 4 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 7 回 | 少子・高齢化に取り組む 少子・高齢化にどのように取り組むのか事例を元に検討する。 ※課題レポートを提出する。 | | | 【予習】Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 120 |
| 第 8 回 | 公的年金制度の概念 公的年金制度の概念と必要性について学修する。 | | | 【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 9 回 | 公的年金制度の仕組み 国民年金制度の被保険者の種類、給付と負担について学修する。 厚生年金保険、確定拠出年金の基本的な仕組みを学修する。 | | | 【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 10 回 | 公的年金制度が抱える問題 無年金者問題、公的年金の財源問題、国民年金の空洞化問題について学修する。 | | | 【予習】テキスト第 14 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 11 回 | 介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。 | | | 【予習】テキスト第 13 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第 12 回 | 介護保険制度の仕組みと課題 介護保険制度の仕組みや課題について学修する。 | | | 【予習】テキスト第 13 章を読む。または Course Power にあげられた資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 120 |
| 第 13 回 | 到達度確認テスト | | | 【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。 | | | 120 |
| 第 14 回 | 到達度確認テストのフィードバックを行う | | | 【予習】到達度確認テストの内容をテキストで見直してください。 | | | 60 |

〔授業の方法〕

経済

24/2/17 9時 42分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

授業は講義形式でおこなう。

学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。

なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。

課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。

到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。

到達度確認テスト (60%)、課題レポート提出 (20%)、平常点 (授業への参加状況など) (20%) による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：社会保障論 A、医療と健康の経済学、行動経済学など

〔テキスト〕

駒村 康平・山田 篤裕・四方 理人・田中 聰一郎・丸山 桂『社会政策・福祉と労働の経済学』

有斐閣アルマ、ISBN 978-4-641-22058-4、2500円+税

購入の必要なし

〔参考書〕

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞社

駒村康平編『日本の年金』岩波新書

鈴木亘『年金は本当にもらえるのか』ちくま新書

厚生労働省『厚生労働白書』ぎょうせい

その他、授業中に紹介する

購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 医療経済学 | | | | | |
|--|--|-------|---|--|-----|------|------------|
| 教員名 | | 内藤 朋枝 | | | | | |
| 科目No. | 121254200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 医療問題というと、経済学とは一見無関係に見えるが、医療保険制度、医療の供給体制など、経済学の視点が欠かせない。本講義では、上記の挙げられた医療問題に加え、健康を維持するための課題等について、経済学の視点から解説する。社会経済状況や授業の進捗などによって、内容を一部変更する場合がある。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 医療制度の仕組みを理解している。 ② 医療保険の原理を説明できる。 ③ 経済学の視点から、医療に関わる理論、問題点を明確に説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修(予習・復習等) | | | 準備学修の目安(分) |
| 第1回 | ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ミクロ経済学の概念を用いて医療について学修するにあたり必要な理論を概観する。 | | | 【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。本講義期間中に、現在加入している医療保険を確認しておくこと。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。 | | | 60 |
| 第2回 | 日本の医療制度 日本の医療制度の枠組みと、政策課題について学修する。 | | | 【予習】テキスト序章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。現在加入している医療保険を確認する。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第3回 | 医療サービスにおける政府の介入 医療サービスにおける政府の介入を市場の失敗の視点から学修する。 | | | 【予習】テキスト第2章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第4回 | 公的医療保険制度 公的医療保険の問題について経済学的に学修する。 | | | 【予習】テキスト第7章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第5回 | 医療サービスにおける情報の非対称性 患者と医師の関係を経済学的に学修する。 | | | 【予習】テキスト第1章、第3章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第6回 | 医師の偏在とマッチング 医師の偏在についての資料を読み学修すると同時に、課題レポートにて要求されているポイントについて演習を行う。 ※課題レポートについて説明する。 | | | 【予習】Course Power上の資料を読む。 【復習】課題レポート執筆のルールについて復習を行う。 | | | 60 |
| 第7回 | 健康の経済学 健康を保持するための行動理論について、資料を元に学修する。 | | | 【予習】テキスト第6章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第8回 | 混合診療1 混合診療禁止ルールを学修するにあたり混合診療の概念について学修する。 | | | 【予習】テキスト第9章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第9回 | 混合診療2 混合診療禁止ルールの維持と撤廃について効率性と公平性の観点から学修する。 | | | 【予習】テキスト第9章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】課題レポートの準備を行う。 | | | 120 |
| 第10回 | 病床規制 病床規制の根拠となっている供給者誘発需要について学修する。 ※課題レポートを提出する。 | | | 【予習】テキスト第4章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第11回 | 社会的入院 社会的入院の背景と今後について学修する。 | | | 【予習】テキスト第5章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 |
| 第12回 | 終末期医療と遺族 患者と家族の行動を行動経済学の枠組みで検討する。 | | | 【予習】テキスト第11章を読む。またはCourse Power上の資料を読む。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。 | | | 120 |
| 第13回 | 到達度確認テスト | | | 【予習】テキストまたはCourse Power上の資料を読み到達度確認テストに備える 【復習】テストの復習を行う | | | 120 |
| 第14回 | 総復習 授業全体を復習する。 期末テストについてのガイダンス、例題の演習を行う。 | | | 【予習】到達度確認テストの内容をテキストで確認する。 | | | 60 |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなう。 学生は、必要に応じて課題レポートを作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 なお、各テスト、レポートの狙いは以下のとおりである。 | | | | | | | |

課題レポート：授業内容の基本的な事項の理解度を深め、自分の考えを整理する。
到達度確認テスト：学修内容についての基本的な理解と、キーワードの理解を確認する。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。
到達度確認テスト (60%)、課題レポート提出 (20%)、平常点 (授業への参加状況など) (20%) による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目：社会保障論 A、B、行動経済学など

〔テキスト〕

河口洋行 『医療の経済学 [第4版]』 日本評論社 2500円
購入の必要なし。

〔参考書〕

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
健康保険組合連合会『図表でみる医療保障』（各年版）、ぎょうせい
大竹文雄・平井哲 『医療現場の行動経済学』 東洋経済新報社
津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』
その他、授業内で紹介する。購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | ベーシック民法 | | | | | | |
|--|--|----------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 渡邊 知行 | | | | | | |
| 科目No. | 121254300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 『市民生活・社会経済生活、企業取引に関する民法の基本的なルール（契約、所有権、不法行為など）』 ・民法の基本的な制度とルールを、具体的な事例に照らして理解する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を到達目標とする。を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につける。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解する。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容と進め方 ・民法の学習方法 | 授業内容の確認。 | | | 60分 | | |
| 第2回 | 民事法・民法の全体像 ・民法の適用範囲と特別法 ・民法の構造 ・民法改正の歴史 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第3回 | 民法の基本原則 ・権利と義務 ・物権と債権 ・権利の濫用 ・契約自由・所有権・過失責任 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第4回 | 法律行為・契約 ・法律行為・契約・意思表示 ・公序良俗と契約 ・契約の無効・取消事由 ・権利能力・意思能力・行為能力 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第5回 | 代理 ・代理制度の意義 ・無権代理 ・表見代理 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第6回 | 時効 ・時効制度の意義 ・完成猶予と更新 ・取得時効と消滅時効 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第7回 | 契約の成立と債務不履行 ・契約の成立 ・債務不履行と損害賠償 ・契約の解除 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第8回 | 所有権 ・動産と不動産 ・所有権の取得と対抗要件 ・物権的請求権 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第9回 | 不法行為 ・不法行為の機能と保険制度 ・不法行為の要件 ・使用者責任・工作物責任 ・損害賠償 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第10回 | 債務の弁済 ・保証・抵当権 ・銀行送金 ・クレジットカード | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第11回 | 家族法（親族法・相続法）の概要 ・夫婦・親子関係 ・法定相続・遺言 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第12回 | 紛争事例の解決（1） 消費者契約における紛争事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |
| 第13回 | 紛争事例の解決（2） 賃貸借契約における紛争事例を考察し、どのような解決を図るべきかを検討する。 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | | | 60分 | | |

| | | | |
|---|--|----------------------|-----|
| 第14回 | 授業で学習した内容の全体をまとめるとともに、権利の実現手段について補習する。 | 授業内容をテキストや授業資料で復習する。 | 60分 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に CoursePower に掲示した配布資料に基づいて、講義内容を詳説する。 ・第12回、13回の授業では、具体的な紛争事案を取り上げて、その事案や関連事案をどのように解決するかを検討する。授業のなかで受講者の意見を聞く。 ・課題レポート（中間レポート2回と期末レポート）提出を実施する。中間レポート課題は、基本的な知識や考え方を確認する。期末レポート課題は、授業で得られた成果を評価する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート課題（40%）、期末レポート課題（60%）。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. | | | |
| 次の3点に着目し、その達成度により評価する。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ①民法に関する基礎的な知識や考え方を身につけている。 ②民法の基本的な条文を読んでその内容を理解している。 ③民法の基本的な制度がどのように社会で機能しているかを理解している。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 特になし | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| 『民事法入門（第8版補訂版）』 野村豊弘著、有斐閣、1980円、ISBN : 9784641221987 | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| 授業のなかで紹介する。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 公共政策特殊講義（都市と経済厚生） | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------------|-----------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 中神 康博 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121254410 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 都市における様々な現象をミクロ経済学の知識に基づいて分析することを目的としている。前半は厚生経済学の基本的な概念を学び、社会的厚生について論ずる。後半はそれらの知識に基づいて都市における効率化政策と格差是正政策について議論する。とくに格差是正政策として労働所得税、土地課税などの税制、集団と個人に対する再分配政策などを取り上げる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ミクロ経済学の知識にもとづいて、都市が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション ・講義の目的と到達目標 ・効率性と公平性 | | 教科書18章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 生産と消費の基礎理論 ・生産理論 ・消費理論 | | 教科書18章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 厚生経済学の基本定理 ・生産の効率性 ・交換の効率性 | | 教科書19章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 厚生経済学の基本定理 ・生産量の組合せの効率性 ・厚生経済学の基本定理 | | 教科書19章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 社会的厚生 ・不平等税制政策 ・社会的厚生関数 ・社会的厚生最大化 | | 教科書20章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 社会的厚生 ・社会的厚生最大化の過程 ・効率化政策の代替政策 | | 教科書20章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 社会的厚生 ・効率化原則の長期的效果 ・所得再分配とモラル・ハザード | | 教科書20章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 効率化政策 ・厚生逐次改善原則 | | 教科書21章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 効率化政策 ・既得権保護政策 | | 教科書21章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 格差是正政策 ・労働所得税とインセンティブ ・土地課税とインセンティブ | | 教科書22章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 格差是正政策 ・集団再分配 | | 教科書22章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 格差是正政策 ・個人再分配 ・累進課税 | | 教科書22章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 格差是正政策 ・個人再分配 ・使途自由補助金 ・使途指定補助金 | | 教科書22章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ ・効率化政策と格差是正政策の両立 | | 教科書終章を読んでおくこと。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業は教科書に沿って講義形式で行われる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み）、中間試験、期末試験に基づいて成績評価する予定である。評価割合は、授業への取り組み方、中間試験、期末試験それぞれ 10%、30%、60%を原則とする。 | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| 〔成績評価の基準〕 到達目標であるミクロ経済学の知識にもとづいて、社会が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度にもとづいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学全般。 |
| 〔テキスト〕 『ミクロ経済学 II 効率化と格差是正』、八田達夫著、東洋経済新報社、3800 円、ISBN978-4-492-81300-3 |
| 〔参考書〕 必要に応じて授業の中で紹介する。 |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 公共政策特殊講義（グローバル社会と国際ビジネス） | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|---|--|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 永野 均 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121254420 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 日本の公的な对外金融機関である国際協力銀行（JBIC）での実務経験を活かし、日本を取り巻く国際関係や日本企業の对外的なビジネス動向等につき、国際協力銀行・国際機関・民間企業等の視点から、一部の授業では実務経験豊富な外部講師も迎えて講義を行う。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・各種の国際情勢に関する高いレベルでの知識を習得している。 ・グローバル社会の中での日本政府や企業等の取組について高いレベルでの知識を習得している。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明するとともに、受講生の関心テーマ等についての確認を行う。 | | | 事前にシラバスを読んだ上で、授業前後に各人が関心のあるテーマ等について整理し考察する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第2回 | 地球温暖化の現状と取組① ・特に地球温暖化対策で先行するヨーロッパの取組状況等について理解を深める。 | | | 地球温暖化に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第3回 | 地球温暖化の現状と取組② ・グローバルに進む地球温暖化対策の中での日本企業のビジネス動向について理解を深める。 | | | 地球温暖化に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第4回 | エネルギー問題とウクライナ情勢① ・ロシアによるウクライナ侵攻の実情や国際関係への影響について理解を深める。 | | | ロシアによるウクライナ侵攻に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第5回 | エネルギー問題とウクライナ情勢② ・ロシアによるウクライナ侵攻が日本のエネルギー動向や日本企業ビジネスに与える影響などについて考察する。 | | | ロシアによるウクライナ侵攻に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第6回 | 日本の对外援助の取組 ・主に国際協力機構（JICA）の取組を通じた ODA を中心とする日本の对外援助について理解を深める。 | | | 日本の对外援助の在り方に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第7回 | 中間振り返り ・これまでの授業を通じた疑問や気づきを整理し、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。 | | | これまでの授業を通じた疑問点や考察を予め整理しておくとともに、授業後はクラス内で出てきた意見等を踏まえて改めて問題意識や今後理解を深めて行きたい事柄について考える。 | | | 60 | | | | | | |
| 第8回 | アジア地域におけるインフラ支援等について ・日本も参画する国際機関であるアジア開発銀行（ADB）のアジア向けインフラ支援動向について理解を深める。 | | | アジア開発銀行やアジア地域における日本の对外援助の在り方に対する疑問を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第9回 | 中国による霸権拡大と日本の立ち位置 中国が主導する国際機関であるAIIBによる世界のインフラ支援動向を含む中国の霸権拡大と日本への影響について理解を深める。 | | | 中国による霸権拡大の動向やAIIBの取組に対する疑問を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第10回 | グローバル社会の変化と農業 ・グローバル社会が変化する中での農業の位置づけと日本企業の取り組みについて理解を深める。 | | | 変化するグローバル社会における日本の農業の在り方や関連ビジネスに対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第11回 | グローバルな「地経学」の変化と日本 ロシアによるウクライナ侵攻、米中関係その他の激動する世界における地経学の動向や日本の立ち位置等について考察する。 | | | 激動する国際情勢の中での日本の立ち位置に対する疑問等を事前に考えるとともに、授業を踏まえての考察や気づきを整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第12回 | 個人又はグループプレゼンテーション① ・授業と関連あるテーマについてプレゼンを行い、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。 | | | 事前にプレゼンテーションの発表準備を行う。授業での他メンバーの発表や質疑を踏まえての気づき等を整理する。 | | | 120 | | | | | | |
| 第13回 | 個人又はグループプレゼンテーション② ・授業と関連あるテーマについてプレゼンを行い、クラス内で質疑応答やディスカッションを行う。 | | | 事前にプレゼンテーションの発表準備を行う。授業での他メンバーの発表や質疑を踏まえての気づき等を整理する。 | | | 120 | | | | | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・これまでの授業内容を通じての振り返りや質疑・応答を行う。 | | | これまでの授業を通じての疑問点や気づき等を今一度まとめる。授業を踏まえ、今後に向けた各人の研究課題等を整理する。 | | | 60 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 ・授業は主に教員及びテーマごとの外部の専門家を招いて講義形式で行うが、トピックによりグループワークや質疑応答も取り入れた双方向の形をとる。受講人数次第で、終盤の授業回にグループまたは個人別のプレゼン発表を行う予定。課題レポート2回及び期末レポートの実施により知識の定着を図る。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 個人別又はグループ別プレゼン（30%）、課題レポート（2回：30%）、期末レポート（40%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問等授業への積極的な参加をプラスに評価する。 | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 国際情勢やグローバル社会の中での日本政府や日本企業等の取組について、自身の頭でしっかりと考察し、視野を広げつつ問題意識を深めて探求できているかに着目し、評価を行う。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にないが、日常より新聞や関連書籍等から情報を収集する姿勢をもち、自分の頭で、日本の政府・企業や個々人が取り組むべきことについて探求することが重要である。</p> |
| <p>〔テキスト〕 特になし。</p> |
| <p>〔参考書〕 特になし。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付け、また随時メールでの受け付けも可。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> |

| 科目名 | | 社会経済地理学 | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------------|---------|--|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 小田 宏信 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121340300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 1年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 この科目では、グローバル化した現代世界の地域課題を理解するとともに、これに関わる社会経済地理学および隣接領域の社会科学の諸概念に対する理解を深めます。グローバル化のプロセスは、世界を画一的なものに塗り替えつつも、さまざまなロカリティを表出させ、世界都市やメガシティの形成、一方での経済的に困難な地域の形成などを随伴させています。本講義では、まずは、グローバル化に至るまでの世界経済の諸プロセスを見た上で、多国籍企業による世界の組織化、またグローバル価値連鎖のもとでの世界の地域間関係を明らかにします。その上で、先進資本主義国、新興諸国それぞれでの経済発展の地域的跛行性と地域経済社会の諸相と諸問題を理解し、持続可能な未来への展望へとつなげます。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1-1（現代経済学科の専門分野に関する知識・理解）および DP3-1（課題の本質を発見するために必要な情報を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身に付けている）を実現するため、以下を到達目標とする。 社会経済地理学および隣接分野の諸概念を用いて、経済発展の空間的プロセスと現代経済の地域的および環境上の諸問題について理解することができる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | 変貌する世界の地域景観 | | ・テキストの序章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | グローバルな持続困難性——人口増加と食料生産に着目して | | ・前回の内容を復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 経済発展とその地域的跛行性——世界の「中核」と「周辺」、「半周辺」 | | ・前回の内容を復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 経済のグローバル化のプロセス | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第5章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | グローバルな商品流動と価値連鎖 | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第6章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 国民経済内の地域間不均衡と都市群システム | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第2章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 大都市問題と大都市政策の起源 | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第8章、第9章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 大都市の衰退と再生、そして世界都市化 | | ・前回の内容を復習する。 ・引き続き、テキストの第8章、第9章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 産業衰退地域の再生 | | ・前回の内容を復習する。 ・再び、テキストの第2章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | イノベイティブ、クリエイティブな産業集積 | | ・前回の内容を復習する。 ・再び、テキストの第2章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 東南アジア経済発展の構図 | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第11章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 東南アジアにおける人口の大都市集中と貧困 | | ・前回の内容を復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 持続可能な開発と経済地理学 | | ・前回の内容を復習する。 ・テキストの第19章に目を通す。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ | | ・全体の内容を復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 配布資料に沿って、スライドを用いて解説していきます。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | | |

平常点（授業中の小課題への取り組みなど）35%，期末テスト 65%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、達成度により評価する。

- ・資本主義世界の経済発展の空間的側面を理解できる。
- ・空間的な視点から現代世界の地域的問題を見渡すことができる。
- ・社会経済地理学および隣接分野の諸概念を理解できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

関連科目として教養カリ開講の「現代社会の地理」「日本の国土と社会」、経済学部開講の「経済地理学A」「経済地理学B」など。

〔テキスト〕

『経済地理学への招待』、伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編、ミネルヴァ書房、2020年、ISBN-13: 978-4-623-08691-7

このテキストのうち、序章、第2章、第6章、第8章、第9章、第11章、第19章の内容を授業では扱います。2年次配当の「経済地理学A」と共通して用いるテキストになります。

〔参考書〕

『現代社会の経済地理学』、林上著、原書房、2010年、ISBN-13: 978-4-562-09171-3

『グローバリゼーションの地理学』、田中恭子著、時潮社、2017年、ISBN-13: 978-4-750-34741-7

『グローバリゼーション—縮小する世界—』、矢ヶ崎典隆ほか編著、朝倉書店、2018年、ISBN-13: 978-4-254-16881-5

『東南アジア・オセアニア』、菊地俊夫・小田宏信編著、朝倉書店、2014年、ISBN-13: 978-4-254-16927-0

『ヨーロッパ』、加賀美雅弘編著、朝倉書店、2019年、ISBN-13: 978-4-254-16931-7

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | ゲーム理論 | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------------|-------|-------------------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 吉田 由寛 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 この授業では、現代経済学の理解にとって必須となっているゲーム理論を解説する。ゲーム理論の標準的な入門書を用いて、人々の利害が絡み合う状況をゲームとして捉え、人々が取るべき行動や社会の均衡状態を考察したい。また、ゲーム理論の応用として、寡占市場の分析を行う。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・実際の人間関係を抽象化してゲームとしてモデル化するというゲーム理論の方法論を理解する。 ・戦略形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。 ・展開形ゲームが表す人間関係を理解し、個人の行動や社会の状態を分析できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス／ゲーム理論とは何だろうか？ [Ch. 1] | | 当授業での注意点を把握する。／教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第2回 | 選択と意思決定 [Ch. 2] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第3回 | 戦略ゲーム [Ch. 3] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第4回 | ナッシュ均衡点 [Ch. 4] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第5回 | 利害の対立と協力 [Ch. 5] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第6回 | ダイナミックなゲーム [Ch. 6] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第7回 | 繰り返しゲーム [Ch. 7] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第8回 | 寡占市場のゲーム理論による分析 1 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第9回 | 寡占市場のゲーム理論による分析 2 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第10回 | 不確実な相手とのゲーム [Ch. 8] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第11回 | 交渉ゲーム [Ch. 9] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第12回 | グループ形成と利得分配 [Ch. 10] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第13回 | 進化ゲーム [Ch. 11] | | 教科書で予習復習を行い、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめと質疑応答 | | すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条・第39条）に準拠し、到達目標への達成度を評価する。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 各学科で開講されているミクロ経済学と経済数学の内容を予備知識とする。 |
| 〔テキスト〕 教科書として以下を指定する。 ・岡田章『ゲーム理論・入門 -- 人間社会の理解のために（新版）』、有斐閣、2014年 |
| 〔参考書〕 必要に応じて授業中に紹介する。 |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は授業終了後に教室で、またメールで受け付ける。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 情報の経済学 | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------|--------|---|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 吉田 由寛 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 当科目のキーワードは「情報」である。正しい情報を持たない（持てない）状態を「不確実性」という。また、情報を持つ者と持たない者が共存する状態を「情報の非対称性」という。 授業ではまず、不確実性が伴う世界において、人々がどのような行動基準を持っているのか、経済学における伝統的な理論を紹介する。次に、情報を獲得した者はそれをどのように利用するのかについて考察を与える。そして、情報の非対称性の下では、このような情報利用が資源配分上の非効率性を引き起こしてしまうことを詳細に説明する。 授業では、上記に加え、この分野（あるいは関連分野）の最新トピックスを紹介することにしたい。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 E19 以前の学生は DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、E20 以降の学生は DP1（専門分野の知識・技能）と DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none">・不確実性下での合理的行動を説明できる。・情報の非対称性によって引き起こる問題を理解する。・情報共有に関する問題を理解する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第 1 回 | ガイダンス／期待効用理論 1：基礎 | | 当授業での注意点を把握する。／授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 期待効用理論 2：応用 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 3 回 | ゲーム理論の基礎 1：戦略形ゲーム | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 4 回 | ゲーム理論の基礎 2：展開形ゲーム | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 5 回 | 情報の取得と活用 1：情報集合 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 6 回 | 情報の取得と活用 2：ベイズの定理 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 7 回 | モラルハザード 1：導入 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 8 回 | モラルハザード 2：展開 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 9 回 | 逆選択 1：導入 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 10 回 | 逆選択 2：展開 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 11 回 | シグナリング 1：導入 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 12 回 | シグナリング 2：展開 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 13 回 | 情報・知識の共有 1：共有の難しさ | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 第 14 回 | 情報・知識の共有 2：安易な共有／まとめと質疑応答 | | 授業内容を復習し、練習問題を解く。／すべての練習問題を復習し、学期末試験に備える。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 基本的に講義形式の授業である。授業内容の理解を確認する目的で宿題レポートを課す。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | | |

授業への積極的参加（10%程度）、宿題（30%程度）、学期末試験（60%程度）により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条・第39条）に準拠し、到達目標への達成度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

『ゲーム理論』が関連科目である。

〔テキスト〕

後日指定するか、テーマに応じて文献を配布する。

〔参考書〕

必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は授業終了後に教室で、またメールで受け付ける。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 経済発展論 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|----------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 清水 政行 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 開発途上国では、“持続的”な経済発展が望まれており、それを実現するためには発展のメカニズムや発展に必要な政策について理解することが重要になる。本講義では、「どうすれば途上国の経済は発展するのか」をテーマに、アジア諸国の経験を参考にしながら経済発展論を学習し、開発経済学的な観点から開発のあり方について理解を深めていく。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。 2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | 経済発展論とは? :成長のアジアと停滞のアフリカ | | 配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 貧困のメカニズム :発展を開始する以前の経済 [テキスト：渡辺（2010）1章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 人口転換I :人口構造の変化と爆発的増加 [テキスト：渡辺（2010）2章] [参考書：ワイル（2010）4章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 人口転換II :人口ボーナスと少子高齢化 [テキスト：渡辺（2010）3章] [参考書：ワイル（2010）5章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 農業発展I :緑の革命と誘発的技術進歩 [テキスト：渡辺（2010）4章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 農業発展II :農業開発と工業化とのつながり [参考書：ワイル（2010）7章] | | 配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 工業発展I :工業化のメカニズム [テキスト：渡辺（2010）5章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 工業発展II :二重経済的発展 [テキスト：渡辺（2010）5章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 工業化政策I :工業化の初期条件と輸入代替工業化 [テキスト：渡辺（2010）6章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 工業化政策II :輸出志向工業化と海外直接投資 [テキスト：渡辺（2010）7章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 技術伝播 :経済成長の源泉 [参考書：ワイル（2010）8章] | | 配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 体制転換 :中国の経験 [テキスト：渡辺（2010）8章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 金融危機 :グローバリゼーションの影響 [テキスト：渡辺（2010）10章・11章] | | テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 環境問題 :持続可能な発展 [参考書：ワイル（2010）15章・16章] | | 配付資料を読み、授業の内容を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2~3回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。 | | | | | | | | | | | | | | |

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。

1. 開発経済学的な観点から、経済発展のメカニズムや要因を理解できる。
2. 開発経済学的な分析から、経済開発のあり方や必要な政策を考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初級ミクロ経済学および初級マクロ経済学を履修していることを前提にして講義を実施する。

〔テキスト〕

渡辺利夫『開発経済学入門 第3版』東洋経済新報社 2010年 (2,800円+税)

〔参考書〕

デイヴィッド・N・ワイル『経済成長 第2版』ピアソン桐原 2010年 (4,000円+税) ※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

| 科目名 | 行動経済学 | | | | | | |
|---|---|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 内藤 朋枝 | | | | | | |
| 科目No. | 121345300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 伝統的な経済学において、人間は、他からの影響を受けず、全ての情報を用いて合理的意思決定が行われる存在（ホモエコノミカス）として仮定されている。一方、行動経済学においては、このような合理性から系統的にずれる「バイアス」が存在することが前提になっている。 本講義では、行動経済において整理されている、人間の意思決定における系統的なバイアスについて学修する。さらに、行動経済学的特性を用いて、金銭や、罰則付きの規制を使うことなく、人々の行動をよりよい（合理的な）ものに変えていく方法（ナッジ）について学ぶ。 トピックは進度や状況に応じて変更することがある。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、以下の3点の到達目標を掲げる。 ① 行動経済学の原理を理解している。 ② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。 ③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス 研究倫理について 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 伝統的経済学にて前提とされる意思決定者の特徴と、行動経済学にて前提とされる意思決定者について学修する。 | 【予習】シラバスを確認し、予習、復習などイメージしづらい所をピックアップしておく。 【復習】ミクロ経済学の理論を確認しておく。 | | | 30 | | |
| 第2回 | 時間選好1 人間は現在の楽しみを優先し、将来の計画を先延ばしにしてしまうことが分かっている。 ここでは現在バイアスという概念について学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 時間選好2 引き続き現在バイアスという概念についていくつかの実例を見ながら学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第4回 | コミットメント 「時間非整合な意思決定」をどのように是正できるのかについて検討する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第5回 | プロスペクト理論1 行動経済学では不確実性のもと、意思決定を行う場合、客観的確率に従わないことが分かっている。そのような人間の行動メカニズムについて学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第6回 | プロスペクト理論2 ここでは、主に確実性効果、損失回避などの概念について学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第7回 | ハロー効果 私たちの成功は運と努力どちらの効果がより大きいのだろうか。ハロー効果の概念の理解と共に検討する。※課題レポート1について説明する | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第8回 | ヒューリスティックス1 人々は決して全ての情報を最大限に活かして意思決定できるわけではない。 ここでは「直感的意味決定」の概念について学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第9回 | ヒューリスティックス2 直感的意味決定に従う上でどの様な社会的影響があるのか、について学修する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】課題レポート1の準備を行う。キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 社会的選好1 行動経済学において、人間は他者の目的・金銭的利得への関心を持つことが想定されている。 このような互恵性、利他性について学修する。 ※課題レポート1を提出する | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 120 | | |
| 第11回 | 社会的選好2 社会的選好を用いて、男女格差や労働生産性にどのようにアプローチできるかについて検討する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第12回 | ナッジ ナッジの概念について学修する。 どの様な条件が揃えばナッジといえるのか実例を見ながら検討する。 ※課題レポート2について説明する | 【予習】Course Power 上の資料を読む。日常の場面でナッジが使われていると考えられる現象を見つけてくる。 【復習】キーワードを説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第13回 | ナッジと公共政策 ナッジが使われていると考えられている公共政策について学修する。 行動経済学的にみてどの様な政策がよいか例を見ながら検討する。 | 【予習】Course Power 上の資料を読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。課題レポート2の準備を行う。 | | | 120 | | |

| | | | |
|---|-------------------|--|----|
| 第14回 | 総復習 授業全体を復習する。 | 【予習】確認テストの内容をテキストで確認する。 【復習】重要箇所を理解・説明できるようにする。 | 60 |
| 〔授業の方法〕 学生は、課題レポート1、課題レポート2を作成し、提出することを求められる。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解に応じて取り組むこと。 状況に応じてトピックならびにスケジュールの調整がおこなわれることがある。 課題レポート1：授業内容の基本的な事項の理解を深め、自分の考えを整理する。 課題レポート2：行動経済学の基本的な概念の理解を深め、政策への転換について検討する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 課題レポート1、2、Course Power 等を用いたレポート、小テストの提出など、学生の受講状況および授業進捗に応じた方法を用いて評価する。 課題レポート1 (40%)、課題レポート1 (45%)、平常点 (授業への参加状況など) (15%) による総合評価。 なお、課題レポート等についてグループで話し合う事は構わないが、必ず自分なりの意見・言葉でレポートを作成すること。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 特に以下の到達目標に着目し、その達成度により評価する。 ① 行動経済学の原理を理解している。 ② 行動経済学的視点とミクロ経済学視点の違いを説明できる。 ③ 行動経済学の観点から、社会問題に関わる理論、課題、解決策について説明できる。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：ミクロ経済学、社会学、社会保障論 A、B など | | | |
| 〔テキスト〕 特になし 参考書をもとに作成した資料を配布する。 | | | |
| 〔参考書〕 大竹文雄 『行動経済学の使い方』 岩波新書 820円 ISBN:978-4-00-431795-1 バデリー、ミシェル 『[エッセンシャル版] 行動経済学』 早川書房 1600円 ISBN:978-4-15-209794-1 セイラー、リチャード、サンスティーン、キャス 『実践行動経済学—健康、富、幸福への聰明な選択』 日経BP社 2420円 ISBN:978-4-8222-4747-8 購入の必要なし。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 国際マクロ経済学 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----------|-----------------------------------|------|-----|-------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 鈴木 史馬 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面 (Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance) と呼ばれる領域のテーマを扱います。特に、動学的なマクロ経済学の標準的な理論を復習しながら、それを国際経済でのマクロ経済現象の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1 (専門分野の知識・技能)、DP 3 (課題の発見と解決) を身に着けるために実現するため、以下を到達目標とする。 1. マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。 2. マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | | | | | | | |
| 第1回 | マクロ経済学の基礎(1) 国民経済計算から国際収支統計 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | マクロ経済学の基礎 (2) マクロ経済モデルの基本構造 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 代表的家計の最適化行動 (1) 無差別曲線と予算制約 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 代表的家計の最適化行動 (2) 最適化行動 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 交換経済 2期間一般均衡モデル～閉鎖経済の均衡 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 為替レートの考え方～金利平価と購買力平価 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 開放交換経済 2期間一般均衡モデル(1) 国際的な金融市场が完全な場合 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 開放交換経済 2期間一般均衡モデル(2) 国際的な金融市场が不完全な場合 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 企業の最適化行動 利潤を求める生産活動を行う企業の行動を説明する | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 政府 政府支出を行い課税し国債を発行する政府行動を説明する | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(1) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(2) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(2) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業のまとめ | | これまでの授業内容をよく復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点（毎回の提出課題等）(40%)で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（毎回の提出課題や授業内での試験等）(100%)で成績評価する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | | |

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価します。

1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。
2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。
3. 発展的テーマへの考察ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：

経済数理学科 「マクロ経済学I・II」「金融論」など

現代経済学科 「初級マクロ経済学I・II」「金融論」など

経済経営学科 「マクロ経済学入門I・II」「金融経済学」

〔テキスト〕

適宜、指定する。

〔参考書〕

適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 応用計量経済学 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---------|-----------------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 庄司 俊章 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 これまで学んできた計量経済学・統計学の知識をベースにして、この講義では因果推論（因果関係を特定するための計量分析デザイン）について学習します。具体的には、RCT（ランダム化比較試験）やDID（差分の差）、アンケート調査の注意点などについて、実際のデータを用いて学習します。また、回帰分析の考え方や確率統計の基礎知識についても解説します。なお、授業の進捗に応じて内容を変更することがあります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能)、DP3(課題の発見と解決)を実現するため、次のような水準に履修学生が到達することを目標とする。 ① 経済データの構造や観測方法について、基礎的な知識を身につける。 ② データを用いて計量経済学的な分析ができるようになる。 ③ 分析結果をレポートやプレゼンテーションにまとめ、他者に説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション 授業で利用するソフトウェアの講義 | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | RCT（ランダム化比較試験） ・サンプル平均処置効果を求める分析デザイン | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 演習問題1：労働市場における人種差別 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第4回 | DID（差分の差） ・パネルデータを活用した政策効果の測定 | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 演習問題2：最低賃金の引き上げとファストフード産業における雇用 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第6回 | アンケート調査の注意点 ・サンプルの代表性、回答の歪みについて | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 演習問題3：アフガニスタンにおけるアンケート調査 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第8回 | 予測としての回帰分析 ・回帰係数、標準誤差、t値、信頼区間などの解釈 | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 演習問題4：世論調査を用いた米大統領選の予測 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第10回 | 確率 ・確率の基本概念と評価方法、確率変数、期待値 | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 演習問題5：誕生日問題と大数の法則 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第12回 | 計量分析としての回帰分析 ・推定量の一致性、欠落変数バイアス、仮説検定 | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 演習問題6：クラスサイズがテスト成績に与える影響 | | 【予習】演習問題に取り組む。 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業内容の総括・まとめ | | 【復習】授業内容を再確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業では、上に示したような様々なトピックに関する社会科学データを実際に取り扱う。各トピックについて、講義とコンピュータ演習を並行して行うため、受講者には積極的に手を動かして演習に臨む姿勢が求められる。なお演習ではRとRStudioを用いる。授業内容は下記テキストに準拠する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点（授業内の演習課題や参加状況）20%、授業内に実施する小テスト80%を基本として成績評価します。このほか、必要に応じて課題レポートを出題する可能性もあります。 | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目は以下の通り。 経済数理学科生：計量経済学Ⅰ、Ⅱ（できれば計量経済学Ⅲまで履修していることが望ましい） 現代経済学科生：初級統計学Ⅰ、Ⅱ（できれば中級計量経済学まで履修していることが望ましい） なお、R や Rstudio に関する予備知識は必要ありません。</p> |
| <p>〔テキスト〕 『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』、今井耕介、2018年、岩波書店。（購入の必要なし）</p> |
| <p>〔参考書〕 『データ分析の力』、伊藤公一朗、2017年、光文社新書。 『入門 実践する計量経済学』、藪友良、2023年、東洋経済新報社 『入門 実践する統計学』、藪友良、2012年、東洋経済新報社 『入門 計量経済学』、James H. Stock 著・Mark W. Watson 著・宮尾 龍藏 訳、2016年、共立出版 (いずれも購入の必要なし)</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p> |
| <p>〔特記事項〕 ICT 教育科目、アクティブ・ラーニング</p> |

| 科目名 | | 人口学 | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------------------------|-------|---|--|-----|------|---------------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 永瀬 伸子 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121345600 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 日本の人口構造の変化の統計を踏まえて、それがどのように起きてきたのか、人々の選択行動と結婚、出生、死亡について学ぶ。また人口転換、第2の人口転換などの概念を学ぶ。さらに人口構造の変化は今後社会をどのように変化させていくか、労働力、社会保障などの課題を学ぶ。ではいったいどのような政策をとれば良いのかについて考える。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 日本の人口問題に関して、経済学の枠組みを用いて、変化の要因を考察できる。またこの授業をとることで、長寿化が、どう年金、医療、介護などの社会保障に影響を与えるか、また借金としての奨学金、育児休業の不備などがどう若者の経済行動に対する制約となるかを分析できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | 講義の導入 日本が面している人口問題について考える | | | 中央公論 2024年2月号 「令和生まれが見る2100年の日本」 三村明夫+人口戦略会議「緊急提言「人口ビジョン2100」を読む | | | 1時間から2時間 | | | | | | |
| 第2回 | 少子化はなぜ起きているのか、未婚子の親同居の長期化と結婚の減少、出産の減少 | | | 前回の復習およびテキスト第2章配偶者サーチを読む では男性の場合はどうなのか? 配偶者サーチについて考える | | | 2時間 | | | | | | |
| 第3回 | 子どものコストとベネフィットは何か | | | 前回の復習および子どもコストの推計 永瀬伸子論文 JSTAGE 人口学研究を読む | | | 2時間 | | | | | | |
| 第4回 | 生涯シングルの増加と社会への影響 | | | 前回の復習およびテキスト第5章 生涯シングル女性の生活を読む では男性のシングルはどう変化しているのかを調べる | | | 2時間 | | | | | | |
| 第5回 | 日本の結婚・出産とキャリア形成 | | | 前回の復習およびテキスト3章 日本の結婚・出産が男女の仕事とどうかかわっていたのかを読む、そして今後どう変化するかを考える | | | 2時間 | | | | | | |
| 第6回 | 教育投資と大学の收益率 | | | 前回の復習およびテキスト1章 教育投資と大学の收益率を読む 男女でどう異なるのかを考え、海外事例を調べる 若者の奨学金負担の問題についても調べる | | | 2時間 | | | | | | |
| 第7回 | 女性のライフコースと再就職 | | | 前回の復習およびテキスト6章 を読む。主婦の再就職はなぜ低賃金が多いのかについて考え、発表する、このことが男性の働き方に与える影響を考える | | | 2時間 | | | | | | |
| 第8回 | 高齢期の変化 3世代同居から単身へ | | | 前回の復習およびテキスト第7章 老後生活の経済を読む では男性の場合はどうかを調べる | | | 2時間 | | | | | | |
| 第9回 | 少子化の進展 日本と世界とを比較する | | | 世界の少子化と日本の少子化に関して調べる 少子化が日本ほどすんていな西欧諸国と日本と同様にすむ東アジアについて調べる | | | 2時間 | | | | | | |
| 第10回 | 人口転換、第2の人口転換について学ぶ | | | 前回の復習および人口転換とは? 第2の人口転換とは?について調べる | | | 60分 | | | | | | |
| 第11回 | 少子長寿化と年金保険財政 | | | 前回の復習および人口推計がると年金の財政見通しが5年ごとになされる。最近の年金見通しからなにがわかるかを調べる | | | 2時間 | | | | | | |
| 第12回 | 少子長寿化と医療介護保険財政 | | | 前回の復習および介護保険や医療保険は高齢期にどのような影響を与えているか、財政はどうか | | | 2時間 | | | | | | |
| 第13回 | 若者への雇用政策と社会保障 | | | 前回の復習および若者に対してどのような雇用政策や社会保障が必要なのか調べる (児童手当、育児休業給付、育児短時間など) | | | 2時間 | | | | | | |
| 第14回 | これからの日本の人口の変化について | | | この授業で何を学んだのか、グループ発表 | | | 2時間 グループ発表の準備をする | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義が中心である。ただし初回でグループをつくる。 講義の終わりにグループの中で討論をしてもらう。次の授業の最初に1グループが討論した内容を発表する（順番はきめておくが、前の週の授業について、毎回1グループの学生の発表を聞くというスタイルをとる）。そのグループの学生は発表者以外もA41枚のレポート提出すること。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 グループ発表の際の個人レポート（20%）、平常点（授業への参加状況やコメントの提出状況）（30%）、試験（50%） | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | |

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
永瀬伸子・寺村絵里子編著（2021）『少子化と女性のライフコース』原書房 3520円

〔参考書〕
中央公論 2024年2月号 「令和生まれが見る2100年の日本」 三村明夫+人口戦略会議「緊急提言「人口ビジョン2100」「消滅可能性都市896の衝撃」
対談 三村明夫×増田寛也「今が未来を選択できるラストチャンス」
永瀬伸子（2001）「子どもコストの推計：家計および資産面からの分析」『人口学研究』第28号 1-15頁。（Jstageで読みます）
永瀬伸子（2014）「育児短時間の義務化が第1子出産と就業継続、出産意欲に与える影響：法改正を自然実験とした実証分析」『人口学研究』第37巻第1号, p27-53.（Jstageで読みます）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | 社会学 | | | | | | |
|---|---|--|---|------|-------------|------|---------|
| 教員名 | 挾本 佳代 | | | | | | |
| 科目No. | 121345700 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 テーマ：「社会を考える 公と私」 この授業では、社会学的方法論を用いて「社会」を分析し、現代社会の諸相を講義形式で考察していきます。特に、社会学の二大理論である「社会システム論」と「コミュニケーション論」双方の概念および理論の解説を丹念に行っていきます。 社会学理論の大前提には、わたしたち人間が「社会」を崩壊することなく、少しでも長く秩序づけられた状態を維持しようとする人間の側からの暗黙の諒解があります。しかし、この人間による諒解により、人間と「社会」をとりまく環境に少なからぬ負荷を与えています。 そうした現状を正確に把握するために、社会学的な視座を用いることで浮上する近代社会の解釈、経済現状、多岐に複雑化する現代の社会問題を考察していきます。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 1 (専門分野の知識・技能)、D P 3 (課題の発見と解決)を実現するため、以下を到達目標とする。 ①社会でできている「公と私」の相克関係を理解し、説明できる。 ②自分が生きている社会の問題点の在処を知り、社会の中での自らの立ち位置を明確に他人に理解させることができる。 ③社会学理論を理解し、社会学的の考察をすることができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | |
| 第1回 | イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・「公と私」の関係性の破綻にはどのようなものがあるかを把握する。 ・社会学の謎 | 【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 「社会」とは何か／その理論 ・社会学における社会理論を解説する。 ・そもそも「社会」とはどういう状態を指し示しているのかを解説する。 ・社会学の歴史を通し、「社会」がどのように捉えられるべきものとして変遷してきたのかを解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（1） ・「無縁社会」の現状を解説する。 ・NHK「無縁社会キャンペーン」を考察する。 ・「無縁社会」批判を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 「社会」としての人間の結びつき／つながりの限界（2） ・家族、職場、地域社会の抱える問題点を考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第5回 | わたし探しのゆくえ ・社会の中で上手くコミュニケーションがとれない人間は、アイデンティティの在処を追い求める「わたし探し」をし続けなければならないのか、について解説する。 ・ジェンダー、セクシュアリティの観点からも考える。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第6回 | コミュニケーション不全は解決できるか ・平野啓一郎による「分人」という考え方を解説する。 ・「分人」によって社会の中の一人の人間は救われるかどうかを考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 90 | | |
| 第7回 | 中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するためのテストを行う。 | 【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第8回 | コミュニケーションの可能性 ・コミュニケーションは人間の結びつき、つながりを密接なものにするのかどうかを考察する。 ・「コミュニケーション」という言葉が使われる現状を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 政治という非日常 ・「大きな政府」「小さな政府」を解説する。 ・それぞれの政府の問題点についても検討する。 ・個人が「公」との矛盾を小さくするには、どちらの政府が良いのかを考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 集団とネットワーク／メディアの可能性 ・社会全体と個人の意思疎通を図るものとして、ネットワークやメディアはどのように使われていくべきかを解説する。 ・メディアによって作り上げられる「理想の自分像」はないかどうかを考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 神話世界としての消費空間 ・みせびらかしの消費、消費の合理化から現代社会を考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |

| | | | |
|---|---|--|----|
| 第12回 | マスメディアに踊らされる個性のゆくえ ・ミニマリズム、断捨離、ときめき片づけといった、作り上げられる流行に振り回されて個性は確立されるかについて考える。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 60 |
| 第13回 | 社会学の必要性 ・社会の発展法則の解明、危機の時代にこそ対応できる社会学、社会秩序のあり方について考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 60 |
| 第14回 | 総括 ・授業のまとめ キーワード、キー概念等を確認する。 ・到達度確認テスト | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 60 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| 基本的に、教科書、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ・中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ・課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| 随時行う課題への解答／コメント（20%）、中間テスト（20%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・社会学理論の基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ・「社会と個人」「公と私」の相克に対する深い思考。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| 『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』、出口剛司、株式会社KADOKAWA、1500円（税別） ISBN978-4-04-601990-5 教科書は書かれた順番通りには使用しない。 | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| 『ファーストステップ教養講座 社会学で描く現代社会のスケッチ』、友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典、株式会社みらい、2200円（税別） ISBN978-4-86015-485-1 購入の必要はないが、授業で内容について言及をすることがある。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 基盤特殊講義（身近なゲーム理論） | | | | | | | | | | | |
|---|---|------------------|---|--------------------------|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 地主 遼史 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121346020 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義は様々な社会現象を簡易なゲーム理論モデルを用いて説明する。ゲーム理論とは「戦略的状況」における「合理的な意思決定」とその帰結を説明するための道具である。まずゲーム理論の伝統的な記述方法と解概念を説明する。その後、選挙や公共財、就職活動や談合など身近なゲーム理論の応用例を紹介する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1【専門分野の知識・技能の習得】およびDP3【課題の発見と解決】を達成するため、以下を到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none">・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できる。・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できる。・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できる。・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション、戦略形ゲーム（と展開形ゲーム）、支配戦略、囚人のジレンマとバレート効率 | | | 予習：シラバスの確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第2回 | ナッシュ均衡 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第3回 | 混合戦略とナッシュ均衡の存在 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第4回 | 企業の参入、バックワードインダクションと部分ゲーム完全均衡 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第5回 | 政府による介入が難しい状況（複数均衡と均衡の非存在） | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第6回 | 選挙 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第7回 | 到達度確認テスト | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第8回 | 就職活動とペイズ完全均衡 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第9回 | 交渉ゲームと市場取引 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第10回 | 自由参入と談合 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第11回 | 金融とリスク管理 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第12回 | 公共財の供給 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第13回 | 繰り返しゲーム | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 第14回 | 契約 | | | 復習：授業内容の確認 | | | 60分 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 基本的に講義形式で進行する。上記計画は一つの例であり、学生の理解の進捗に応じて、適宜調整を行う。成蹊大学の学習支援システム（CoursePower）を利用して、宿題を提出してもらうことを予定している。 特にゲーム理論の応用例については年によって（学生からの希望が被らない限り）毎年異なるものを採用したい。例えば、2023年度は契約や繰り返しゲームの回を組織の経済学の文脈と絡めて扱った。今年は政治経済学の話を絡めたい。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |

宿題 20%、到達度確認テスト 30%、期末 50%の重みで評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 具体的には以下の点を重点的に評価する。

- ・ゲーム理論の扱う「戦略的状況」を説明できるか。
- ・ゲーム理論の扱う「合理的意思決定」を説明できるか。
- ・講義で扱う応用例について、数理モデルを用いて説明できるか。
- ・講義で紹介した方法を使って、現実社会を解釈することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ゲーム理論関連の科目全般と関連が深い。

〔テキスト〕

以下テキスト及び参考書は全て購入の必要なし。

1. 『活かすゲーム理論』 浅古泰史、岡斎大、森谷文利、有斐閣、2750 円、978-4-641-20005-0
2. 『ミクロ経済学 戰略的アプローチ』 梶井厚志、松井彰彦、日本評論社、2530 円、978453555202-9
3. 『ゲーム理論入門の入門』 鎌田雄一郎、岩波新書、880 円、9784004317753

〔参考書〕

1. 『ミクロ経済学の力』 神取道宏、日本評論社、3520 円、9784535557567
2. 『私たちと公共経済』 寺井公子、肥前洋一、有斐閣、2200 円、9784641150201
3. 『産業組織論 -- 理論・戦略・政策を学ぶ』 小田切宏之、有斐閣、2970 円、9784641165533
4. 『Industrial Organization: Theory and Applications』 Oz Shy、MIT Press、\$70、9780262691796
5. 『ゲーム理論〔第 3 版〕』 岡田章、有斐閣、4730 円、9784641165779
6. 『組織の経済学』 伊藤秀史、小林創、宮原泰之、有斐閣、3520 円、978-4-641-16550-2
7. 『ゲーム理論で考える政治学-- フォーマルモデル入門』 浅古泰史、有斐閣、2860 円、978-4-641-14928-1

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 経済史の基礎 | | | | | |
|--|--|------------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 鴨野 洋一郎 | | | | | |
| 科目No. | 121350000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 1年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 経済史の重要な課題の1つに、「人類はどのようにして生き延び、そして豊かになってきたか（もしくは豊かではなくなってきたか）」を解明することができる。近年、AI技術の進歩などを背景に「人類とは何か」という問題関心から人類が生き延びてきた歴史を壮大なスケールで物語る本や、今日の私たちの経済システムである資本主義経済の性質を問い合わせるような本が、世界でも国内でも大きな関心を集めている。この授業では、こうした近年の問題関心についてできるだけわかりやすく、要点をおさえて紹介していく。これにより、受講生にはより深く、柔軟に「人類の経済」について考えられるようになってほしい。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP2-1 【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、つぎの3点を到達目標とする。 ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて理解する。 ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて理解する。 ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の概要、到達目標、授業内容、成績評価等を説明する。 | 【復習】授業の流れをイメージできるようにする。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 第I部 人類はどのように生き延びてきたか① —寒冷化と初期人類の出現— ・地球の寒冷化とともに初期人類が出現したことについて学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 第I部 人類はどのように生き延びてきたか② —人類の出現と脳容量の増大— ・人類が過酷な環境にあわせて脳容量を増大させたことについて学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 第I部 人類はどのように生き延びてきたか③ —地球に拡散する現生人類— ・現生人類がきわめて過酷な環境を生き延びた状況について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 第I部のまとめ ・第I部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第I部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第6回 | 第II部 人間はどのように豊かになってきたか① —ダイアモンド『銃・病原菌・轍』— ・ダイアモンドの著書を紹介し、農耕牧畜の重要性について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 第II部 人間はどのように豊かになってきたか② —ノア＝ハラリ『サピエンス全史』— ・ノア＝ハラリの著書を紹介し、彼の文明史観について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 第II部 人間はどのように豊かになってきたか③ —人間は本当に豊かになったのか?— ・2つの著書から、人間にとっての「豊かさ」について考える。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 第II部のまとめ ・第II部の授業内容についてまとめる。 ・小レポートについて理解する。 | 【復習】第II部の内容をまとめ、小レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 第10回 | 第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか① —古典的な解釈— ・マルクスやヴェーバーによる古典的な解釈について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか② —プローデルとウォーラースティン— ・複数の経済圏を設定する巨視的な解釈について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 第III部 資本主義はどのようにして生まれたのか③ —アジアからの視点— ・資本主義形成のプロセスをアジアからの視点でとらえる解釈について学ぶ。 | 【復習】授業内容をノートにまとめる。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 第III部のまとめ ・第III部の授業内容についてまとめる。 | 【復習】第III部の内容をまとめる。 | | | 60 | | |
| 第14回 | 授業のまとめ ・授業内容全体についてまとめる。 ・期末レポートについて理解する。 | 【復習】授業全体の内容をまとめ、期末レポートを作成する。 | | | 120 | | |
| 〔授業の方法〕 【注意】昨年度と異なり、対面で実施します。 授業は講義形式で行われる。レジュメを配布し、それにもとづき解説を行う。また適宜スライドを映し、イメージを共有する。授業全体を3つのパートに分け、第I部および第II部の終了後に小レポート、授業全体の最後に期末レポートを課す。 | | | | | | | |

各レポートの概要については、以下の通りである。

- ・小レポート：第Ⅰ部および第Ⅱ部の内容について理解し、考察できているかを確認する。
- ・期末レポート：授業全体の内容について理解し、考察できているかを確認する。

〔成績評価の方法〕

小レポート（2回：各15%）、期末レポート（40%）、平常点（授業内課題など）（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①人類が厳しい環境を生き延びるなかで進化してきたプロセスについて説明できる。
- ②人類が農耕牧畜の開始とともに生活様式を一変させたプロセスについて説明できる。
- ③資本主義が成立したプロセスにかんするさまざまな考え方について説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

関連科目：「西洋経済史A」「西洋経済史B」「比較経済史」「地域経済史」

〔テキスト〕

とくになし。

〔参考書〕

とくになし。参考文献については、授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。

また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | 数量経済史 | | | | | | |
|--|--|---|------------|------|-----|------|---------|
| 教員名 | 松本 貴典 | | | | | | |
| 科目No. | 121351000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 本講義は数量経済史を取り扱う。 | | | | | | | |
| 数量経済史とは、従来の叙述的経済史やマルクス経済学に基づく経済史に対して新しく登場した経済史のことと、分析対象に対してマクロ経済学やミクロ経済学の経済理論を援用し、エコノメトリック・モデルを使って計量的に対象を把握しようとする特徴を持つ。1960年代に創始され、ニュー・エコノミック・ヒストリーとして発展し、人口動態、生産・所得・物価動向、景気変動などについてめざましい成果があげられてきた。本講義では、この数量経済史を、最新の学会成果をふんだんに取り入れながら講義する。 | | | | | | | |
| 数量経済史はしばしば「通説破壊的」である。従来通説として信じられてきた歴史解釈は、数量経済史の登場によって、しばしば大きく書き換えを余儀なくされた。たとえば、数量経済史の泰斗であるロバート・フォーゲルは、アメリカの奴隸制が綿業の生産システムとしては極めて効率的であったので、南北戦争がなければますます奴隸制は発展したであろうし、奴隸の生活水準も他の白人労働者よりも良く、奴隸制は収益も大きく、きわめて経済合理的な生産システムであったと結論して、多方面に大きなセンセーションを巻き起こした。ちなみに、フォーゲルは、数量経済史の研究で、ノーベル経済学賞を授賞している。 | | | | | | | |
| さらに、同じく「新しい経済史」の分野でフォーゲルとともにノーベル経済学賞を授賞したダグラス・ノースの業績を講義する。ノースの研究の要点は「なぜ豊かな国と貧しい国ができたのか? その鍵は制度である」とするところにある。経済発展を促進する制度を組み上げられた(少数の)国だけが豊かになり、経済促進的である制度を組み上げられなかった(多数の)国は失速したのである。 | | | | | | | |
| 数量経済史研究でノーベル経済学賞を授賞した二人の研究者の研究を分かりやすく講義したあと、本講義が向かうのは、昨年(2015年)にノーベル経済学賞を授賞したアンガス・ディートンの業績である。ディートンは、「経済発展と格差」の問題を、所得格差、健康格差、幸福格差などの多方面の角度から検討して、この分野に関する深い洞察を得て、授賞の栄誉に輝いた。「所得格差がこれほど大きくなつたのは、ついこの200年間ほど前に始まつた出来事である」「経済発展は格差をともなつたが、それでも世界中の人のびとの健康を改善してきた」などの興味深い事実が、説得的な図表によって明解に示される。 | | | | | | | |
| 要するに、本講義の目的は、ノーベル経済学賞を受賞した、数量経済史分野の三人のトップスターの業績や、産業革命論に新風を吹き込んだ新進気鋭の研究者ロバート・アレンの業績を、半期を通じて一挙にわかりやすく紹介することである。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| D P 1 (教養の修得) D P 6 (専門分野の知識・理解) を実現するため、以下を到達目標とする。 | | | | | | | |
| 受講生には、まず従来の経済史理解を次々と覆していく「数量経済史」のパワーを実感してもらいたい。それを通じて、今までの経済史理解がいかに歪んでいたかについて理解してもらうと同時に、経済理論と計量経済学を応用した歴史解釈が、そうした「通説」を次々と破壊していく、一種の爽快感と、あつと言わせる経済史の新解釈を知る知的興奮とを味わってもらいたい。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修(予習・復習等) | 準備学修の目安(分) | | | | |
| 第1回 | 【前半】数量経済史とはどのような学問か(イントロダクション)ーその新しさとパワフルさについてー 【後半】制度の経済史(1):制度と経済成長 1万年前に氷河期が終わり気候が温暖化すると、人類は定置農業を始めた。そのときには世界には先進国も後進国もなかつた。しかし同じスタート・ラインに立って歩み始めたにもかかわらず、何が貧富を分けたのか。 もう一人のノーベル経済学賞受賞者であるダグラス・ノースは、その答えを制度に求める。 では制度が違えば、どうして経済発展に違いが出るのか。そのような「必勝法」がある | ノースの主張を分かりやすく要約したものが以下のURLで公開されているので、適宜参考することを薦める。 http://www.nobelprize.org/nobel_prizes/economic-sciences/laureates/1993/north-lecture.html 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 60分 | | | | |
| 第2回 | 制度の経済史(2):私的所有権の保証とフリーライダーの防止を施行できる主体は何か。 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 | | | | |
| 第3回 | 制度の経済史(3):何が貧富を分けたか。ノースが歴史的事実と客観的指標を用いて、どのようにそれを論証したかを講義する。 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 | | | | |
| 第4回 | 1~3回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 | | | | |
| 第5回 | 新しい産業革命論(1) なぜ産業革命は18世紀のイギリスで起こったのか、その最新の成果を紹介する。 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、奴隸制の経済史全体の要点整理を行うこと。 | 30分 90分 | | | | |
| 第6回 | 新しい産業革命論(2) なぜ産業革命は18世紀のイギリスで起こったのか、その最新の成果を紹介する。 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 60分 90分 | | | | |
| 第7回 | 5~6回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 60分 | | | | |
| 第8回 | 奴隸制の経済史(1):奴隸制農園の収益率 奴隸制農園は1860年ころ、アメリカ南部では全盛期にあった。その理由は、投資対象として考えた場合、奴隸制農園の収益性は高く、高いリターンが期待できた点にあった。この事実が、奴隸制に関する通説を片端から突き崩していく前提となる。 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 | | | | |
| 第9回 | 奴隸制の経済史(2):奴隸の生活環境・懲罰・報奨 奴隸が高い収益を農園主にもたらすなら、奴隸の衣食住と医療は、通説のように「劣悪である」というのは本当か。 また、奴隸はどれくらいの頻度で鞭打たれていたか。一方、完 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、制度の経済史全体の要点整理を行うこと。 | 30分 90分 | | | | |

| | | | |
|--|---|---|------------|
| | 全収奪など不可能なのだから、つまり強制労働だけでは高い収益は実現できないから、奴隸にも報奨制度がボーナスがあったはずである。それはどのようなものであったか。 | | |
| 第10回 | 奴隸制の経済史(3)：奴隸の平均寿命と奴隸から収奪 奴隸制農園が盛んであった以上、奴隸は農園主に「収奪」されていたはずである。その収奪はどのようなレベルのものだったのか、また、以上のような状況にあって、奴隸の平均寿命は、自由人と比較してどうであったか。これを国際比較するとのような状況であったか。 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 90分 |
| 第11回 | 8~10回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 |
| 第12回 | 経済発展と格差(1)：経済発展と所得格差 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 |
| 第13回 | 経済発展と格差(2)：経済発展と健康格差 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 |
| 第14回 | 12~13回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、前回の授業内容のポイントを確認しておくこと。 復習として、今回の授業内容の要点把握を行うこと。 | 30分 60分 |
| 〔授業の方法〕 数多くの図表を使いながら、講義形式で進める。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験もしくは期末レポート(80%) および平常点(20%)による成績評価を行う。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 とくにない。 | | | |
| 〔テキスト〕 とくに用いない。授業時に参考図表や資料を配付する。 | | | |
| 〔参考書〕 Fogel and Engerman, Time on the Cross: The Economics of American Negro Slavery, NORTON, 1995 Fogel and Engerman, Without Consent or Contract: The Rise and Fall of American Slavery, NORTON, 1991 North, Institutions, Institutional Change and Economic Performance, Cambridge, 1990 North and Thomas, The Rise of Western World : A New Economic History, Cambridge, 1973 Atack and Passell, A New Economic View of American History (Second Edition), NORTON, 1994 Robert Allen, Global Economic History, Oxford University Press, 2008 アンガス・ディートン『大脱出』(みすず書房、2013年) | | | |
| 〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 ICT活用 | | | |

| 科目名 | | 経済学史 | | | | | |
|---|--|-------|---|--|-----|------|------------|
| 教員名 | | 山本 英子 | | | | | |
| 科目No. | 121351100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 経済学史とは、経済学の各理論が、過去の経済学者たちによって、どのような経緯をたどって受け継がれ、議論され、洗練されてきたかについて学修する科目である。 経済学を学ぶ学生にとって、過去の主要な経済学者たち、例えば18世紀のアダム・スミス、あるいは、20世紀のJ・M・ケインズ、またはM・フリードマンらが、それぞれの時代に何を批判してどんな理論や主張を提起していたのかを学ぶことは不可欠である。 この経済学史の授業では、黎明期の経済思想から20世紀までの代表的な経済理論を説明していく。 経済学者たちが継承してきた議論のプロセスを、経済学の歴史の中で時系列に追体験していくことによって、経済学が人間社会の中で果たしてきた役割を認識しながら、経済学の体系を理解することをめざす。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP2（【教養の習得】広い視野での思考・判断）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①経済学の理論と思想の発展の経緯を、歴史的な視点で説明できる。 ②経済学の学派によって、その前提、思想、理論、経済政策が異なることを理解できる。 ③過去の代表的な経済学者の業績を説明できる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の進め方の説明 ・経済学史で何を学ぶのか、歴史的視点から見る経済学についての解説 | | | 【予習】シラバスを読み、講義内容を把握する。 【復習】学修方法や評価基準等を確認する。 | | | 60 |
| 第2回 | 重商主義に至るまでの経済思想 ・古代ギリシャの議論：アリストテレス ・中世の経済思想：アキナス ・重商主義：マン、ペティ、ロック、コルベール | | | 【復習】アリストテレスとプラトンの思想とその後の諸思想とのつながりを確認しながら、重商主義までの内容を理解する。 | | | 60 |
| 第3回 | 18世紀の経済思想（1） ・重商主義の影響 ・三大パブル：ロー、カンティロン ・自由主義経済：マンデヴィル、 | | | 【復習】18世紀前半の経済事象と経済思想の変化を確認する。 | | | 60 |
| 第4回 | 18世紀の経済思想（2） ・商業社会：ヒューム ・重農主義：ケネー 小テスト①（第2～4回の学修内容の確認問題） | | | 【予習】小テスト①に備えて第2～3回の内容を再確認しておく。 【復習】18世紀後半の経済思想の動きを確認する。 | | | 90 |
| 第5回 | 小テスト①の解説 18世紀の古典派経済学（1） ・スミス『道德感情論』 ・スミス『国富論』①：全体の構成、分業論 | | | 【復習】『道德感情論』におけるスミスの主張と、『国富論』の構成や、分業論についてのスミスの考えを確認する。 | | | 60 |
| 第6回 | 18世紀の古典派経済学（2） ・スミス『国富論』②：価値論、見えざる手、資本蓄積、重商主義批判 | | | 【復習】『国富論』について学修した内容（価値論、市場メカニズム、資本蓄積、重商主義批判）について確認する。 | | | 60 |
| 第7回 | 18世紀の古典派経済学（3） ・スミス『国富論』③：小さな政府、植民地問題 小テスト②（第5～7回の学修内容の確認問題） | | | 【予習】小テスト②に備えて第5～6回まで内容を再確認しておく。 【復習】スミスの自由主義思想を確認する。 | | | 90 |
| 第8回 | 小テスト②の解説 19世紀の古典派経済学（1） ・功利主義 ・マルサス：人口問題 ・リカード：投下労働価値説、差額地代論、比較優位 | | | 【復習】ベンサムの功利主義、および、マルサスとリカードの理論を確認する。 | | | 60 |
| 第9回 | 19世紀の古典派経済学（2） ・J.S.ミル：生産分配峻別論、賃金基金説 ・マルクス経済学：弁証法的唯物論、剩余価値と搾取 | | | 【復習】ミルとマルクスの理論とその時代背景を確認する。 | | | 60 |
| 第10回 | 新古典派経済学 ・限界革命：ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー ・資源配分：エッジワース、パレート ・部分均衡論と余剰分析：マーシャル 小テスト③（第8～10回の学修内容の確認問題） | | | 【予習】小テスト③に備えて第8～9回の内容を再確認しておく。 【復習】新古典派の理論が古典派とどのように違うかを確認する。 | | | 90 |
| 第11回 | 小テスト③の解説 20世紀の経済学の潮流（1） ・ケインズ経済学①：不確実性、古典派経済学批判、有効需要の理論 | | | 【復習】ケインズがどのような問題提起をしたのか、当時の時代背景とともに理解する。 | | | 60 |
| 第12回 | 20世紀の経済学の潮流（2） ・ケインズ経済学②：資本理論、雇用理論 ・新古典派総合 | | | 【復習】ケインズ経済学全体と、新古典派総合を確認する。 | | | 60 |
| 第13回 | 20世紀の経済学の潮流（3） ・シュンペーター：新結合、創造的破壊、管理資本主義 ・ハイエク：社会主義経済計算論争、自生的秩序 ・フリードマン：マネタリズム、新自由主義 | | | 【復習】新古典派総合の経緯を確認し、シュンペーター、ハイエク、フリードマンの主張の相違を理解する。 | | | 90 |

| | | | |
|--|------------------|---|----|
| 第14回 | 授業の総括 授業内期末試験 | 【予習】学期末試験に備えて学修内容全体を総復習する。 【復習】経済学史で学修した内容をしっかり理解する。 | 90 |
| 〔授業の方法〕 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業は講義を中心に進める。学生は配布資料を有効に活用して、重要事項の関連等を書き込みながら授業に出席し、内容を理解するための復習に時間を割くことが求められる。上の表の準備学修は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。 小テスト（40分程度の内容を予定）を3回行って知識の定着を図り、第14回の授業内期末試験に備える。小テスト①では第2～4回まで、小テスト②では第5～7回まで、小テスト③では第8～10回までの学修内容について、理解ができているかを確認する。 授業の進捗によって、内容の一部を変更することがある。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | |
| <p>小テスト3回（10%×3=30%）、第14回に行う授業内期末試験（70%）による評価を基本としつつ、授業への取組み姿勢等を加味し、総合的に評価する。なお、小テストと授業内期末試験は「授業の配布資料のみ持込可」で行う予定である。</p> | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | |
| <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学の理論的かつ思想的な発展の経緯を理解して説明できるか。 授業で取り上げた経済学者たちの業績と思想的関連を説明できるか。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 | | | |
| <p>経済学史に関する予備知識や、高度な経済数学の知識は必要としないが、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的知識は必要となる。</p> | | | |
| 〔テキスト〕 | | | |
| <p>購入の必要なし。 授業毎に配布する資料をテキストとする。</p> | | | |
| 〔参考書〕 | | | |
| <p>購入の必要なし。 各回の授業で関連する著作を紹介する。</p> | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 | | | |
| <p>授業前後に教室で受け付ける。</p> | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 現代日本経済 | | | | | |
|---|--|--|---|------|----------------|------|---------|
| 教員名 | | 松本 貴典 | | | | | |
| 科目No. | 121351200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 1990年代初頭のバブル崩壊後、日本経済は長期低迷に突入した。平成9年末には大手金融機関の破綻が相次ぎ、平成10年以降は失業率は戦後最悪を更新し、経済成長率は連続でマイナスを記録した。平成も20年をこえたが、現在においてもまだ日本は安定的な景気回復軌道に乗ったとは断言できない状況にある。日本経済はどこで道を誤ったのか。今後の日本経済はどうなっていくのだろうか。 本講義は、バブルの発生から崩壊をスタート地点として、長期にわたる不景気を経て、アベノミクスのパフォーマンス評価まで、日本経済の30年間を、豊富なデータをもとに検討する。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 現在の日本経済が抱える問題の経緯と全体像を把握し、「これから日本経済」を考えることができるようになることを目指す。現代日本経済の抱える諸問題について関心の高い学生諸君には、ぜひ受講してほしい講義である。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 高度経済成長期以降の日本経済—安定成長期からバブルの発生と崩壊まで— | 復習としては授業の要点整理と、参考書(1)の当該箇所を読んでみる。 | | | 復習に60分。 | | |
| 第2回 | 平成不況の経済史（1） 長期不況、経常収支黒字と超円高、不良債権と金融危機 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(2)の第1章～第3章と参考書(3)を読んでみる。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第3回 | 平成不況の経済史（2） 景気対策と財政構造改革、改革と平成経済、インフレ・デフレ・リフレ | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理と、参考書(4)の要点集約部分を読んでみる。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第4回 | 第1回～第3回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習として、不明点や追加説明を求める点を確認しておくこと。 ここまで講義の総復習を、要点をしぼって行うこと。 | | | 予習に30分、復習に90分。 | | |
| 第5回 | 現代日本経済の重要論点（1） 貿易赤字亡國論の幻想 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第6回 | 現代日本経済の重要論点（2） 日本経済は破綻するのか—累積する日本国債の経済学的に正しい解釈— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第7回 | 現代日本経済の重要論点（3） 経済成長、物価安定、低失業率の三つの望ましい状態を同時に実現できるか | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第8回 | 現代日本経済の重要論点（4） 現代世界経済と日本経済：中国を中心に | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第9回 | 現代日本経済の重要論点（5） 長らく平等だと言われてきた日本の所得配分は長期不況を経た今でも平等なのか | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第10回 | 第5回～第9回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に90分。 | | |
| 第11回 | 現代日本経済の重要論点（6） 経済学的に正しい資産運用の理論：現代日本人に欠けている資産運用スキルの実際 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第12回 | 現代日本経済の重要論点（7） 経済学的に正しい資産運用の理論：持家か賃貸か？ | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 第13回 | 現代日本経済の重要論点（8） 消費税増税—法人税や所得税を減税しておきながら、なぜ消費税を増税する必要があるのか— | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業の要点整理を行うこと。 | | | 予習に60分、復習に60分。 | | |
| 第14回 | 第11回～第13回の授業の内容補足と質疑応答 | 予習としては、前回の授業の見直し。 復習としては授業全体の要点整理を行うこと。 | | | 予習に30分、復習に60分。 | | |
| 〔授業の方法〕 多様な図表を数多く用いて、ビジュアルに分かりやすく講義する。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | |

学期末試験もしくは期末レポート（80%）および平常点（20%）による成績評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識はとくにない。

〔テキスト〕

とくに定めない。

ただし、現代日本経済の重要な論点については、時機に応じて、適宜順番が入れ替わったり、内容が新規につけ加えられることがある。

〔参考書〕

参考書

- (1) 中村隆英『日本経済—その成長と構造—[第3版]』東京大学出版会、1993年（とくに第Ⅲ部）
- (2) 吉田和男『平成不況10年史（PHP新書）』PHP研究所、1998年
- (3) 原田泰『日本の失われた十年—失敗の本質・復活への戦略—』日本経済新聞出版社、1999年
- (4) OECD『幸福の世界経済史』明石書店、2016年
- (5) 原田泰『日本の「大停滞」が終わる日』日本評論社、2003年
- (6) Marcus Nunes, " 'Abenomics' one year on" , Historinhas, January 16, 2014 (<http://thefaintofheart.wordpress.com/>)
- (7) 原田泰『日本はなぜ貧しい人が多いのか「意外な事実」の経済学（新潮選書）』新潮社、2009年
- (8) 原田泰『なぜ日本経済はうまくいかないのか（新潮選書）』新潮社、2011年
- (9) 原田泰『なにが日本経済を停滞させているのか』毎日新聞社、2011年
- (10) ポール・クルーガーマン『さっさと不況を終わらせろ』早川書房、2012年
- (11) ポール・クルーガーマン『経済政策を売り歩く人々—エコノミストのセンスとナンセンス—（ちくま学芸文庫）』筑摩書店、2009年
- (12) ダロン・アセモグル&ジェイムズ・A・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか（上）（下）—権力・繁栄・貧困の起源—』早川書房、2013年
- (13) 大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社、2005年
- (14) 大竹文雄『競争と公平感—市場経済の本当のメリット』中公新書、2010年
- (15) David Beckworth, "Abenomics Update" (Macro Musings Blog, November 27, 2017)

これらの参考書以外にも、以下の著作も講義の理解を深めるだろう。

中村隆英『昭和恐慌と経済政策（講談社学術文庫）』講談社、1994年

岩田規久男『デフレの経済学』東洋経済新報社、2001年

岩田規久男ほか『デフレ不況の実証分析—日本経済の停滞と再生—』東洋経済新報社、2002年

浜田宏一・内閣府経済社会総合研究所『長期不況の理論と実証』東洋経済新報社、2004年

岩田規久男『昭和恐慌の研究』東洋経済新報社、2004年ほか多数

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

ICT活用

| 科目名 | 社会思想史 | | | | | | |
|--|---|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 挾本 佳代 | | | | | | |
| 科目No. | 121351300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 テーマ：「経済学と人間性」 個々の人間に着目するだけでは浮上してこない、集団としての全体性や統一性をそなえた「社会」のなかで、「経済」や「経済生活」はどのような意味合いをもつものとして捉えられてきたのか。それは合理性に裏打ちされた人間の行為だけによるものだと考えられてきたのだろうか。それとも、もっと多様性をそなえた、自然と人間との関係性をも含めたものだと、考えられてきたのだろうか。 この授業では、経済を人間性とともに論じた経済学者や社会学者の思想、彼らをとりまく思想の歴史、時代背景などの考察・解説を行う。可能な限り翻訳された原典も参考しながら、思想家たちの生の主張を考察していく予定である。 授業では、古典を単なる古典として読み、理解することだけにとどめることはしない。古典のどの部分が現在のわたしたちの社会理解のために、生かされるのかをも追求して行く予定である。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①経済学の基盤となる思想にはどのようなものがあるのかを理解し、説明できる。 ②功利主義や合理主義などに拠らない経済学者や社会学者、功利主義や合理主義に拠る経済学者や社会学者の発想を的確に理解し、把握することができる。 ③先人たちの思想を踏まえ、現代社会を深く理解することができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・現代社会理解に対する社会思想史や経済思想史の貢献を解説する。 | 【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の全体像を把握する。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（1） ・マンデヴィル『蜂の寓話』から経済行為と人間性との関連性を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 経済思想の萌芽から古典派経済学の成立まで（2） ・アダム・スミス『国富論』、『道德感情論』を通し、利己心をもつとされる人間の経済行為の理論を解説する。 ・経済思想が西欧近代社会の中で確立した時点の時代背景を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 功利主義思想の誕生 ・ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』から、功利主義思想を解説する。 ・効用の最大化は、現代社会ではどのように理解されているのかを解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 資本主義経済の隆盛と人口問題（1） ・マルサス『人口の原理』から、資本主義を確立したイギリスで起こった人口問題について解説する。 ・人間と自然との関係性から人口問題を考察する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 資本主義経済の隆盛と人口問題（2） ・近代経済学を確立したリカードの思想を解説する。 ・リカードとマルサスによる穀物法論争から、国民の人間性や徳、国防の問題を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 90 | | |
| 第7回 | 中間テスト ・これまでの授業で学修してきた理解度を確認するため のテストを行う。 | 【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（1） ・19世紀になぜ社会学が誕生したのかについて、理論的な背景を探る。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 資本主義経済の隆盛と変質する社会と人間性（2） ・スペンサー『社会学原理』、『人間対国家』から、資本主義の陰で疲弊していく人間性について解説する。 ・スペンサー思想から現代社会の環境問題の根幹部分を見る。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 資本主義の精神、倫理、合理性（1） ・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が思想として確立されるまでの背景として、ロック、カント、新カント派の思想を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 資本主義の精神、倫理、合理性（2） ・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から、西欧近代の資本主義の原動力となったものを解説する。 ・ヴェーバーの理解社会学を通し、人間の内面から社会的行為を展開した理論を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 社会病理からみる社会と人間性 ・デュルケム『自殺論』から、社会病理が増加はじめた近代社会と人間の相克を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | | | 60 | | |

| | | | |
|--|---|---|-----|
| 第13回 | 職人気質を喪失した社会と消費行動の変容 ・ヴェブレン『有閑階級の理論』を通し、消費文化や人間の消費行動の本質を解説する。 | 【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。 | 60 |
| 第14回 | 総括 ・授業のまとめ ・到達度確認テストの解説 | 【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】これまでに学んだキーワード、キー概念を整理し、到達度確認テストに向けての準備を行う。 | 120 |
| 〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。 上で示された準備学習の時間は目安であるので、各自の理解度に応じて取り組むことが求められる。 なお、各テスト、課題の狙いは以下の通りである。 ①中間テスト：第1回～6回までの学修内容についての基礎的な理解度と、キーワードの理解を確認する。 ②課題に対する解答／コメント：授業ごとの到達度を確認する。 ③到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメント（15%）、中間テスト（25%）、到達度確認テスト（60%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ・基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ・経済思想の基盤となる思想の理解。 ・先人達の思想を通して、現代社会を見通す深い理解力。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 授業で適宜指示をする。 | | | |
| 〔参考書〕 授業で適宜指示をする。 | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | 労働法 | | | | | | |
|---|---|--------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 中村 仁恒 | | | | | | |
| 科目No. | 121355000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 | | | | | | | |
| 労働法は、労働者と使用者の労働をめぐる関係について定めるものである。 本講義では、労働法の中心的な法律である労働契約法、労働基準法、労働組合法の内容や、それに関連する判例・裁判例や事例を取り扱う。 個別の労働関係（雇用関係の成立から展開、終了に関する問題）が主とした内容であるが、団体的労使関係（労働組合と使用者の関係に関する問題）などについても解説する。 講師の実務経験に照らして、紛争化しやすいケースや、問題の所在等について、可能な限り具体的に解説し、労働法について理解してもらう。 労働法は、労働者として、または使用者として、ほとんどの人が関与する法律である。 社会に出て、労働者になるとしても、あるいは起業するなどして労務管理を行う側になるとしても、労働法の基本的な理解は役に立つものと思われる。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 | | | | | | | |
| DP 2（教養の修得）に関連して、次の点を到達目標とする。 ①代表的な法令の内容や関連する判例・裁判例の内容について理解し、労働法の基本的な内容について理解すること ②①の理解を前提に、具体的な事例について問題の所在を理解して、結論を導くことができること | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 労働法の全体像 ・労働法とは ・労働法の当事者 ・労働法の法源 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第2回 | 雇用関係の成立 ・採用 ・採用内定 ・試用 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第3回 | 人事 ・昇進、昇格、降格 ・配転、出向、転籍 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第4回 | 懲戒 ・企業秩序と懲戒 ・懲戒処分の有効性 ・労働者の内部告発の保護 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第5回 | 労働契約の終了 ・解雇 ・雇止め ・合意退職、退職勧奨 ・退職をめぐるその他の法的問題 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第6回 | 労働条件の変更 ・個別同意 ・就業規則の変更 ・労働協約の改訂 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第7回 | 「非正社員」の労働契約 ・短時間、有期雇用労働者 ・有期労働契約の無期転換 ・派遣労働者 ・均等、均衡待遇 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第8回 | 雇用平等と労働者の人権擁護 ・男女雇用機会均等法 ・障害者雇用促進法 ・労働憲章 ・労働契約に関する規制 ・ハラスメント | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第9回 | 賃金 ・賃金支払いの諸原則 ・休業手当 ・賃金に関するその他のルール | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第10回 | 労働時間 ・法定労働時間、休憩、休日 ・時間外、休日労働 ・割増賃金及び固定残業代 ・労働時間制度の特則 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第11回 | 休暇、休業、休職 ・年次有給休暇 ・育児、介護休業 ・休職 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |
| 第12回 | 労災補償 ・労災保険 ・労災民事訴訟 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | | | 60分 | | |

経済

24/2/17 9時 42分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

| | | | |
|--|--|--------------------|-----|
| 第13回 | 団体的労使関係① ・団結権 ・団体交渉権 ・労働協約締結権 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | 60分 |
| 第14回 | 団体的労使関係② ・団体行動権 ・不当労働行為 | テキストの該当ページや配布資料の検討 | 60分 |
| 〔授業の方法〕 講義形式。概ねテキストに沿って講義する。レジュメ等の配布資料を基に、重要な点について裁判例や事例を紹介しつつ、より具体的に労働法を理解してもらう。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 試験 70% 平常点（授業への参加状況等）30% | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 到達目標の達成度に基づく。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 | | | |
| 〔テキスト〕 『プレップ労働法』<第7版> 森戸英幸 弘文堂 2,200円（税込み） ISBN: 978-4-335-31333-2 | | | |
| 〔参考書〕 『労働法』<第9版> 水町勇一郎 有斐閣 3,520円（税込み） ISBN: 978-4-641-24352-1 （購入の必要はなし） | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。 授業終了後に教室で受け付けます。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |
| | | | |

| 科目名 | | 経済実務講義（世界経済と国際金融） | | | | | |
|---|---|-------------------|---|--------------------------|-----|------|------------|
| 教員名 | | 篠山 善行 | | | | | |
| 科目No. | 121355100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 1. 国際金融の基本及び事例を学びます。㈱国際協力銀行での30年にわたる実務経験からリアルに紹介します。 2. 世界経済の現状や日本企業の海外での活躍について学びます。 3. 國際的な仕事に関心ある受講生に対し、就職へのイメージやガイダンスを共有します。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 1. 世界経済についての理解を深め、自分の意見を言えるようになること。 2. 国際金融の本質を理解し、自分で説明できるようになること。 該当する DP : DP2 (教養の修得) | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | 初回ガイダンス。講義の目的や内容について説明する。また、受講生の関心を確認するためのアンケートを行う。 | | | 講義テーマに関する関心事項のとりまとめ。 | | | 60分 |
| 第2回 | 国際金融を学ぼう① 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第1回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第3回 | 国際金融を学ぼう② 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第2回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第4回 | 国際金融を学ぼう③ 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第3回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第5回 | 国際金融を学ぼう④ 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第4回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第6回 | 国際金融を学ぼう⑤ 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第5回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第7回 | 国際金融を学ぼう⑥ 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第6回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第8回 | 国際金融を学ぼう⑦ 「お金を貸すはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例、金融不正等について学ぶ。また、世界銀行やAIIBなどの国際金融のプレーヤーについても学ぶ。 | | | 第7回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第9回 | 世界経済を考えよう① 英国のEU離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。 | | | 第8回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第10回 | 世界経済を考えよう② 英国のEU離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。 | | | 第9回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第11回 | 世界経済を考えよう③ 英国のEU離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。 | | | 第10回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第12回 | 世界経済を考えよう④ 英国のEU離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。 | | | 第11回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第13回 | 世界経済を考えよう⑤ 英国のEU離脱、米国等に見られる反グローバリズムの動き、資源と脱CO2、インフラ開発、北朝鮮問題などを通じて世界経済を考える。 | | | 第12回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。 | | | 60分 |
| 第14回 | 到達度確認テスト | | | 全講義の復習及び到達度確認テストの準備。 | | | 60分 |

パワーポイント資料などを用いて講義形式で行う。授業中、受講生との質疑応答をたくさん行う。また、ミニテストやアンケートを時々行う。

〔成績評価の方法〕

第1~4回講義にて実施する到達度確認テスト及び平常点（授業への参加状況やミニテスト／アンケートへの回答状況）によって評価を行う。評価点の配分は、到達度確認テスト50%、平常点50%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 到達目標の達成度に基づく。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、いつでも電子メールで受け付ける。

〔特記事項〕

特になし。

| 科目名 | | 企業会計 | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|---|------|------------|------|---------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 鷹野 宏行 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121355200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 企業会計を初めて学ぼうとする大学生を対象とした授業である。会計学の領域は、財務会計と管理会計に大別されるが、本講義は、財務会計を中心とした講義となる。財務会計とは、財務(資金調達)のための会計ないしは財務諸表作成のための会計をいう。本講義では、財務諸表作成のためのプロセスを強く意識した内容とする。貸借対照表と損益計算書は、複式簿記の仕組みにより作成される。簿記は、検定試験なども普及しているため、授業でも検定試験の内容を意識した構成を検討している。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP2(教養の修得)を達成するために、企業会計の基礎的な概念並びに理論を理解することを目指す。就職等に有利される簿記検定の内容を授業に包含することにより、単位の修得後に日商簿記検定 3 級が合格できるかどうかでも本講義の内容理解の達成度が測定できる。加えて、企業経営の理解に必要な財務データの分析の基礎が修得できることとなる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーションに充てる。会計の定義、会計学の学問的位置づけ、会計学の範囲、国家試験(公認会計士、税理士)、検定試験概要等。 | 事前配布するレジュメを読んでおく。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第2回 | 財務諸表の基礎(貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係) | 教科書 CHAPTER01「財務諸表の基礎」を予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第3回 | 財務諸表作成の基礎(財務諸表作成の流れ、勘定への記入方法)、簿記の一巡(仕訳、転記、試算表)の基礎 | 教科書 CHAPTER02「財務諸表作成の基礎」、CHAPTER03「簿記一巡の基礎」を予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第4回 | 取引と会計処理、商品売買取引、その他の債権債務 | 教科書 CHAPTER04「取引と会計処理」～CHAPTER06「商品売買取引」を予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第5回 | その他の主要な期中取引、現金預金、有形固定資産、営業債権と営業債務 | 教科書 CHAPTER07「現金預金」～CHAPTER09「期中取引におけるその他の諸論点」を予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第6回 | 決算手続I(有形固定資産の減価償却、売上原価の算定、貸倒引当金の設定、収益費用の見越しと繰延べ) | 教科書 CHAPTER10「決算手続I」を予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第7回 | 決算手続II①(勘定の締め切り、財務諸表作成、月次決算) | 教科書 CHAPTER11「決算手続II」を予習する | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第8回 | 決算手続II②(勘定の締め切り、財務諸表作成、月次決算) | 教科書 CHAPTER11「決算手続II」を予習する | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第9回 | 決算手続III(現金過不足の整理、貯蔵品の整理、当座借り越し) | 教科書 CHAPTER10「決算手続III」を予習する | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第10回 | 決算手続IV(8桁精算表の作成、合計残高試算表の作成) | 教科書 CHAPTER12「決算手続IIにおける精算表」、CHAPTER15「試算表の作成」を予習する | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第11回 | 株式会社会計(株式の発行、剰余金の配当、法人税等・消費税) | 教科書 CHAPTER13「株式会社の会計」を予習する | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第12回 | 財務諸表分析の基礎(1)。KDDI とソフトバンクの携帯電話会社の財務諸表比較。クロスセクション分析を学ぶ。 | 事前配布するレジュメを予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第13回 | 財務諸表分析の基礎(2)。オリエンタルランドのケースを中心に。時系列分析を学ぶ。コロナ禍により財務諸表のどの数字が変化したか。 | 事前配布するレジュメを予習する。 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第14回 | 期末試験及び解説、総まとめ | テスト範囲の復習をする。テスト結果の振り返りを行う。 | | | 120分 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義と演習をバランスよく配置する授業形態である。また、出席確認を兼ねた小テストも組み込む。企業会計に関する専門用語は、日常的には使わないものが多く、最初は難解であると困惑することも考えられる。まずは、用語の整理を行い、難解と思われるがちな用語をわかりやすく解説する。また、簿記に関しては、電卓をたたきながら多くの演習問題をこなすことで理解が深まる。習うより慣れろという観点で、授業内での演習問題の解答に時間をかける予定である。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 期末試験 80%、授業態度 20%。授業態度は、小テストなどをもとに点数化する。 | | | | | | | | | | | | | |

| |
|--|
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度に基づく。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 |
| 〔テキスト〕 『簿記ワークブック日商3級 for LECTURE』税務経理協会、価格(1000円+税)、ISBN978-4-419-06622-2 |
| 〔参考書〕 電卓専用機を必要とする。推奨電卓は、CASIO 製 AZ-26s 学習用電卓である。 |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 授業終了後に教室で受け付けます。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資：野村證券提供講座） | | | | | |
|---|---|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | | 山上 浩明 | | | | | |
| 科目No. | 121355310 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義は、実務経験豊富な野村證券株式会社の講師による提供講座として開講される。 直接金融とは何か、資本市場に求められる役割とは何かなどのテーマに関する証券投資の解説を行う。また、リーマン危機以降、激変する日本の資本市場の全容、投資とリスク・リターンの考え方、株式投資・債券投資の手法など、各講師の実務経験に基づいて、金融資本市場の様々な側面について解説する。 本講座では、実践的な知識の習得も追加的な目標とする。具体的には、少子高齢化の進展を背景にして、老後の生計に対する不安が高まる中、ライフプランと資産形成や年金制度に関する解説を行ったうえで、加入者自らが資産運用の意思決定を行う確定拠出（DC）型年金制度におけるポートフォリオ作成やマネープラン作成の実践的実習を行う。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1(専門分野の知識・技能), DP2(教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。 ・証券投資を中心に、金融資本市場の実務とファイナンス理論を整合的に理解し、将来のビジネスパーソンとしての素養を身に付ける ・ライフサイクルにおける資産形成の重要性や年金制度の概要を理解する ・近い将来、老後の生活資金を確保するためにDC制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合を想定した実践的知識を習得する | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | ・イントロダクション コーディネーター担当教員から、講義の全体像を説明する。 ・ガイダンス、経済指標の捉え方 外部講師から、講義の内容・予定について説明した後で、資本市場において用いられる経済情報・指標について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講座の全体像を確認すること。 課題①の内容を確認したうえで、少しずつ時間をかけて取り組むこと。 | | | 60 | | |
| 第2回 | ・金融資本市場の役割とその変化 赤字主体と黒字主体の資金過不足を調整する場としての金融資本市場の役割とその全体像を解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第3回 | ・債券市場の役割と投資の考え方 国債や社債などの債券を通じた資金調達の仕組みと債券市場での投資の考え方を解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第4回 | ・株式市場の役割と投資の考え方 株式の発行を通じた資金調達の仕組みと株式市場での投資の考え方を解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第5回 | ・投資信託の役割とその仕組み 投資信託の仕組みと投資戦略ごとの特徴について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第6回 | ・リスク・リターンとポートフォリオ分析 証券の期待リターンとリスクの意味、ポートフォリオの分散投資効果について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第7回 | ・外国為替相場とその変動要因について 外国為替の仕組み、為替レートの役割、為替レートの決定要因について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第8回 | ・資本市場における投資家心理 資本市場における投資家心理の果たす役割や行動ファイナンスの基礎概念について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第9回 | ・ライフプランと資産形成 社会人になってから、退職して、老後の生活を送るという一連の「ライフサイクル」の中で、結婚・子育て、マイホームの取得、退職後の生活費など、様々な場面で資金ニーズが発生する。これらのライフプランの概要とそれを支えるための資産形成の考え方について解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第10回 | ・公的年金制度について 日本の公的年金制度は、自営業者等、民間サラリーマンや公務員、専業主婦等の立場によって仕組みが異なるなど、複雑な側面がある。このような公的年金制度の仕組みについて解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第11回 | ・確定拠出年金について 確定拠出年金（DC）制度は、加入者自身が資産運用の方針を決定する仕組みであり、運用結果に応じて年金額が決定される。この制度の仕組みについて解説する。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 | | | 60 | | |
| 第12回 | ・DCポートフォリオの作成 実際にDC制度の加入者として運用方針を決定することを想定した実践的なトレーニングを行う。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 課題②に取り組むこと。 | | | 60 | | |
| 第13回 | ・マネープランの作成 人的資本の考え方に基づいて、自分のライフサイクルにおける収支を資産と負債に見立てたうえで、総合的なマネープラン作成の実践的なトレーニングを行う。 | 【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 課題③に取り組むこと。 | | | 60 | | |

| | | | |
|---|---|---|----|
| 第14回 | <ul style="list-style-type: none"> まとめと課題について 講義全体のまとめと課題についての最終確認を行う。 | <p>【予習・復習】 講義用資料を参照して、講義内容を確認すること。 【復習】課題①～③を取りまとめて、提出すること。</p> | 60 |
| 〔授業の方法〕 証券ビジネスの最前線に従事する実務家を講師に迎えて、講義を行う。DCポートフォリオとマネープラン作成に関する実践的な演習も行う。なお、第1回目で、コーディネーター担当教員から講義の全体像を改めて説明します。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 成績は、平常点（4つの課題）で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 課題1：講義内容と関連する2,3回程度の小テスト（10点） 課題2：講義内容と関連するニュースの解説（30点） 課題3：DCポートフォリオ関連（30点） 課題4：マネープランの作成（30点） | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39 次の到達目標に注目して、その到達度に応じて評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 金融資本市場や年金制度の概要を的確に理解し、日常的に関連するニュースを理解し説明できる DC制度のポートフォリオ設計やマネープランを構築する場合の実践的スキルを活用できる | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし | | | |
| 〔テキスト〕 特になし 授業時に資料を配布する。 | | | |
| 〔参考書〕 『入門証券論（第3版）』榎原茂樹他著、有斐閣コンパクト | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 | | | |
| 〔特記事項〕 | | | |

| 科目名 | | 産業組織論A | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|--------------------------|-----|------|-------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 矢作 健 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論 A では、市場でみられる価格付けについて、現実の市場構造でみられる独占・寡占とよばれる少数の企業による戦略的行動に焦点を当てて分析を行います。これらは市場競争が十分に機能していないこととされており、こうした不完全競争の問題点を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 本科目では、D P 1 (専門分野の知識・理解) を実現するため、以下の到達目標の達成を目指します。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション ・ミクロ経済学・産業組織論における「企業」や「市場」とは何か | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第2回 | 完全競争市場（1） ・消費者・生産者の行動とは | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第3回 | 完全競争市場（2） ・完全競争市場の社会的な望ましさ（社会厚生）とは | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第4回 | 独占市場（1） -独占企業の価格・数量設定とその社会厚生への影響とは | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第5回 | 独占市場（2） ・独占企業のさまざまな価格戦略 | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第6回 | 独占市場（3） ・独占市場がなぜ発生するのか（規模の経済・自然独占） | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第7回 | 独占市場（4） ・独占市場への規制の例を学ぶ | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第8回 | ゲーム理論 ・ゲーム理論の考え方を学ぶ | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第9回 | 寡占市場（1） ・寡占市場における企業の行動とは何か | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第10回 | 寡占市場（2） ・企業間の数量競争（クールノー競争） | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第11回 | 寡占市場（3） ・企業間の数量競争（クールノー競争） | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第12回 | 寡占市場（4） ・企業間の価格競争（ベルトラン競争） | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第13回 | 寡占市場（5） ・企業間の価格競争（ベルトラン競争） | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 第14回 | まとめ | | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します | | | | | | | | | | | | | |

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学の知識があると望ましいですが、必須ではありません。

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はありません

『プラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 産業組織論B | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|--------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 矢作 健 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 産業組織論は、ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を応用し、消費者行動や企業行動の分析を通じて市場や産業構造の理解を目指す学問分野です。産業組織論の考え方を理論的に学び、現実の市場で観察される事象とのつながりを意識して授業を行っていきます。産業組織論 B では、企業が競争を回避するため、または消費者の特性に合わせた戦略（製品差別化、カルテル、合併、開発競争、ネットワーク効果など）に焦点を当てて分析を行います。こうした企業間の戦略的な行動がもたらす社会への影響を明らかにし、政府による競争政策の重要性を考察していきます。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 本科目では、D P 1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける。 ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション ・産業組織論 B の内容について | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第2回 | 完全競争市場 ・ミクロ経済学の復習 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第3回 | 独占市場 ・価格支配力を持つ場合の企業の分析 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第4回 | 垂直的取引（1） ・垂直的な取引関係にある企業の行動と社会厚生に与える影響 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第5回 | 垂直的取引（2） ・垂直的取引に関する競争政策の紹介 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第6回 | 寡占市場 ・企業間の戦略的関係 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第7回 | カルテル ・企業間の競争を緩和する協調行動（カルテル）が発生する要因とは | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第8回 | 合併 ・市場構造を変化させる合併が生じる理由とその社会への影響を考察 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第9回 | 製品差別化 ・企業間の競争を回避するための要素とは | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第10回 | 広告と競争 ・広告戦略と価格戦略の関係 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第11回 | 参入 ・参入の社会への影響、参入阻止行動 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第12回 | 研究開発・知的財産 ・イノベーションと競争の関係 ・知的財産権の経済分析の紹介 | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第13回 | ネットワーク外部性 ・プラットフォーム市場における価格戦略とは | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ | | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | 90分 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70% で総合的に評価します | | | | | | | | | | | | | | |

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につける
- ・産業組織論の基本的な考え方を理解し、実際の企業や市場構造を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、産業組織論 A の知識があると望ましいですが、必須ではありません

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はありません

『プラクティカル 産業組織論』 泉田成美・柳川隆 有斐閣アルマ (ISBN 978-4641123724)

『競争政策論 第2版』 小田切宏之 日本評論社 (ISBN 978-4535558823)

『産業組織とビジネスの経済学』 花園誠 有斐閣 (ISBN 978-4641150591)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します、授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕

| 科目名 | 国際経済学A | | | | | | |
|--|-------------------------------|--|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 永野 譲 | | | | | | |
| 科目No. | 121360200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 国際経済学を理論・データ面双方から学習します。国際経済学の理論に対し、現実の国際貿易・資本取引がどのように推移しているのか、そしてそれは各国通商政策、通貨政策、貿易協定により影響を受けているのか否かを確認し、理解を深めます。国際経済理論のデータ面からの確認では、日本企業の貿易取引、直接投資を通じた進出状況を中心とする講義を進めます。世界銀行、国連貿易開発投資、国際通貨基金他の国際機関データベースにAPI (Application Programming Interface)接続し、国際経済データをダウンロードして、理論を実装するデモを各回実施します。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 国際経済学を主としてミクロ面から理論・データを踏まえて理解することで、DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】に到達することを目指します。世界貿易機関 (WTO) や経済連携協定 (EPA)、環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP)などの専門用語を正しく理解し、これらの協定締結交渉へ至る経緯やその意義、協定がもたらす締結国への影響の理解が到達目標です。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 第1回 イントロダクション／国際経済学は何を研究するのか？ | 教科書第1章を予習・復習に参照してください。 | | | 120分 | | |
| 第2回 | 第2回 世界貿易の概観 | 教科書第2章を予習・復習に参照してください。 | | | 120分 | | |
| 第3回 | 第3回 労働生産性と比較優位：リカード・モデル① | 教科書第3章を予習・復習に参照してください。 | | | 120分 | | |
| 第4回 | 第4回 労働生産性と比較優位：リカード・モデル② | 教科書第3章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第5回 | 第5回 特殊要素と所得分配：ヘクシャー・オリーン・モデル① | 教科書第4章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第6回 | 第6回 資源と貿易：ヘクシャー・オリーン・モデル② | 教科書第5章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第7回 | 第7回 貿易の標準モデル | 教科書第6章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第8回 | 第8回 規模の外部経済と生産の国際立地 | 教科書第7章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第9回 | 第9回 中間まとめ／規模の経済・不完全競争・国際貿易1 | 教科書第1-7章、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第10回 | 第10回 グローバル経済の企業 | 教科書第8章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第11回 | 第11回 貿易政策のツール | 教科書第9章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第12回 | 第12回 国際収支と国民所得統計 | 教科書第13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第13回 | 第13回 総まとめ1 | 教科書第1-9章、13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 第14回 | 第14回 総まとめ2 | 教科書第1-9章、13章を予習として参照し、講義配布資料を復習に用いて確認してください。 | | | 120分 | | |
| 〔授業の方法〕 講義では、講義の最後20分に簡単な Quiz を実施し、次回解説します。100分の講義では冒頭15分が Quiz の解答、55分が経済学理論の説明、30分が統計データの説明と解釈の仕方について講義します。 QUIZ の回答を以って出席とします。 尚、本講義の成績評価の6割はレポート（1頁/回）です。Python を用いた国際経済分析の方法は第1回～3回の講義時に説明します。 OSはWindowsが望ましいですが、コードエラーを自分で解決できるのであればMacでも可。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験および期末レポートは実施しない。QUIZへの回答を以て出席とします。対面講義時には出席は採らない。 (A)QUIZの回答 (MS Forms) 40% (B)レポート（1頁を2～3回程度） 60% | | | | | | | |

に基づいて最終成績を算出します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

マクロ経済学、ミクロ経済学にかかる理論的枠組みについては、改めて詳細を説明することはしないため、講義参加前に十分に確認しておくこと。プログラミング言語 Python を用いた実証分析をレポートの課題とします。このため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。Mac を OS とする PC の利用も可能であるが、Windows 版とコードが若干異なるため、Mac を用いる場合はエラー等は自分で解決するか、大学から Windows のノート PC をレンタルすること。

〔テキスト〕

P.R.クルーラグマン・M. オブストフェルド『国際経済学：理論と政策（上）貿易編』丸善出版を必ず購入し、出席時に携えること。

〔参考書〕

P. R. Krugman & M. Obstfeld, International Economics: Trade and Theory, 10th ed.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問は教室でのみ受け付けます。メール・チャットによる質問は不可。

〔特記事項〕

コンサルティング企業 17 年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。

| 科目名 | 国際経済学B | | | | | |
|---|---|---|---|------|------------|------|
| 教員名 | 永野 譲 | | | | | |
| 科目No. | 121360300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 |
| 〔テーマ・概要〕 講義は、ミクロ経済学・国際経済学の理論を土台として、現実の日本企業、外国企業がどのような国際戦略を展開しているのかを事例とデータを踏まえながら解説する。具体的な企業のM&A戦略や販売戦略、R&D投資の動向を学ぶことで、ミクロ経済学・国際経済学の理論と現実について解説する。 | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学・国際経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を、現実の企業社会の経営戦略、国際戦略に応用して理解し、これらの理論的枠組みをデータサイエンス分析により検証する能力を身に着ける。 | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | 第1回 自動車産業の国際戦略：トヨタ vs. テスラ 自動車メーカーの経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第2回 | 第2回 電子産業の国際戦略：ソニー vs. サムスン電子 電子機器メーカーの盛衰について、個々の事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第3回 | 第3回 石油化学メーカーの国際戦略：三井化学 vs. ダウ・ケミカル 石油化学メーカーの経営環境、国際戦略の現状について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第4回 | 第4回 ビール産業の国際戦略：キリン vs. サントリー ビール産業の直接投資、国際企業買収の事例について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第5回 | 第5回 銀行経営の国際比較研究：MUFG vs. JPモルガン・チェース メガバンクの経営状況と国際戦略について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第6回 | 第6回 地方銀行と国際銀行規制：横浜銀行 vs. ウェルズファーロ 地方銀行、第二地方銀行の歴史と現状について財務データを用いて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第7回 | 第7回 前半まとめ 1～6回の講義を国際比較を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第8回 | 第8回 医薬品産業の国際戦略：タケダ vs. ファイザー 医薬品メーカーの経営環境の現状について、グラクソ・スミスクライン、テバ、ファイザーなどの国際比較を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第9回 | 第9回 総合商社の国際戦略：三菱商事 vs. 伊藤忠商事 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第10回 | 第10回 鉄鋼メーカーの国際戦略：日本製鉄 vs. 韓国浦項 総合商社の歴史的経緯と現状、鉄鋼メーカーの国際競争について、事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第11回 | 第11回 小売産業の盛衰とグローバル化：楽天 vs. アマゾン 百貨店、スーパー、コンビニの経営動向について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第12回 | 第12回 まとめ1 第1～12回の講義について総括する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第13回 | 第13回 まとめ2 第1～12回の講義について総括する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第14回 | 第14回 レポートのフィードバック | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 | | | 60 | |

| |
|---|
| <p>〔授業の方法〕 本講義で扱うすべての産業を網羅する教科書はないので、適宜、参考図書を紹介しながら、ハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。講義では冒頭に Python を用いる Quiz (0~5 点) を実施します。14 回の講義において、プログラミング言語 Python を用いた 1 頁のレポートの課題提出を（3回）求めます。 Python の使用方法は第 1 回～3 回までで詳細を説明します。 昨年度のレポートテーマは次の通りです。 第1回 自動車企業の競争戦略の分析：マーケット・セグメンテーション vs. 価格差別化戦略 第2回 メガバンクのビジネス・モデル分析：金融業者の生産関数の推計 第3回 企業財務分析のデータサイエンス QUIZ の回答を以って出席とし、対面教室では出席は採りません。第 1 回オリエンテーションにおいて履修者の希望が多ければ、MS Stream による収録動画の配信も検討します。</p> |
| <p>〔成績評価の方法〕 (A)Quiz 40% (MS Forms を通じての QUIZ の回答を以て出席とします。教室では出席は採りません) (B)レポート（3回程度） 60% (Python を用いた企業戦略分析、株価・財務分析などを予定。) に基づいて最終成績を算出する。</p> |
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 クロ経済学、国際経済学を履修済みであること。プログラミング言語 Python を用いた実証分析を行うため、Windows を OS とする PC が利用可能であること。OS は Mac でも構わない。</p> |
| <p>〔テキスト〕 ハンドアウトを配布する。</p> |
| <p>〔参考書〕 中西孝樹著『トヨタ対 VW』日本経済新聞出版社 永井隆著『サントリー対キリン』日本経済新聞出版社 その他、適宜、指定します。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は教室でのみ受け付けます。水曜 3 限のオフィスアワーでも構いません。メールやチャットでの質問は回答しないので注意してください。</p> |
| <p>〔特記事項〕 コンサルティング企業勤務歴 17 年の実務家教員によるアクティブ・ラーニング授業。</p> |

| 科目名 | 組織の経済学 | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|---|------|------------|------|---------|
| 教員名 | 内田 潤 | | | | | | |
| 科目No. | 121360400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 経営学では組織の生産性に関する議論が広くさかんに行われてきたが、統計学の手法を用いた実証的な研究を除いて数理的に行われることは珍しかった。組織の経済学は経済学の理論体系を活用し、主として数理的な方法を用いて組織内と組織間で生じる非効率性や組織の規模に関する諸問題について分析を行おうとするものである。 本講義ではゲーム理論やその他の経済学の理論的枠組みを用いてそれらの問題がなぜ起きるか、どのように対処できるのかについて説明を試みる。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）とDP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 1. 組織の経済学の基礎的な理論を修得する。 2. 組織にまつわる問題を組織の経済学の基礎的な理論に基づいて的確に分析し、問題の解決に向けた議論を論理的に行うことができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | |
| 第1回 | 「イントロダクション／ガイダンス」 組織の経済学の理論を概観する。また、講義の進行や成績評価の方法などについて伝える。 | シラバスを事前に読む。 | | | 60分 | | |
| 第2回 | 「戦略形ゲームと支配戦略均衡」 戦略形ゲームについて説明し、支配戦略均衡の求め方を学ぶ。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第3回 | 「戦略形ゲームにおける純粋戦略ナッシュ均衡とパレート効率性」 戦略形ゲームにおける純粋戦略ナッシュ均衡の求め方を学ぶ。また、ゲームの結果の効率性をテストする方法としてパレート効率性という概念を紹介する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第4回 | 「チーム生産と報酬分配制度」 チームで生産活動を行う場合において、報酬分配の制度の違いがチームの生産性にどのような影響を及ぼすか考察する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第5回 | 「コーディネーション問題」 組織内、あるいは組織間で起こりうるコーディネーション問題について考える。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第6回 | 「展開形ゲームとリーダーシップ」 展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡について説明する。展開形ゲームの導入により、コーディネーション問題がリーダーシップにより解決する場合があることを確認する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第7回 | 「ホールドアップ問題」 被雇用者や下請け業者などがしばしば直面するホールドアップ問題について考察する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第8回 | 「繰り返し囚人のジレンマゲーム」 囚人のジレンマゲームが繰り返されるような展開形ゲームを考える。このとき、有限回繰り返される場合と無限回繰り返される場合の部分ゲーム完全均衡についてそれぞれ分析する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第9回 | 「繰り返しゲームと長期的な信頼関係」 前回に引き続き、繰り返しゲームの分析を行う。無限回繰り返しゲームでは一定の条件のもとで長期的な信頼関係が維持され、ホールドアップ問題が回避される場合があることを確かめる。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第10回 | 「不完全情報ゲームとプリンシパル・エージェント問題の導入」 不完全情報ゲームについて解説し、プリンシパルがエージェントの努力を客観的に知ることができないときに生じる問題を分析する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第11回 | 「プリンシパル・エージェント問題と契約（1）」 十分に整備された法制度のもとで適切な契約を結ぶことによりプリンシパル・エージェント問題を解決できる場合があることを確かめる。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第12回 | 「プリンシパル・エージェント問題と契約（2）」 プリンシパルがエージェントの努力を客観的に知ることができない状況でも適切な契約によりプリンシパル・エージェント問題を解決できる場合があることを確かめる。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第13回 | 「水平的統合と垂直的統合」 企業が内製化や買収・合併を行うのはどんな場合か？ 二重マージンモデルを使って考える。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習し、宿題を提出する。 | | | 90分 | | |
| 第14回 | 「発展的なトピックスと講義全体のまとめ」 授業に関係する発展的なトピックスを紹介した後、講義全体の内容を総括する。 | 配布資料を事前に読む。 授業後に復習をする。 | | | 60分 | | |

〔授業の方法〕

授業は毎回配布する資料に基づき講義を中心に進められる。配布資料は CoursePower 上に授業の 1 週間前をめどに配布する予定なので、事前にダウンロードして予習し、授業中には資料を参照できるように準備しておくこと。授業中は LINE オープンチャットで随時質問が可能である。原則として毎回宿題を課す。宿題の提出期限は原則として次回授業の開始時刻までとする。宿題の内容や提出期限などの宿題に関する詳細は講義の中で説明する。期末試験や到達度確認テストは実施せず、宿題以外のレポートは課さない。原則として毎回課される宿題では CoursePower 上で採点・添削を行う。これにより学生の学習状況を確認しつつ宿題の内容に対するフィードバックを行い、学習内容の定着を図る。また、講義内容を録画した動画を配信することで学生による自主的な復習を促す。これらの方法により、e-ラーニングを活用した自主学習支援を行う。なお、受講生の关心事や能力などに応じて学期中に講義の内容や授業計画などを変更する場合がある。その場合は授業時間中に、あるいは LINE オープンチャットにて周知する。

〔成績評価の方法〕

成績評価は授業への積極的参加に対する評価（30%程度）と期限までに提出された宿題の内容に対する評価（70%程度）によって構成される。ただし、括弧内は成績評価の割合である。

授業への積極的参加に対する評価は次の 2 点が重視される。

1. 宿題が提出期限までに指示通りに提出されているか。
2. 提出された宿題への解答が誠実に行われているか。
(例えば、宿題が半分以上解答されていない場合には不誠実とみなす。)

なお、宿題の解答に際して不正が行われた証拠を見つけた場合には当該科目的成績評価を F

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の 2 点を判断基準にして、これらの達成度により評価する。

1. 組織の経済学の基礎的な理論・知識について十分な理解があるか。
2. 組織にまつわる問題を組織の経済学の基礎的な理論に基づいて的確かつ論理的に分析できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識：ナッシュ均衡などのゲーム理論に関する基礎的な知識

先修科目：「ゲーム理論」

関連科目：「情報の経済学」、「産業組織論 A」、「産業組織論 B」、「労働経済学」

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

次の 3 つの書籍を参考書とする。

『組織の経済学』、ポール・ミルグロム／ジョン・ロバーツ、1997 年、NTT 出版、ISBN：9784871885362。

『組織の経済学』、伊藤秀史／小林創／宮原泰之、2019 年、有斐閣、ISBN：9784641165502。

『組織の経済学のフロンティアと日本の企業組織』、新原浩朗、2023 年、日経 BP、ISBN：9784296113859。

ただし、いざれも購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

質問や相談は随時 LINE オープンチャットか E メールで受け付けるほか、授業後であれば教室でも受け付ける。

LINE オープンチャットへの参加方法は第 1 回の講義で紹介する。

メールアドレスは第 1 回の講義で周知するが、講義資料の表紙などからも確認できるようにする。

〔特記事項〕

ICT 活用

| 科目名 | | 労働経済学 | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|---|--|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 北條 雅一 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 この授業は、労働経済学の基本的な考え方を学び、その考え方に基づいて現実の労働市場を理解することを目的としている。講義の前半では、労働者の意思決定（働くか働かないか、どのぐらい働くか、労働以外の活動とのバランスをどうするか、結婚するかしないか）、企業の意思決定（どのぐらい従業員を雇うか、労働以外の投入要素とのバランスをどうするか、雇用の調整）、失業（失業とは何か、なぜ失業が発生するか、失業対策）、最低賃金（最低賃金とは何か、最低賃金の効果）などについて解説する。後半では、日本の雇用慣行、女性・若者の働き方を題材としながら、日本の労働市場の特徴についての理解を深める。授業は、理論と実証をセットにして進め、授業の計画に沿って講義を行う。なお、授業の進捗等によって、内容を一部変更する場合がある。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1-1（専門分野の知識・技能を修得）およびDP2-1（広い視野で試行・判断を行う）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①労働供給・労働需要・失業など、労働経済学の基礎的な考え方を理解し、説明できる。 ②労働経済学の考え方を現実の労働市場に応用することができる。 ③日本の労働市場の歴史と現状について理解し、説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する ・日本の労働市場を概観する | | | 【予習】シラバスを熟読する。労働市場に関する最近の新聞記事等を探し、目を通す | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 労働供給の理論（1） ・労働供給の基本モデル | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた安藤（2015）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 労働供給の理論（2） ・比較静学 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた安藤（2015）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 労働需要の理論（1） ・労働需要の基本モデル | | | 【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 労働需要の理論（2） ・雇用調整 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 失業 ・失業の発生要因 ・失業対策 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 最低賃金（1） ・最低賃金とは何か | | | 【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 最低賃金（2） ・雇用への影響 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 日本の雇用慣行（1） ・人的資本理論と年功賃金 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口（2013）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 日本の雇用慣行（2） ・若者への影響 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口（2013）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 女性の働き方（1） ・歴史と現状 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた川口編（2017）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 女性の働き方（2） ・男女雇用機会均等法の効果 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた川口編（2017）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 若者の働き方 ・若年者雇用問題とは何か ・労働市場の世代効果 | | | 【予習】事前配布資料を熟読する。参考書で挙げた濱口（2013）を読む。 【復習】キーワードについて説明できるようにする。 | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業のまとめ、授業内試験 | | | 【予習】授業全体について復習する。 【復習】試験の解答について確認する。 | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業は対面の講義形式でおこなう。講義資料は事前に配布するので、授業前に予習をしておくこと。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | | |

期末試験 (60%), 各回の小レポート (40%) による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①労働需要や労働供給の決まり方、失業について、説明できる。
- ②日本の雇用慣行について理解し、それが女性や若者の働き方に及ぼす影響について、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

安藤至大『これだけは知っておきたい働き方の教科書』ちくま新書、2015年、ISBN-10: 4480068236、858円「購入の必要なし」

大森義明『労働経済学』日本評論社、2008年、ISBN-10: 4535555664、3520円「購入の必要なし」

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』有斐閣、2017年、ISBN-10: 4641165122、3960円「購入の必要なし」

濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ、2013年、ISBN-10: 4121504658、968円「購入の必要なし」だが購入を勧める

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 法と経済 | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|---|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 矢作 健 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360600 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 法と経済では、法律のような社会のルールに関する現象をミクロ経済学・ゲーム理論といった経済学の手法を応用して分析する学問分野です。この講義では、社会のルール（法律など）や法制度が社会の人々の行動（インセンティブ）に与える影響を明らかにし、その社会への影響を資源配分の効率性の観点から考察していきます。具体的には、所有権、契約法、事故法、訴訟に関する手続き、刑法などを取り扱いたいと思います。そして、実際にどのように社会のルールが作成され、適用されていくのかについても考えていただきたいと思います。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 本科目では、D P 1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下の到達目標の達成を目指す。 ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション ・法と経済学の概要の説明 | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第2回 | ミクロ経済学の考え方（1） ・ミクロ経済学の分析手法と社会厚生（効率性）の考え方を学ぶ | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第3回 | ミクロ経済学の考え方（2） ・市場の失敗とルール作りの必要性を学ぶ | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第4回 | 所有権の経済分析（1） ・所有権とは ・所有権が存在することの意義を考える | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第5回 | 所有権の経済分析（2） ・コースの定理とは ・公共の所有物・共有の財産の経済分析を紹介 | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第6回 | ゲーム理論の考え方 ・ゲーム理論の分析手法と均衡の考え方を学ぶ | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第7回 | 事故法の経済分析（1） ・事故が発生する際の賠償責任に関する諸ルールを紹介 | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第8回 | 事故法の経済分析（2） ・製造物責任法への応用 | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第9回 | 契約法の経済分析 ・契約の必要性とその与える影響を考える | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第10回 | 訴訟・法的手続きを経済分析 ・訴訟か和解を決定する要因を考える | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第11回 | 刑法の経済分析 ・犯罪抑止に関する経済モデルを紹介 | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第12回 | 独占禁止法の経済分析 ・独占市場（不完全競争）の影響を考える | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第13回 | ルール作りの経済分析 ・法やルールが決まっていく過程を政治的プロセスに着目して考える | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ | 予習：配布資料の確認 復習：授業内容の確認 | | | | 90分 | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で進めます。配布資料は担当教員が作成します。 学習内容の理解到達度確認のため、宿題または小テストと期末試験を行います。 内容や順序については受講者の要望や進捗に応じて変更することがあります | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 課題（宿題・レポートの提出）または小テスト 30%、学期末試験 70%で総合的に評価します | | | | | | | | | | | | | |

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。また、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の分析手法を身につけ、法と経済学の基本的な考え方を理解する
- ・実際の社会のルール・法律を自分自身で分析する力を身につける

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学系の知識があれば望ましいが、必要ではない

〔テキスト〕

教員が作成する配布資料をもとに講義を進めるので、テキストの購入は必要ないです

〔参考書〕

以下の本を参考にして配布資料を作成しますが、購入の必要はないです

- ・『法と経済学』 スティーブン・シャベル 田中亘・飯田高（訳） 、日本経済新聞出版社 (ISBN 978-4532405854)
- ・『The Economic Approach to Law, Third Edition』 Thomas Miceli, Stanford Economics and Finance (ISBN 978-1503600065)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 金融論 A | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------|-------------------------|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 鈴木 史馬 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360700 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 金融取引とは、現在利用する予定のない資源を所有する資金余剰主体と現在資源を利用したいが資源を所有していない資金不足主体が資源を融通し合う取引である。本科目では、金融取引に関する様々な仕組や機能を経済学に基づいて解説します。また、金融資産の価格の決定メカニズムや、金融機関の役割などについても解説します。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、以下を到達目標とする。 金融についての基本的知識を習得する。日々のニュース・新聞報道などで議論される金融機関や金融市場の動きや相互作用などが理解できるようになる事を目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス／金融の役割 ・講義計画の全体像を説明する。 ・金融取引の基本的な機能について説明する。 | | 金融の全体像を理解するよう復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 金融システム ・金融仲介の全体像である金融システムについて説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 日本の資金循環 ・資金循環統計を見ながら、日本の金融システムの全体像について説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 金融取引の基本 ・金利やリスクプレミアムなど、金融取引に際して重要な事項を説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(1) ・マクロ経済における貯蓄と投資の均衡について基本モデルを説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 金融市場の均衡から見た日本経済 ・金融市場の均衡の基本モデルを利用し、日本の資金循環について分析する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | これまでの理解度の確認 ・これまでの指定箇所を中心に学習内容についての到達度を確認するための小テストを行う。 ・テスト終了後、テスト内容についての解説や補足を行う。 | | 小テストに向けてよく復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(2) ・政府が国債を発行する場合の金融市場の均衡のモデルについて説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 日本の財政赤字と金融政策 ・政府部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本の財政赤字や金融政策に分析する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(3) ・海外との取引がある場合の金融市場金融市場の均衡のモデルについて説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 金融市場の均衡～貯蓄と投資の関係(4) ・海外との取引がある場合の金融市場金融市場の均衡のモデルについて説明する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 日本の金融収支 ・海外部門を考慮した金融市場の均衡のモデルを利用し、日本と海外の資金取引を分析する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 金融の基礎(1) ・講義では扱わなかった金融経済学上の重要トピックについて解説する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 金融の基礎(2) ・講義では扱わなかった金融経済学上の重要トピックについて解説する。 | | 授業内容を復習し、練習問題があればそれを解く。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 通常の講義形式で実施する。授業の進度に応じて授業内のテスト（到達度確認テスト等）の実施時期、回数は異なることもあります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験（60%）および平常点（40%）で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（100%）で成績評価する。 平常点は授業内に実施される到達度確認テストや数回の小テスト等の結果の合計です。 | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目 経済数理学科 「マクロ経済学 I・II」 現代経済学科 「初級マクロ経済学 I・II」 経済経営学科 「マクロ経済学入門 I・II」 関連科目 「金融論 B」があります。</p> |
| <p>〔テキスト〕 特に指定しない。</p> |
| <p>〔参考書〕 『日本経済新聞』。また、適宜紹介する。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> |

| 科目名 | | 金融論B | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|-----------------------------------|------|-----|-------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 鈴木 史馬 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121360800 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、マクロ経済学の応用分野として、国際貿易・国際金融のマクロ経済学的側面 (Macroeconomic Aspects of International Trade and Finance) と呼ばれる領域のテーマを扱います。特に、動学的なマクロ経済学の標準的な理論を復習しながら、それを国際経済でのマクロ経済現象の分析に応用する方法を紹介します。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1 (専門分野の知識・技能)、DP 3 (課題の発見と解決) を身に着けるために実現するため、以下を到達目標とする。 1. マクロ経済学の応用領域として、国際的な経済現象をマクロ的に理解・描写できるようになる。 2. マクロ経済学の国際的テーマとして、その背景と意味を理解できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | | | | | | | |
| 第1回 | マクロ経済学の基礎(1) 国民経済計算から国際収支統計 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | マクロ経済学の基礎 (2) マクロ経済モデルの基本構造 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 代表的家計の最適化行動 (1) 無差別曲線と予算制約 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 代表的家計の最適化行動 (2) 最適化行動 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 交換経済 2期間一般均衡モデル～閉鎖経済の均衡 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 為替レートの考え方～金利平価と購買力平価 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 開放交換経済 2期間一般均衡モデル(1) 国際的な金融市场が完全な場合 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 開放交換経済 2期間一般均衡モデル(2) 国際的な金融市场が不完全な場合 | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 企業の最適化行動 利潤を求める生産活動を行う企業の行動を説明する | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 政府 政府支出を行い課税し国債を発行する政府行動を説明する | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(1) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(2) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 開放生産経済 2期間一般均衡モデル(2) | | 事前に配布される講義ノートを読む。必要に応じて動画教材を視聴する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 授業のまとめ | | これまでの授業内容をよく復習する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・小テスト等を実施したりします。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験を実施する場合：学期末試験(60%)、平常点（毎回の提出課題等）(40%)で成績評価する。 学期末試験を実施しない場合：平常点（毎回の提出課題等）(100%)で成績評価する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | | |

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価します。

1. マクロ経済学の基礎的理解を踏まえたか。
2. 国際マクロ経済学の主要テーマについて、基本的理解ができている。
3. 発展的テーマへの考察ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：

経済数理学科 「マクロ経済学I・II」「金融論」など

現代経済学科 「初級マクロ経済学I・II」「金融論」など

経済経営学科 「マクロ経済学入門I・II」「金融経済学」

〔テキスト〕

適宜、指定する。

〔参考書〕

適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | ファイナンスA | | | | | | |
|--|---|---|----|------|-------------|------|---------|
| 教員名 | 永野 譲 | | | | | | |
| 科目No. | 121360900 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義は、教科書に沿って、現代ポートフォリオ理論、CAPM 理論、モンテカルロ・シミュレーション、債券投資理論などを講義します。 講義の内容は、上記の現代証券投資理論の解説に加え、Python によるこれらの理論実装を説明します。 講義では、前半45分に現代ファイナンス理論の解説を行い、後半45分は Python による株価日次データ分析、CAPM 理論の実装、効率的フロンティアの導出デモを実施します。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1 (専門分野の知識・理解)、DP2 (教養の修得)、を実現するため、以下を到達目標とする。 到達目標1: pandas と numpy によりマーケットデータのハンドリングと記述統計を分析することができる。 到達目標2: 株価日次データを用い、効率的フロンティアと最適資本構成の算出が可能となる。 到達目標3: 株価日次データを用い、モンテカルロ法や機械学習により株価や為替レートの予測ができる。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | |
| 第1回 | 第1回 ガイダンス／Python による API を用いたデータ取得 pandas と numpy を用いた株価リターンとリスクの算出方法について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第2回 | 第2回 現代ポートフォリオ理論のデータサイエンス (Python 編) 株価データを用いた効率的フロンティアの導出方法を解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第3回 | 第3回 CAPM 理論のデータサイエンス (Python 編) CAPM 理論についてプログラミング事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第4回 | 第4回 マルチファクター・モデルへの拡張 (Python 編) ベータ値、規模効果、バリュー効果についてプログラミング事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第5回 | 第5回 株価の予測：モンテカルロ法と時系列モデル (Python 編) 株価データを用いたモンテカルロ法と時系列モデルによる株価予測を解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第6回 | 第6回 デリバティブ取引の理論と実装 (Python 編) 先物取引、オプション取引、スワップ取引についてプログラミング事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第7回 | 第7回 中間まとめ 第1～6回の内容について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第8回 | 第8回 債券投資理論の実装 (Python 編) 債券価格と利回り、コンベキシティ等についてプログラミング事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第9回 | 第9回 金利の期間構造と金利変動モデル (Python 編) 金利変動モデルについて、パラメトリック・モデルと確率論モデルをプログラミング事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第10回 | 第10回 為替レート決定理論×機械学習 (Python 編) 為替レート決定理論について解説し、現状と展望を議論する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第11回 | 第11回 イベントスタディと株価効果 (Python 編) イベントスタディの手法について解説し、M&A の株価効果をプログラミングにより計測する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第12回 | 第12回 企業財務データの分析手法 (Python 編) パネルデータを用いる企業財務分析について、python を用いる事例を解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |
| 第13回 | 第13回 まとめ① 第1～12回の講義についての理解度確認を行う。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | 60 | | | | |

| | | | |
|--|--------------------------------------|------------------------------------|----|
| 第14回 | 第14回 まとめ② 第1~12回の講義についての理解度確認を行う。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 | 60 |
| 〔授業の方法〕 下記に示す教科書を用いて講義を進める。資料は適宜、ポータルサイトを通じて配布します。本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回最後の、20分程度、クイズ（小テスト）を実施し、これを出席点とします。このため対面教室ではPCは必携です（自宅・学外からのQUIZの回答も可）。レポート作成に必要なPythonを用いた分析手法は各回講義時に詳細を説明します。 | | | |
| 〔成績評価の方法〕 学期末試験は実施しないため、平常点（40%）とレポート（60%）で成績評価します。 QUIZを毎回実施し、これを以て出席点とする。教室での出席は採りません。 レポートは①主要銀行の β 値の算出、②モンテカルロ法による日経平均株価の予測、③日本株・日本国債・米国株・米国債の最適資産構成の算出、を予定。pythonの使用方法は第1~13回において全て説明します。 | | | |
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価します。 | | | |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特にありません。基礎から説明します。 | | | |
| 〔テキスト〕 永野 譲『Pythonで学ぶファイナンス論×データサイエンス』朝倉書店 2023年 | | | |
| 〔参考書〕 なし | | | |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は教室またはオフィスアワーで対面の場合のみ受け付けます。メールやチャットでは質問しないこと。 | | | |
| 〔特記事項〕 コンサルティング企業17年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。 | | | |

| 科目名 | ファイナンスB | | | | | |
|---|---|---|---|------|------------|------|
| 教員名 | 永野 譲 | | | | | |
| 科目No. | 121361000 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 |
| 〔テーマ・概要〕 本講義は、Rにより現代ポートフォリオ理論、CAPM理論の実装を説明する。加えて、ミクロ経済学・マクロ経済学の理論を土台として、現代の金融産業、金融システムがどのような歴史的経緯を経て現状があるのか、事例を踏まえながら解説する。講義の内容は、銀行業、証券業、保険業等の産業別の解説の他、金融資本市場のマイクロストラクチャを解説する。 | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）、DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。経済学部教育では、マクロ経済学・ミクロ経済学の学習と理解が必須とされる。本講座は、こうした経済学理論を応用し、現実の金融業、金融システムに関する専門知識を理解することで、経済学理論の妥当性、経済学理論が未だ研究として踏み込んでいない領域を理解することを目標とする。 | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | |
| 第1回 | 第1回 ガイダンス/Rを用いたファイナンス・データ取得 Rによるファイナンス理論実装後、銀行の経営戦略、国際展開について事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第2回 | 第2回 株価の記述統計とリターン・リスク（R編） Rによるファイナンス理論実装後、不完備契約について事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第3回 | 第3回 株式投資のリスク：共分散と相関係数（R編） Rによるファイナンス理論実装後、情報の非対称性について事例を交えて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第4回 | 第4回 外国為替リターンとボラティリティ（R編） Rによるファイナンス理論実装後、都市銀行・地方銀行の経営環境、国際戦略の現状について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第5回 | 第5回 現代ポートフォリオ理論のデータサイエンス（R編） Rによるファイナンス理論実装後、間接金融の仕組み、経営状況と国際戦略について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第6回 | 第6回 CAPM理論のデータサイエンス①（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金融機関の歴史と現状について財務データを用いて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第7回 | 第7回 中間まとめ 第1～6回の内容について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第8回 | 第8回 CAPM理論のデータサイエンス② Rによるファイナンス理論実装後、金融資本市場の歴史と現状について財務データを用いて解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第9回 | 第9回 CAPM理論のデータサイエンス③（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金融システムのリスクと制度について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第10回 | 第10回 割引現在価値の算出と使い方（R編） Rによるファイナンス理論実装後、金利形成と資産価格の理論について解説し、現状と展望を議論する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第11回 | 第11回 イールドカーブと長期金融市場（R編） Rによるファイナンス理論実装後、企業金融と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第12回 | 第12回 資産運用と市場 家計部門の貯蓄と直接金融市場がもたらす経済面への影響について解説する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第13回 | 第13回 バブル・デフレと金融政策 第1～12回の講義について総括する。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 【復習】講義で配布されたハンドアウトを用いて、講義の内容を再確認すること。 | | | 60 | |
| 第14回 | 第14回 到達度確認 第1～13回の講義についての理解度確認を行う。 | 【予習】すでに履修したミクロ・マクロ経済学の内容を確認しておくこと。 | | | 60 | |

| |
|--|
| <p>〔授業の方法〕 下記に示す教科書を用い、かつハンドアウトを中心に講義を進める。資料は、ポータルサイトを通じて配布する。本講義では、前回の講義の理解度確認のため、毎回最後の、20分程度、クイズ（小テスト）を実施し、これを出席点とする。レポート作成に必要なRまを用いた分析手法は第1回～3回の講義において詳細を説明する。</p> |
| <p>〔成績評価の方法〕 学期末試験は実施しないため、平常点（40%）とレポート（60%）で成績評価する。 Course PowerによるQUIZを毎回実施し、これを以て出席点とする。対面教室では出席は採らない。 レポートは①メガバンクの株価、②主要銀行のβ値の算出、③企業財務分析、を予定。Rの使用方法は第1～3回まで全て説明する。</p> |
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学、マクロ経済学を履修済みであること。</p> |
| <p>〔テキスト〕 村瀬英彰著『新エコノミクス金融論』 日本評論社</p> |
| <p>〔参考書〕 永野 譲著『Pythonで学ぶファイナンス論×データサイエンス』朝倉書店 2023年</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問は教室、オフィスアワーの対面のみ受け付けます。メール、チャットでは受け付けないので送信しないこと。</p> |
| <p>〔特記事項〕 コンサルティング企業17年の実務経験を持つ教員によるアクティブ・ラーニング授業。</p> |

| 科目名 | | 国際金融論 | | | | | | | | | | | |
|--|---------------|-------|---|---------------------------------|-----|------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 大野 正智 | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121361100 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 一国で起きた出来事の影響は国内だけに留まらず、瞬時に全世界に波及してしまう世の中です。もはや日本の経済問題を国内だけで論することはできません。グローバル化の現代社会にあって、日本ならびに世界で起きている経済現象を単なる事例としてだけとらえるのではなく、論理的・体系的に理解するにはどうしたらよいかについて、経済学の観点から教養的内容を中心に紹介します。なお、授業の進捗によって、以下の計画内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）の修得を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 金融論の一領域として国際的な経済現象を理解し、文や図で説明できるようになる。 2. 國際金融における主要テーマについてその背景と意味を理解し、文や図で説明できるようになる。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | |
| 第1回 | 経済学における金融と国際 | | | ミクロ経済学とマクロ経済学の視点から金融と国際経済を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第2回 | 外国為替の仕組み | | | 外国為替の基本を理解する（1）。 | | | 60 | | | | | | |
| 第3回 | 外国為替相場 | | | 外国為替の基本を理解する（2）。 | | | 60 | | | | | | |
| 第4回 | 外国為替市場（1） | | | 外国為替市場を理解する、 | | | 60 | | | | | | |
| 第5回 | 外国為替市場（2） | | | 外国為替市場を理解する、 | | | 60 | | | | | | |
| 第6回 | 為替リスクとヘッジ手段 | | | 為替変動リスク回避の手段を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第7回 | 国際収支と対外資産（1） | | | 対外的な取引について、国際基準における記録方法を学ぶ。 | | | 60 | | | | | | |
| 第8回 | 国際収支と対外資産（2） | | | 対外的な取引について、国際基準における記録方法を学ぶ。 | | | 60 | | | | | | |
| 第9回 | 為替相場の決定理論 | | | 為替レートを理論的に理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第10回 | 為替相場とマクロ経済（1） | | | マクロ経済にとっての為替レートを理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第11回 | 為替相場とマクロ経済（2） | | | マクロ経済にとっての為替レートを理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第12回 | 国際通貨制度（1） | | | 制度面の史的展開を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第13回 | 国際通貨制度（2） | | | 制度面の史的展開を理解する。 | | | 60 | | | | | | |
| 第14回 | テクノロジーと金融 | | | 今後の金融・国際金融の行方を検討する。 | | | 60 | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 板書や配布プリントを通して主に講義形式で行います。配布プリントは授業予定の前日に CoursePower にアップします。欠席者はそこから入手してください。特に、第1回目は期末試験までの全体的計画についてシラバス更新版として配布プリントとともにお知らせしますので、第1回目欠席者は十分注意してください。 授業の進展に合わせて、理解力の向上が伴うよう、受講生に質問したり、クイズ・宿題等を実施します。 宿題は CoursePower を利用します。試験前は、再度、宿題を学習できるよう e-ラーニング を活用した自主学習支援を用意します。 講義は聴講だけでなくクイズ・テスト等の受験も受講の一部ですので、学内外からの受講形態にかかわらず、クイズ等を含め受講してください。なお、授業の進度に応じて、授業内でのテストの実施時期や回数が上記の計画とは異なることがあります。 | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 | | | | | | | | | | | | | |

宿題・授業内クイズ等 (50%)、学期末テスト (50%)

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度によって評価する。

1. 金融論の一領域として国際的な経済現象を理解し、文や図で説明できる。
2. 国際金融における主要テーマについてその背景と意味を理解し、文や図で説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

先修科目：経済学に関する1年次向け入門科目を履修済みが望ましい（例えば、経済学部以外の学生の場合、「経済学の基礎」が入門科目に相当します）。履修済みでない受講生は、同学期、あるいは、来学期以降に履修することを勧めます。

関連科目：社会理解実践講義（資本市場の役割と証券投資）履修済みでない受講生は、同学期、あるいは、来学期以降に履修することを勧めます。

〔テキスト〕

『新・国際金融のしくみ』、西村・佐久間著、有斐閣、2300円+税、ISBN:978-4-641-22168-0

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

ICT活用

| 科目名 | 財政学A | | | | | | |
|--|---|-------------------------------|---|------|-------------|------|---------|
| 教員名 | 内田 雄貴 | | | | | | |
| 科目No. | 121361200 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 前期 |
| 〔テーマ・概要〕 政府の活動は社会保障、公共事業、国防など多岐に渡り、多くの国において重要な役割を果たしています。財政学は、このような政府の経済活動について幅広く分析を行う学問です。本講義では、財政学の基礎について解説を行います。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P1 (専門分野の知識・理解) を実現するため、以下を到達目標とする。 ・政府の役割を説明できる。 ・政府の政策が経済に与える影響を理解する。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | |
| 第1回 | イントロダクション | 授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。 | | | 60 | | |
| 第2回 | 政府の役割 (1) ・経済における政府の役割について説明します。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第3回 | 政府の役割 (2) ・経済における政府の役割について説明します (続)。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第4回 | 財政制度 ・財政の仕組みと歴史について学びます。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第5回 | 公共財 ・「市場の失敗」にどう対処するかについて説明します。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第6回 | 租税(1) ・税の仕組みと原則を学びます。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第7回 | 租税(2) ・基幹税をどう設計するかについて説明します。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第8回 | 社会保障 (1) ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第9回 | 社会保障 (2) ・社会保障政策の世代間公平性と就業への影響を考えます (続)。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第10回 | 地方財政 (1) ・国と地方の財政関係を学びます。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第11回 | 地方財政 (2) ・国と地方の財政関係を学びます (続)。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第12回 | 異時点間の財政運営 (1) ・財政赤字の負担と発生原因を考えます。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第13回 | 異時点間の財政運営 (2) ・財政赤字の負担と発生原因を考えます (続)。 | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | |
| 第14回 | まとめ ・講義全体のまとめを行います。 | 授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。 | | | 90 | | |
| 〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。 | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60% | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『財政のエッセンス』、西村・宮崎、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 財政学B | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-------|--|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 中神 康博 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121361300 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 分権論議が高まる中で、都市・地方が今後どのようにしていくのか不透明な部分が多い。この講義は、都市・地方が抱える問題、とりわけ再分配に焦点を当てながら、経済学・経営学・政治学の立場から分析することを目的としている。取り扱うテーマは公共選択、再分配政策、地方税制、政府間財政関係、ニューバリックマネジメントなど。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、財政学、公共経済学など）、経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション： ・講義の目的と到達目標について ・消費者行動の理論の解説 | | 【復習】講義ノートをもとに余剰分析の考え方や無差別曲線などの概念を理解する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 市場の失敗I（外部性・公共財・地方公共財） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 公共選択I（多数決について） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 公共選択II（多数決が抱える問題） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 公共選択III（住民移動） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | コミュニティと再分配I（教育） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | コミュニティと再分配II（医療・介護） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | コミュニティと再分配III（公的扶助） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | コミュニティと税制I（問題の所在） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | コミュニティと税制II（固定資産税と所得税を中心に） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 政府間財政関係I（問題の所在） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 政府間財政関係II（地域間再分配について考える） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 公共と民間のあいだI（問題の所在） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | 公共と民間のあいだII（中間組織の役割について考える） | | 【復習】講義ノートを熟読し、論点整理を行う。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義を主体とし、小テストを数回行う予定である。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点（授業への取り組み、小テスト（3回行う予定））および期末試験で成績評価する。評価割合は、授業への取り組み方、小テスト、期末試験それぞれ10%、30%、60%を原則とする。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

到達目標である経済学と経営学にもとづいて都市や地方が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度に基づいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ミクロ経済学、マクロ経済学

〔テキスト〕
とくになし。毎回、講義ノートを配付する予定である。

〔参考書〕
必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 公共経済学 | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------------|-------|-------------------------------|------|-----|-------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 内田 雄貴 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121361400 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、経済において政府はどのような役割を果たすべきか、また、政府は期待される役割を果たすことができるのかについて、経済モデルを用いながら考えていきます。まず、市場の失敗を学び、政府の役割について検討します。次に、政策を決めるための政治過程を学習し、政府の役割の実行可能性について考えます。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P1 (専門分野の知識・理解) を実現するため、以下を到達目標とする。 ・経済において政府が果たすべき役割について説明できる。 ・政治過程を通じた政策決定について説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション | | 授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | モデル分析と社会的余剰最大化① ・社会的余剰最大化 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | モデル分析と社会的余剰最大化② ・需要曲線と供給曲線 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 市場の失敗 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 民主主義と社会的意思決定① ・アローの不可能性定理 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 民主主義と社会的意思決定② ・中位投票者定理 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | 間接民主制と選挙制度① ・間接民主制 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | 間接民主制と選挙制度② ・さまざまな選挙制度 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | 政治家の汚職① ・サブゲーム完全均衡 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 政治家の汚職② ・政治家のモラルハザード問題 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 政治家の資質① ・情報の非対称性下における均衡 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 政治家の資質② ・なぜ業績評価投票を行うのか | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 選挙運動 | | 講義資料を熟読し、キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ ・講義全体のまとめ | | 授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。 | | | 90 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60% | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の基準〕 | | | | | | | | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『私たちと公共経済』、寺井公子・肥前洋一、有斐閣ストゥディア（購入の必要なし）
『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』、浅古泰史、有斐閣（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 都市経済学 | | | | | |
|--|---|-------|---|--------------------------|-----|------|------------|
| 教員名 | | 中神 康博 | | | | | |
| 科目No. | 121361500 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 |
| 〔テーマ・概要〕 土地市場と住宅市場を中心に、都市における様々な現象を、経済学・経営学の立場から分析することを目的としている。土地や住宅は、通常の財とは異なり、消費財と投資財という性質を併せ持ち、空間というディメンションを持つ異質な財サービスである。土地・住宅市場がどのように機能するのか、他の財サービス市場と比較しながら分析を試みる。さらに、土地・住宅は、私的な財サービスという性質だけではなく、公共性という側面を持っているので、市場の失敗という観点からの分析も行う。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 経済学（ミクロ経済学、公共経済学、計量経済学など）と経営学（マネジメント、会計学など）の知識にもとづいて、土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることを目標とする。 | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） |
| 第1回 | イントロダクション ・講義の目的と到達目標 ・不動産市場の特徴について | | | 講義で配付される講義ノート#1を復習すること。 | | | 60 |
| 第2回 | 不動産市場と価格 ・家賃と住宅価格 ・地代と地価 ・不動産価格の推移 | | | 講義で配付される講義ノート#2を復習すること。 | | | 60 |
| 第3回 | 消費者行動の理論 ・無差別曲線の概念 ・効用最大化について 付け値地代について ・付け値地代とは ・付け値地代の性質 | | | 講義で配付される講義ノート#3を復習すること。 | | | 60 |
| 第4回 | 都市空間モデル① ・簡単な仮定のもとでの都市空間モデル ・家賃と地代の導出 | | | 講義で配付される講義ノート#4を復習すること。 | | | 60 |
| 第5回 | 都市空間モデル② ・土地の有効利用による家賃と地代への影響 ・居住選択とコミュニティ形成 | | | 講義で配付される講義ノート#5を復習すること。 | | | 60 |
| 第6回 | 資産としての土地 ・開発の最適なタイミング ・開発と地価との関係 | | | 講義で配付される講義ノート#6を復習すること。 | | | 60 |
| 第7回 | 住宅価格について ・ヘドニック分析について ・実際のデータに基づくヘドニック価格の推計 | | | 講義で配付される講義ノート#7を復習すること。 | | | 60 |
| 第8回 | 住宅価格について ・マクロ環境下における住宅価格の決まり方 ・マクロ環境の変化が住宅価格に及ぼす影響について | | | 講義で配付される講義ノート#8を復習すること。 | | | 60 |
| 第9回 | 住宅ファイナンス ・住宅ローンの解説 ・住宅ローンが住宅市場にもたらす影響について | | | 講義で配付される講義ノート#9を復習すること。 | | | 60 |
| 第10回 | 住宅保有と住宅投資 ・住宅梯子 ・持家か借家か ・リバースモーニング | | | 講義で配付される講義ノート#10を復習すること。 | | | 60 |
| 第11回 | 住宅市場とサーチ理論 ・サーチ理論 ・住宅価格の変動 | | | 講義で配付される講義ノート#11を復習すること。 | | | 60 |
| 第12回 | 土地利用規制について ・都市計画と土地利用規制 ・ゾーニングの影響 | | | 講義で配付される講義ノート#12を復習すること。 | | | 60 |
| 第13回 | 不動産税制について ・不動産税制の役割 ・不動産税制が住宅市場に及ぼす影響について | | | 講義で配付される講義ノート#13を復習すること。 | | | 60 |
| 第14回 | 住宅政策について ・現金給付と現物給付 ・需要サイド政策と供給サイド政策 | | | 講義で配付される講義ノート#14を理解すること。 | | | 60 |
| 〔授業の方法〕 授業は講義形式で行われる。 | | | | | | | |

経済

24/2/17 9 時 42 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への取り組み、小テスト（3回行う予定））と期末試験で成績評価する。評価割合は、授業への取り組み方、小テスト、期末試験それぞれ 10%、30%、60%を原則とする。

〔成績評価の基準〕

到達目標である経済学と経営学の知識にもとづいて、土地市場・住宅市場が抱える問題を自ら発見し、その解決策を考える力を身につけることができたかどうか、その達成度にもとづいて評価する。なお、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、公共経済学など。

〔テキスト〕

特に指定しない。毎回講義ノートを配付する予定。

〔参考書〕

必要に応じて授業の中で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

| 科目名 | | 教育経済学 | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------------------|-------|--|------|-----|-------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 内田 雄貴 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121361600 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 本講義では、個人が教育を受けるメリットや教育が社会・経済に与える影響について、経済学の観点から解説します。まず、人的資本論とシグナリング理論を説明し、「なぜ大学に通うのか」について考えます。次に、教育における政府の役割について検討します。そして、教育と所得格差の関係について考察します。なお、授業の進捗状況によって、内容を一部変更する場合があります。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 D P 1 (専門分野の知識・技能) を実現するため、以下を到達目標とする。 ・人的資本論とシグナリング理論を理解する。 ・教育における政府の役割を理解する。 ・教育と所得格差の関係を説明できる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修 (予習・復習等) | | | 準備学修の目安 (分) | | | | | | | | |
| 第1回 | イントロダクション | | 【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第2回 | 人的資本論 (1) ・教育の便益と費用 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第3回 | 人的資本論 (2) ・現在価値法 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第4回 | 人的資本論 (3) ・内部收益率法 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第5回 | 人的資本論 (4) ・内部收益率の計測 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第6回 | 人的資本論 (5) ・内部收益率と進学行動 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第7回 | シグナリング理論 (1) ・完全な資本市場 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第8回 | シグナリング理論 (2) ・シグナリング均衡の特質 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第9回 | シグナリング理論 (3) ・不完全な資本市場 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第10回 | 人的資本論とシグナリング理論の比較 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第11回 | 教育と政府の役割 ・政府介入の根拠 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第12回 | 教育と所得分配・社会階層 (1) ・教育と所得格差 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第13回 | 教育と所得分配・社会階層 (2) ・教育と格差の親子間継承 | | 【復習】講義資料を熟読。キーワードについて説明できるようにする。 | | | 60 | | | | | | | | |
| 第14回 | まとめ ・講義全体のまとめ | | 【予習】これまでの講義資料を熟読。 【復習】授業全体を振り返り、不明な点はないか確認する。 | | | 120 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 講義形式で授業を行います。授業内容の理解度を確認するために、小テストの実施または課題の出題を行います。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 平常点(小テストまたは課題)40%、期末試験 60% | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|--|
| 〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。 |
| 〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし |
| 〔テキスト〕 特になし |
| 〔参考書〕 ・『教育の経済学・入門 公共心の教育はなぜ必要か』、荒井一博、勁草書房（購入の必要なし） ・『教育を経済学で考える』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし） ・『教育の経済分析』、小塩隆士、日本評論社（購入の必要なし） ・『概説 教育経済学』、松塚ゆかり、日本評論社（購入の必要なし） |
| 〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 |
| 〔特記事項〕 |

| 科目名 | | 環境経済学A | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|------|-----|------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 教員名 | | 山上 浩明 | | | | | | | | | | | | |
| 科目No. | 121361700 | 単位数 | 2 | 配当年次 | 2年生 | 開講時期 | 2024 後期 | | | | | | | |
| 〔テーマ・概要〕 環境問題はさまざまな形態をとつてわれわれの生活の中に存在している。粉塵・煤煙や廃棄物などの地域的環境問題から、気候変動に代表される大域的環境問題に至るまで、これらすべての問題をヒトの経済活動と切り離すことはできない。そこで本講義では、これらの環境問題を経済学（理論モデル）の観点から考察する。前半は環境経済学の基礎理論として外部性について学ぶとともに代表的な経済的手法を紹介する。後半では、具体的な環境政策立案に関する障壁となる、情報の非対称や政治的な問題についても経済学を用いて考察する。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するために、以下を到達目標とする。 ①経済学的観点から様々な環境問題について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔授業の計画と準備学修〕 | | | | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業の計画・内容 | | 準備学修（予習・復習等） | | | 準備学修の目安（分） | | | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス&イントロダクション | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：レジュメ内でわからない用語や概念などを調べる。 | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第2回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 外部性(1) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第3回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 外部性(2) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第4回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 共有財とオープンアクセス(1) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第5回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 共有財とオープンアクセス(2) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第6回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 公共財(1) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第7回 | 1. 環境問題の原因とその対策： 公共財(2) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第8回 | 2. さまざまな環境政策： ボーモル・オーツ税(1) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第9回 | 2. さまざまな環境政策： ボーモル・オーツ税(2) | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第10回 | 2. さまざまな環境政策： 排出量取引 | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第11回 | 2. さまざまな環境政策： 非対称情報とワイヤーマン定理（価格 vs 数量） | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第12回 | 3. Current Topics 1 企業の社会的責任 | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第13回 | 3. Current Topics 2 気候変動の経済学 | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 第14回 | 総括 | | 予習：レジュメをDLし、印刷・目を通す 復習：自身でモデルを解く | | | 60~120分 | | | | | | | | |
| 〔授業の方法〕 対面形式で講義を実施する。CoursePowerを通じて資料を配布する。複数回の小テストが実施される。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 〔成績評価の方法〕 以下の評価手法と積極性を考慮して総合的に成績評価を行う。 点数=小テスト（30%）+期末テスト（70%） | | | | | | | | | | | | | | |

| |
|---|
| <p>〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. ①経済学的観点から環境問題と環境政策について整理してとらえることができる。 ②問題の解決法について、経済学的観点から論理的に導き出すことができる。</p> |
| <p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ミクロ経済学関連科目、環境問題に関する科目をすでに履修済みであることが望ましい。ただし、それと同等の知識があれば履修可能である。</p> |
| <p>〔テキスト〕 講義資料を各自シラバスでダウンロード・印刷トピック毎に下記の異なる参考書を用いる。</p> |
| <p>〔参考書〕 [1]日引聰・有村俊秀 (2023) 『入門 環境経済学 新版』中公新書 ISBN:4-12-1-1648-3, ¥900+tax [2]C. D. Kolstad (1999) Environmental Economics, Oxford University Press, (日本語版：細江守紀、藤田敏之(2001)『環境経済学入門』有斐閣) その他、講義内で紹介する。 尚、購入の必要はない。</p> |
| <p>〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。</p> |
| <p>〔特記事項〕</p> |